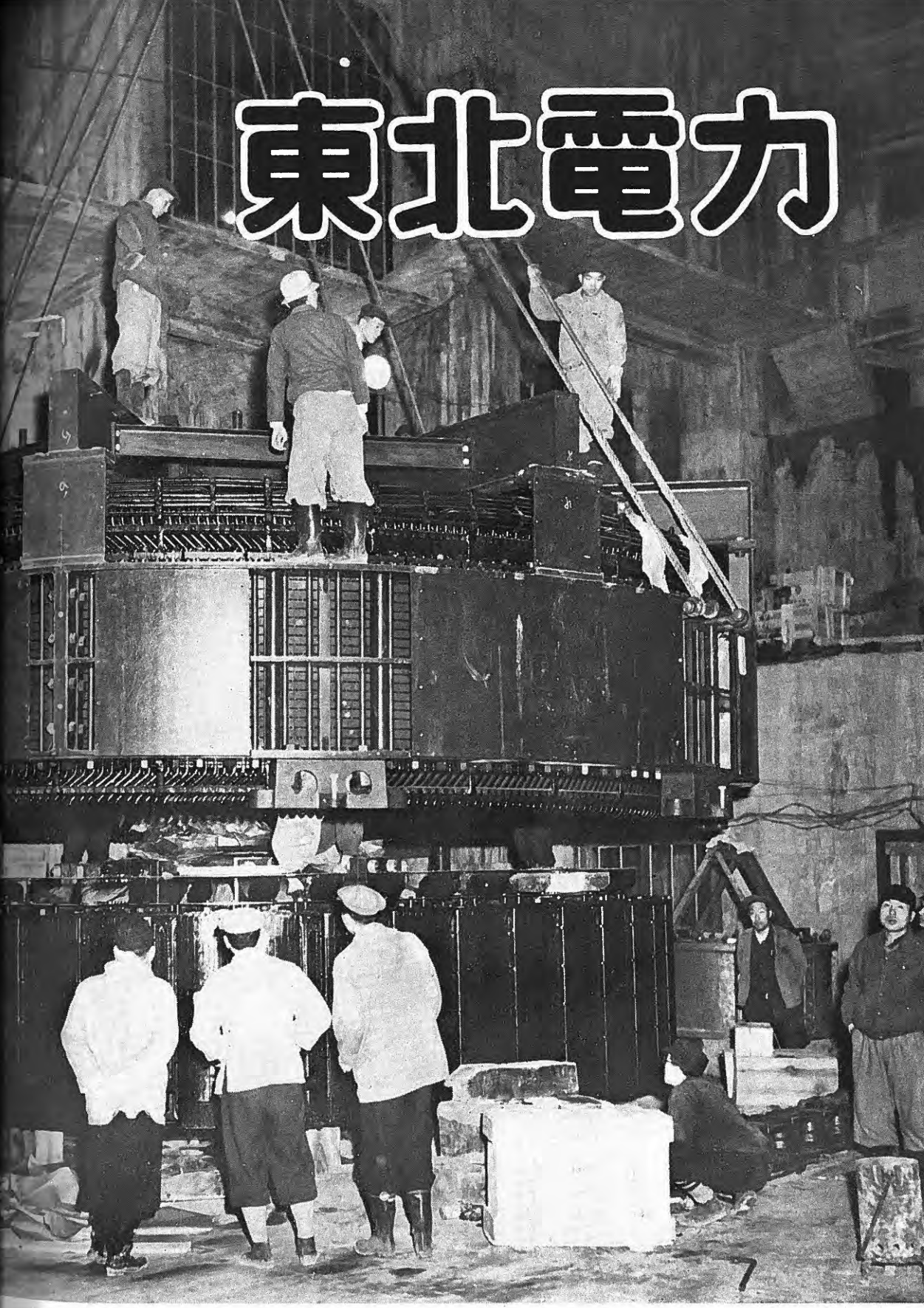
東北電力



東北電力株式会社社誌　No. 10　28. 3

東北電力 第10号 目次

—— 論　　説 ——

水槽碎雪機について …… 石郷岡勘三郎…(1)
コンクリートの電気養生
…… 三瓶友三・佐藤良四治…(5)
発電機過電圧抑制の考察 …… 伊藤信雄…(9)

—— 解　　説 ——

建設機械のしおり(II) …… 木原正明…(12)
職階級制度について(前) …… 労務課…(15)
農山漁村電気導入促進法について …… 普及課…(22)

支店だより …… (23)
本店ニュース …… (33)
東京通信 …… (40)

—— 文　　藝 ——

白洲さんと妙高 …… 草間源之進…(46)
雪の芸術祭 …… 越村正一…(47)
電気と雪について …… WHM…(48)
裸参り …… 竹原由雄…(49)
古い思い出 …… 佐鳥信愛…(51)
田沢湖と補償 …… 菅原利宣…(52)
短期員 …… 佐藤鉄歩…(54)
娘のユートピア …… 小林美智子…(55)
冬の句自解 …… 久保乙秋…(56)
馬は人が乗るように出来ている …… 松岡志郎…(57)
音楽雑感(II) …… 池田信夫…(59)
斎藤茂吉 …… 菅雄吉…(61)
創作・ゆきずり …… 稲野澄…(64)
創作・仙岩峠物語 …… 志和嘉兵工…(67)
短歌 …… 扇畑忠雄選…(73)
俳句 …… 遠藤梧逸選…(76)

建設だより …… 建設部庶務係…(71)
平営業所の概況 …… (32)
第1回全社スキー大会を見て …… 三宮秀夫…(35)
せせらぎ欄 …… (42)

カット …… 伊沢清・千葉草平子
表紙・片門發電所發電機据付作業 …… 倉林稔



本名発電所

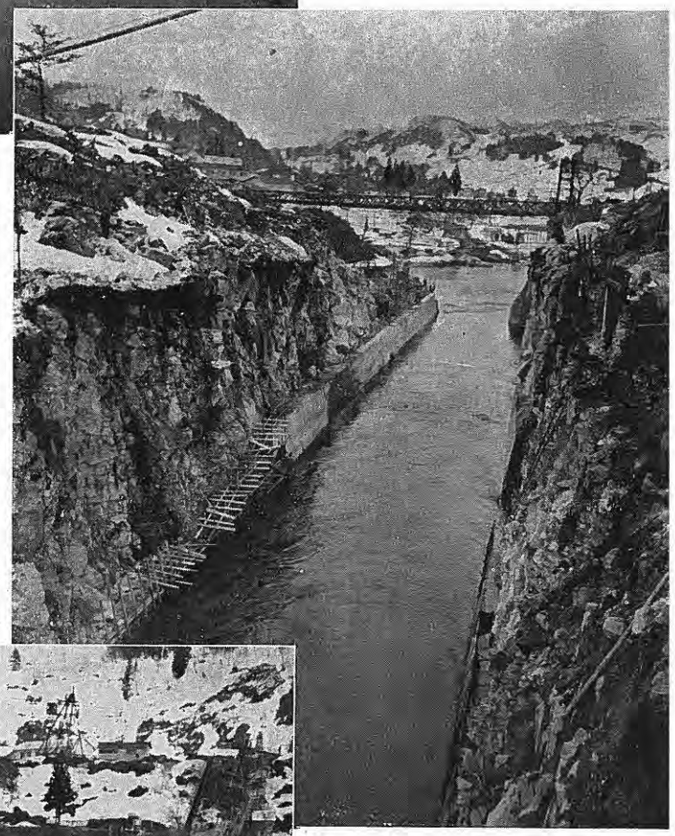
← 仮締切完成

排水路

↓

本名・上田

仮締切完成





上田発電所

← 仮締切完成

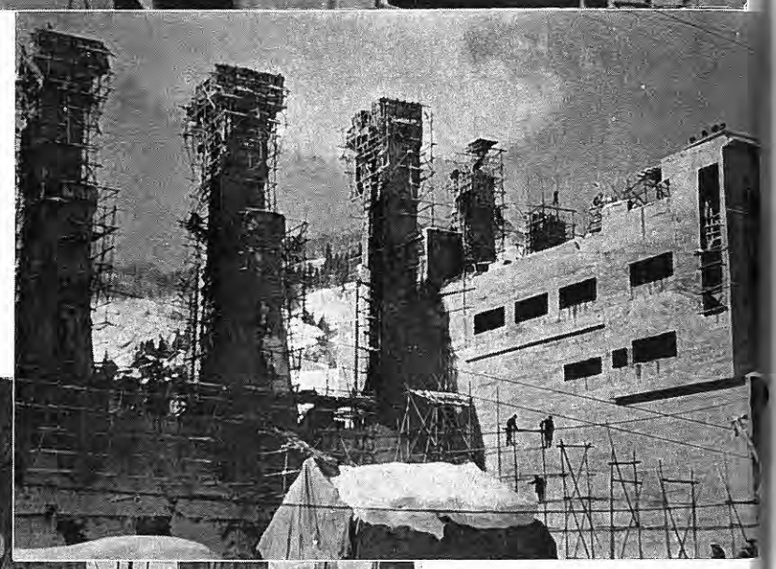


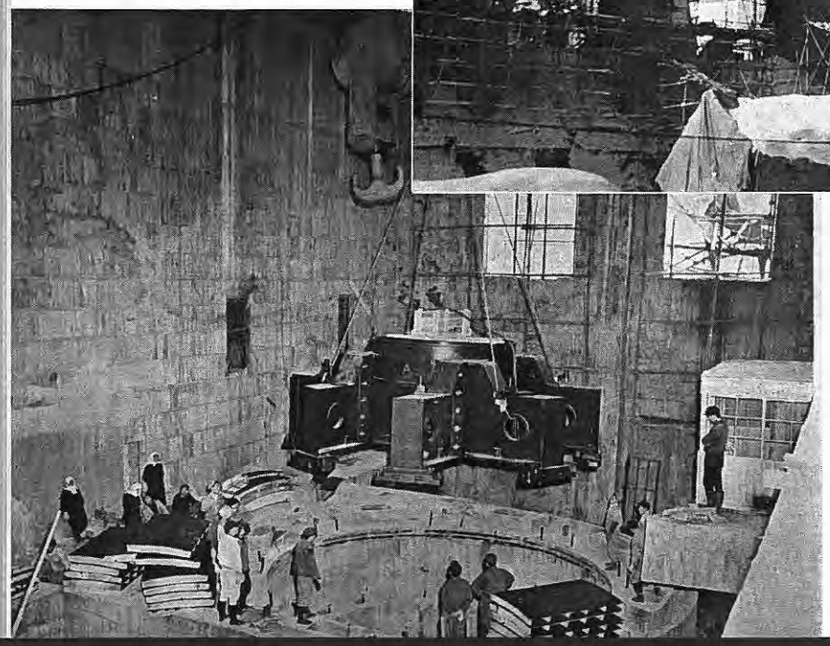
柳津・片門
竣工近し

柳津発電所

↑
大門扉

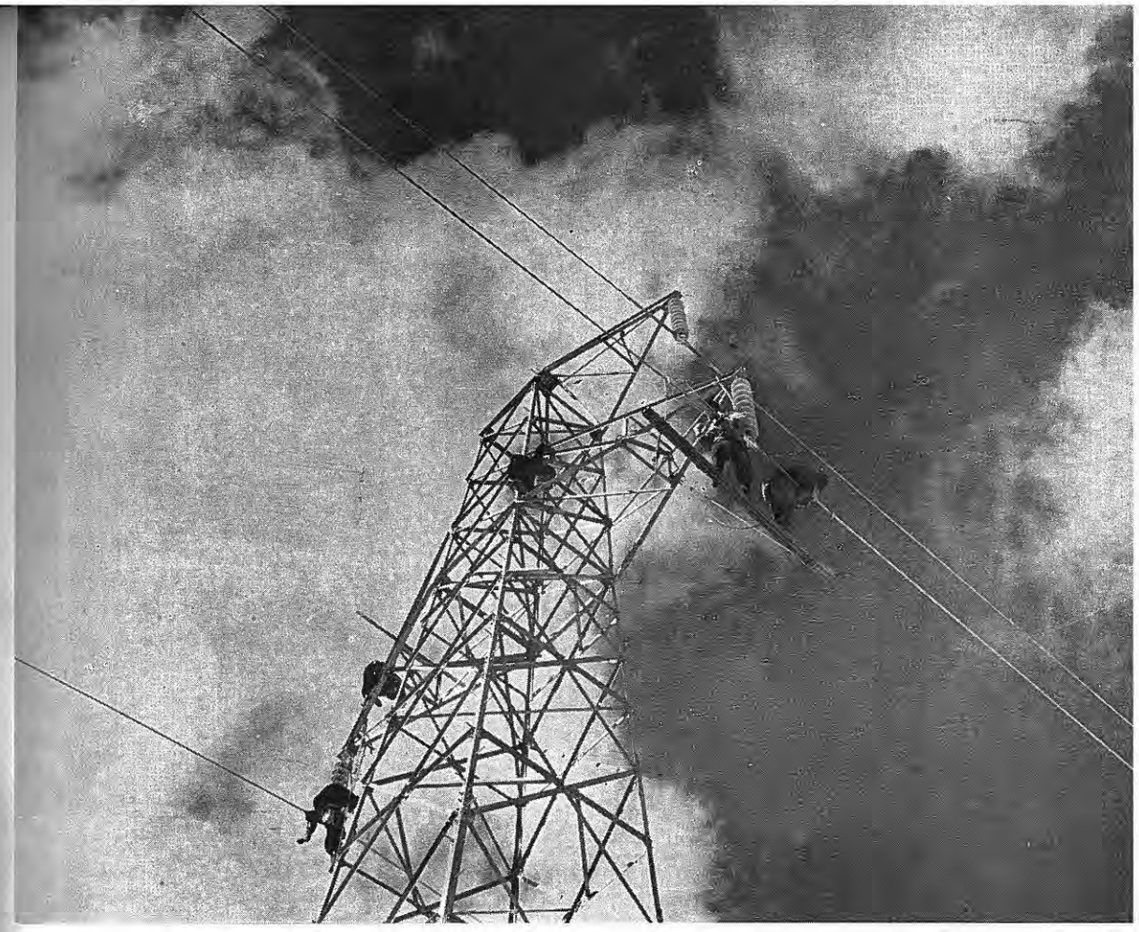
ピーアと本舘 →





片門発電所

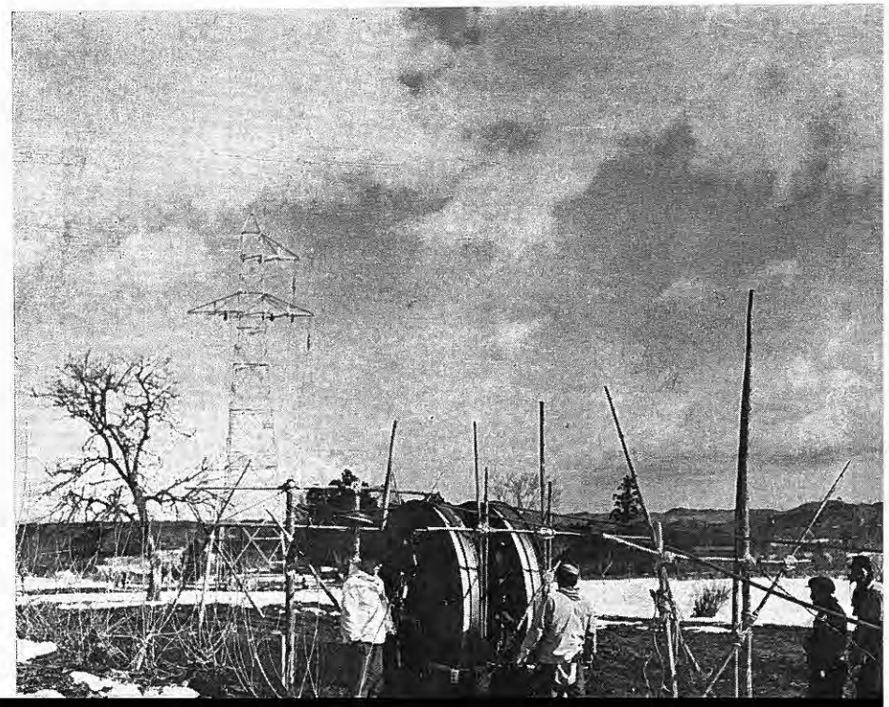
←発電機据付作業



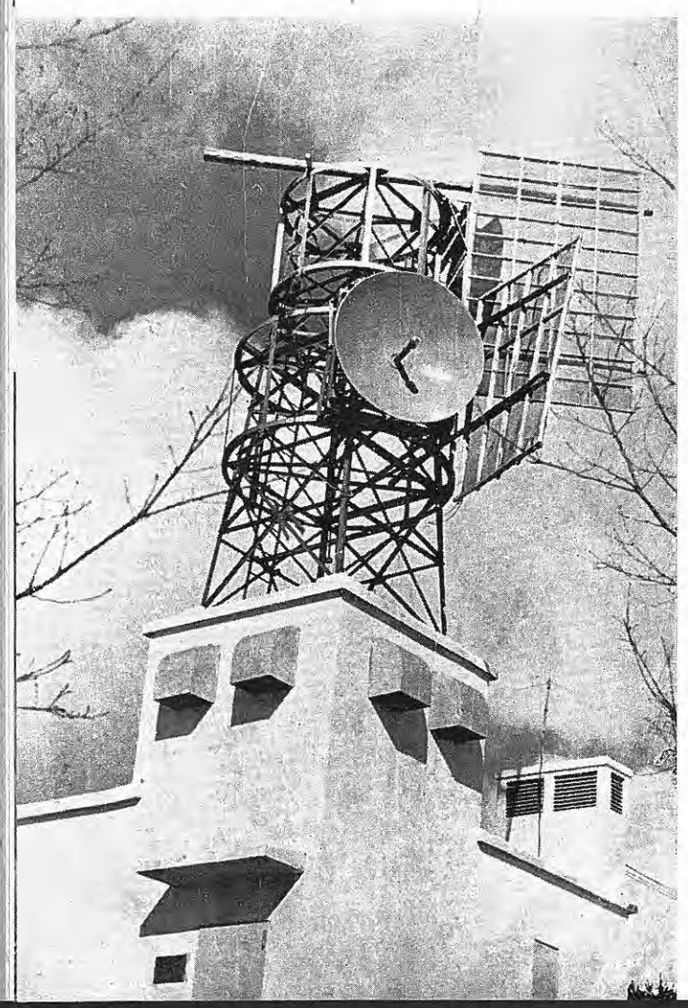
↑
架線作業

仙台盛岡線
第一期工事完了

延線車 →







五萬堂中繼所

仙台・會津間極超短波

通信開始

羽山中繼所

水槽碎雪機について

秋田支店　石郷岡勘三郎

本機は目下秋田支店管内湯瀬発電所に設置され流雪（スノージヤム）がスクリーンに附着し，流水断面を縮少するのを防止し，発電所の正常なる運転を確保するため，考案製作されたものであるが，本機考案の動機並に構造機能其の他について略記する。

（1） 考案の動機

湯瀬発電所は秋田県鹿角郡の東北端に位置し秋田県三大河川の一つである米代川に其の水源を有し，当管内に於ける雪害の最も多い発電所である。地理的にはいわゆる鉱山地帯で，附近には有名な湯瀬温泉があり，周囲には小坂，尾去沢，花岡等の諸鉱山がある。従つて取入口附近の山は，殆んど樹木なく，岩石地が多いので，冬季降雪期には大小の雪崩が瀕発する状態であり，地形が峡谷をなしている関係上北風の廻り路となり猛烈な吹雪をともない，流雪が取水口に殺到する現状である。一方取水口では渇水期に入つているため水位が低下しており，1 KW でも多く取水したい時期であるので，水量を制限して流雪を堰堤から溢流させることが出来ず，さりとてスクリーン台上に掬い上げても手の施し様もないので，そのまゝ荒目のスクリーンを通して導水路に入れるほかに致し方がない。この様に流雪が狭い水路内を陸続として流下し水槽に殺到してくるわけであるが，水槽のスクリーンは目が細かいので，流雪がスクリーンに附着し多い場合は極めて短時間で通水が不可能になるので，棒の先に木片を取付けた雪除け棒で間断なく碎雪し，同時に水槽角落しから貴重な水を放水し流雪を排除しなければならない。

特に多い場合は人力にも限度があるので発電所を停止して全水量を水槽溢流堤より放流して流雪を排除するが，過去の事例では一晩夜に10回以上も停めたことがある。この様なことは珍らしいことではなく，湯瀬に於ては屢々あることであり，荒天の場合損害が著しい。従つて従業員の苦労は実に深刻なもので，其の損失も亦莫大である。殊に水槽の直下が県道で其の直下を鉄道が通つていると云う環境にあるので，水槽余水路が流雪放流のため結氷し，暗渠断面が縮小して全負荷遮断の際は不測の重大事故が発生する恐れが多分にあり，曾つて鉄道当局からも警告を発せられていたもので，当所最大のガンであつた。電力は国の寶であり1 KW の水も無駄にしない様細心の注意を払つている折柄，この様な環境にある発電所では 200K Wもの水を無駄に放流しなければならぬとは誠に皮肉と云わざるを得ない。本機はこの様な悲惨な事実を解消して，流れる雪をも出力に代へ国の寶とするために考案されたものである。

（2） 完成迄の経過

構想は色々あつたが，雪除棒の上下運動によつて碎雪すると云う原始的な方法にヒントを得て第1回試作機は次の如きものであつた

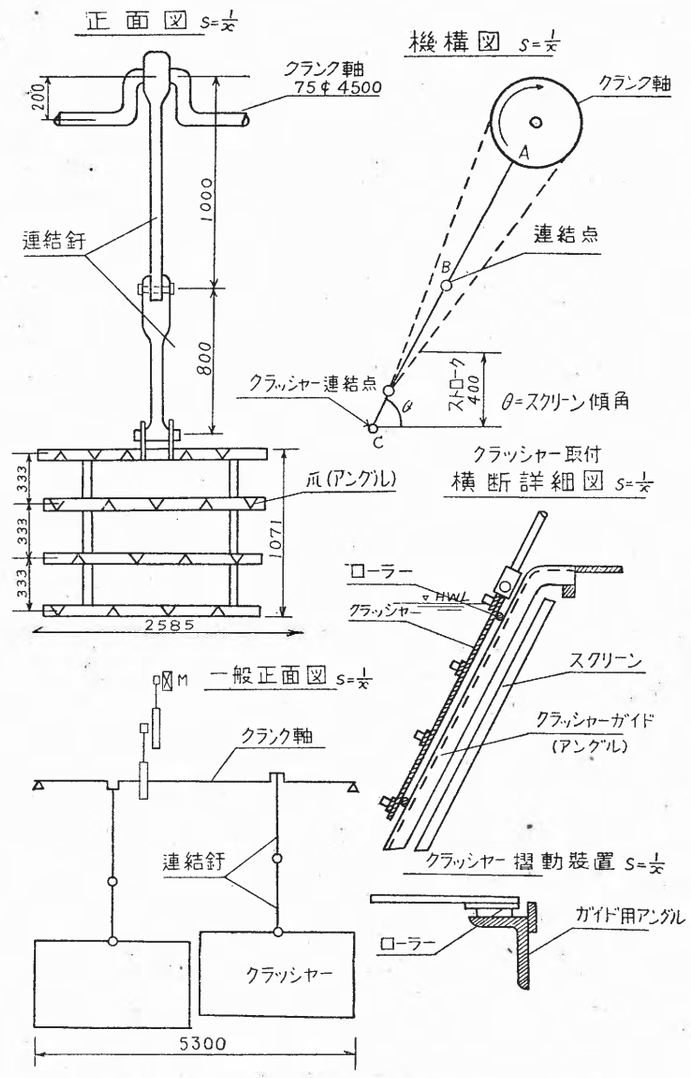
機構図の様に A，B，C をスクリーンの傾斜角と一致せしめ，ロッドを二つに分けて中間で連結し廻転せしめることゝした。これは図示の通り，クランク軸が廻転しA点に接近するに連れて，前面に押出す力が作用するので，クラッシヤーが前面に押出されるのを緩和し同時にA点より遠ざかるにつれてクラッシヤーを持ち上げる力を緩和するためである。問題はクラッシヤーであるが，スクーリン全面を二分し巾76mm×厚10mmの鉄板で枠を組みアングルの小片を熔接して爪を取付けた。この中で最も重要な部分はクラッシヤーの運動を円滑に行わしめるには如何にすべきであるかと云うことであつた。そこで摺動装置を図の如く設計して見た。即ちアングルをレールの代りとし，クラッシヤーの両端二ケ所にローラーを取付け位置を確保するため，鉄片をアングルの外側に熔接した。この様にして出来上つたクラッシヤー1台分の重量は約200kgである。勿論本機を製作する前にクラッシヤーの一部分を作製し，現場で人力を以つて試験して見たが，一応自信を得たので，昭和26年3月26日稟議決裁を得て製作を秋田市東海林鉄工所に依頼した。昭和26年12月完成したので工場内に足場を組み試運転をしたところ，ローラーの具合が悪いので改造し27年1月現場に取付け試験運転をした結果，水の為めにレールの取付が思う様に行かなかつたことゝ，クランク軸の受台が

木造で完全でなかつた点もあつたが，振動が大きく且つ水圧の為めにクラツシヤー中央部に約 5～10cm 程度のデフレクションを起し，ローラーが傾斜して円滑な運動が出来なかつた。然も爪のために流雪が跳ね上りクラツシヤー上部に附着してなかなか落ちない。又重いために取外しが困難である等実用には供し得ない実状であつたので，次の条件に適合する様なものを作るべく再考した。

①機構が極めて簡単であること。

②軽くて簡単に操作が出来ること。

以上は前回の失敗からの結論で，この条件を満足させるものでなければ実用にならないことを確認した。



第　1　図

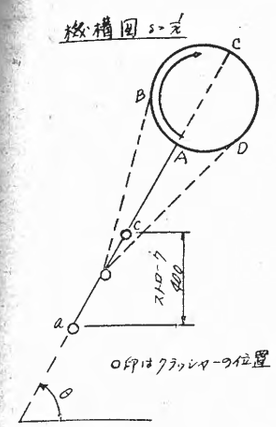
從つてこれらの条件を具備するためには，いたずらに複雑化することを避けて，原始的な方法を端的に採用して，之を機械的に動かすより外に方法がないと考え第二の試作機を次の様に設計した。(第2図)

機構としては図示の如くクランク軸にロッド（伸縮自在の二重鉄管）を連結し其の先端に木板の簡単なクラツシヤーを取付けたものである。茲で第1回試作機との異る点は，ロッドの中間に屈曲部を設けないことで，1本のロッドの先端に木板を固定したことである。と云うのは前回と違つてクラツシヤーの重量が問題にならぬ程軽いのでDからA迄の前方に押出さうとする力を相当の流速で流れて来る流雪の圧力で平衡をとる様に工夫しA，B，C方向の廻転に対しては，単に吊り上げる力だけが作用する様にして，スクーリン其のものには悪影響のない様にした。こうすれば雪除け棒の原理を機械的に動すことが出来るし，前掲①及②の条件を完全に満足することになると考えたので，上司に決裁を求めたところ幸い理解ある措置をいただき製作工場に改造を依頼した。

第2回試作機を図示すれば次の如くである。

クランク軸を中間2ヶ処で支えなければならないが，中間に支台を置くと作業に支差えがあるのでアングルを加工して上家の梁に取付け軸受けを設けた。

以上で構造の大要を記述したが，昭和28年1月8日発電所より水槽迄の配電用ケーブル架線完了と同時に試験運転をしたところ流雪中でもあつたので，①及②の条件を完全に解決し，その目的を達成し得たことを確認し現在そのまゝ使用中である。その后相当な流雪があつたそうであるが，溢流堤より溢流させる様なこともなく順調に活動しているとの現地よりの報告に接している。但し氷や硬質の雪は掻き上げなければならないが，これはクラツシヤーを改良することによつて，その目的を達成することが出来るものと信ずる。然し氷の流れるのは主として融雪期で期間も短かく量も少い。又硬質の雪



第　2　図

に到つては殆んど流れないと云つても良い。唯今后に残された問題は流雪の量の多寡であるが，果してどれだけの流雪に耐えうるかは経験して見なければわからない。然しこれとてもクラツシヤーの改良と力の増大によつて解決されるもので機械の原理そのものには何等変化を及ぼすものではないと確信する。

(3)　本機の特徴

(イ)　機構が簡単で故障は殆ど起らない。

(ロ)　誰れでも簡単に操作が出来る。

(ハ)　危険性がないこと。

(ニ)　製作が簡単であること。

(4)　製作費

203,100円（第1回製作費）

163,900円（第2回改良費）

計　367,000円

内訳は次の通りで，これを改造后の設備費に拾つて見ると，226,500円となるが，クランク軸は先のクラツシヤーに対する断面で現設備では各部材断面が相当小さくなるし，尚最初の様な無駄もなくなるので，180,000 円程度で出来上るものと推定される。從つて概算推定の目安としてはスクリーン 1m 当約 40,000 円として大した間違いはない。

(5)　收支計算

詳しい資料がないのは残念であるが採算上どの様なことになるか概略計算して見ると次の通りである。

(イ)　收入（損失を收入と見做す）

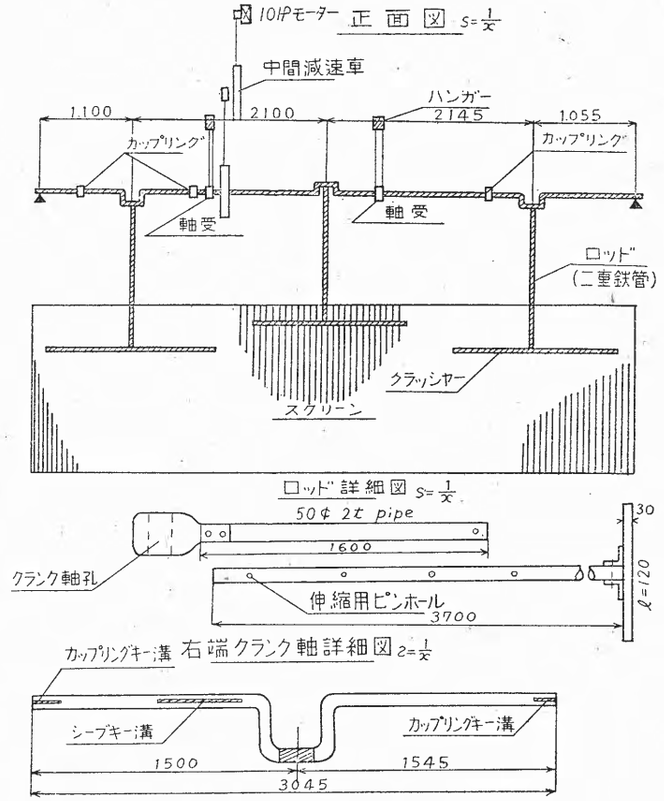
(a)　雪除人夫平均3人2交替6人

12月～2月，3ヶ月間平均して50日とすれば

6×50×300＝90,000円

(b)　水槽角落よりの放流損失

200KW×24×30日＝144,000KWH



第　3　図

電灯電力冬季平均4円72とすれば

144,000×4.72＝679,680円

(a)＋(b)＝769,680円

(ロ)　支出（製作費及人夫賃）

(a)　製作費　367,000円

(b)　操作用人夫　昼夜2交替

2×50×300＝30,000円

(a)＋(b)＝397,000円

(イ)－(ロ)＝372,680円

以上の如く採算上充分有利である。

(6)　結　び

(イ)　最初は複雑に考え過ぎて返つて失敗した。この様な機械は出来るだけ簡単なものから漸次複雑なものに研究を進めるべきであると考える。

(ロ)　本機の価値がどの様に評価されるかは読者に委せられた権利であるが，東北，北海道の様な降雪地方では，湯瀬発電所の様な所が少なくないと思う。厳寒中の水仕事のつらさは経験した者でなければ解らない。本機はこの様な所に応用されてお役に立つたならば誠に幸いであると思う。最后に本機完成迄深い理解と同情をいただいた上司の方々並びに細部の設計に協力いただいた当店営業課伊藤実氏に深く感謝の意を表します。

名種	仕様	単位	原設計 数量	原設計 単価	原設計 金額	変更設計 数量	変更設計 単価	変更設計 金額	増減 数量	増減 金額	摘要
Vブーリー	5″	個	2	1,400	2,800	2	1,400	2,800			
〃	19″	〃	2	5,500	11,000	2	5,500	11,000			
〃	3″	〃				1	1,300	1,300	1	1,300	
メタル	1⅞″	〃	2	1,000	2,000	2	1,000	2,000			
〃		〃	3	2,000	6,000	4	2,000	8,000	1	2,000	
クランクメタル		〃	2	3,000	6,000	3	3,000	9,000	1	3,000	
シャフト	1⅞″×6尺	本	1	1,800	1,800	1	1,800	1,800			
クランクシャフト		〃	2	11,000	22,000	2	11,000	22,000			
〃	3m	〃				1	17,790	17,790	1	117,790	
〃	2½″×6尺	〃				1	2,300	2,300	1	2,300	
カプリング	シャフト用	個	1	3,500	3,500	3	3,500	10,500	2	7,000	
同上取付ボールト	Φ mm cm 12l=20	本				10	30	300	10	300	
ロット A	2″	〃	1	1,000	1,000	1	1,000	1,000			
ロット継手		〃	2	2,500	5,000	2	2,500	5,000			
ロット B	2″	〃	1	1,200	1,200	1	1,200	1,200			
ロット及クランク用ヂョイント		〃	2	1,000	2,000	2	1,000	2,000			
ジョイント用金具		個	2	500	1,000	2	500	1,000			
サポート		組				2	16,600	33,200	2	33,200	
ロットパイプ		個				3	1,670	5,010	3	5,010	
〃 下部継手		〃				3	500	1,500	3	1,500	
ハンガー		〃				2	3,000	6,000	2	6,000	
Vベルト	V型	本	10	1,800	18,000	11	1,800	19,800	1	1,800	
クラツシヤー		式	1		26,000	1		26,000			
クラツシヤ用爪		〃	1		5,800	1		5,800			
〃 用ローラー		個	10	700	7,000	10	700	7,000			
〃 ガイド		本	5	5,000	25,000	5	3,500	17,500		△7,500	
Bクランク用カラースリブ		〃	2	2,000	4,000	2	2,000	4,000			
運搬費		式	1	10,000	10,000	1		18,000	1	8,000	
職工	鍛冶	人	15	1,500	22,000	40	1,500	60 000	25	37,500	
大工		〃				3	400	1,200	3	1,200	
人夫		〃				10	300	3,000	3	3,000	
スプリング		組				3	2,000	6,000	3	6,000	
基礎工事		式				1	7,000	7,000	1	7,000	
副資材		〃				1		8,000	1	8,000	
塗装		〃				1		4,000	1	4,000	
諸経費		〃			20,000	1		35,000	1	15,000	
計					203,100			367,000		163,900	

碎雪機発明について

當社管内の内，特に青森，秋田，山形及び岩手各支店管轄の發電所は，冬季間多量の降雪に見舞はれ，河川は流雪が連流し取水口に於て多額の費用を投じ除雪するも尙水槽に多量の流雪が間斷なく流れて來るのを防止することは非常に困難な事であります。

これを放置する時は，水槽スクリーン前面に於て，凝結して貴重な使用水量が水車に流下することを阻害することが多く，この爲に己むなく使用水量の一部を以て，余水路より排雪する作業を行わねばなりません。この排雪の作業員の費用も晝夜を分かたず連續する爲に多額に昇つて居ります。

秋田支店，土木課，石郷岡勘三郎君は約3ヶ年に亘りこれが防止對策に関し，苦心研究の結果，昨秋，「碎雪機」を完成し，今冬，湯瀬發電所に據付實驗の結果，非常な好成績を治めたのであります。この「碎雪機」は，今後この種の被害ある發電所に對し據付操作を行うことにより，無効放流防止による，冬季の貴重な電力の損失輕減と多額の經費の節約等を計り得る，劃期的な發明であります。

尙本機の構造は極めて簡單でありますが，當初の複雜な考案から，この簡單な構造とする爲に拂われた苦心並研究が非常に貴重であると思います。

又この研究に對して，完成する迄の間，常に激励された，菅野支店長も功勞者の1人であります。

土木部次長　大　宮

コンクリートの電氣養生

葛根田第一，第二発電所建設所
三　瓶　友　三
佐　藤　良　四　治

1. まえがき

この稿を草した目的は次の二つである。

イ．一般社員の方々には，積雪，寒冷の地で発電所建設工事は如何にして施工されて居るのか，電気養生とはどういうものか，を知つて戴きたいと思つたこと。

ロ．技術関係の方々には，電気養生関係の文献や参考資料が比較的少ないので，今後の施工にいさゝかなりとも参考になつたらと考えたことであつた。

從つて，本稿は自信に満ちた研究論文でもなく，理論的研究の伴わない短期間の実績を基礎としたものであり且又，限られた紙数の中で，一般的な概念説明と専門的説明とが混合している。そして又，我々にとつては始めての経験であり．その道のエキスパートの指導も受けず，満足な電気知識も持ち合せない我々土木屋が施工した結論でもあるので不備欠陥だらけのものと思います。

2. 寒中コンクリートの施工と養生

寒中に施工するコンクリートの凝結及硬化は著しく遅延するし，又強度にも影響することが大きい。

コンクリートの凝結及び硬化は低温度に於て緩慢であるが，約 −3°C で凍結し凝結化が停止してしまう。從つて寒中のコンクリート施工に当つては，コンクリートが凍結しないように適当な温度で養生することが是非必要である。寒中コンクリートの養生法には次のような方法がある。

被覆保温法
水及骨材（砂利，砂）の加熱法
急硬化セメントを使用する方法
薬品の混合法（シフカー，塩化カルシユーム，食塩，零下 50°，其の他）
電気養生法

電気養生法は外国に於ては拾数年前から実施されて居つたが，日本で本格的に実施されるようになつたのは数年前である。それ以前は上記養生法にはいずれも欠陥あり適切なる施工法がなかつたため厳寒中のコンクリート工事は特別な場合を除いては施工しなかつた。

最近電気養生法が研究され各方面に於て実施され好成績を收めて居り，コンクリート工事の一大盲路が除去されつゝある。

3. コンクリートの電氣養生とは

コンクリートの電気養生とは打立ての生コンクリートの電導性を利用し電気抵抗による発熱によりコンクリート自体を発熱体とし，木製型枠を保温材としてコンクリートの凍結を防止する工法である。電気養生はこの外に，セメントの凝結及硬化の促進，型枠存置期間の短縮——工期の短縮等の効果が挙げられる。

しかし前述の通り電気養生法の研究，実績共に日浅く，未解決の問題が残されて居り，土木，電気の両分野に亘つて綜合的研究がなされなければならない。

4. 當現場の狀況と經過

（1） 葛根田第二発電所（5,100KW）は28年3月第一発電所（10,000KW）は28年12月竣功予定であり，我々第二工区は第二発電所の堰堤，取入口，沈砂池，開渠，隧道と第一発電所の隧道，水槽，鉄管路，発電所を担当して居り，第二発電所関係工事は工期に迫られ，最も条件の悪い12月，1月，2月の厳寒期がコンクリート工事の最盛期となつた。

從つて，降雪寒気のため作業を中止することは出来ず，寒中コンクリートの施工特にコンクリートの養生が我々の最大課題となつた。

（2） 葛根田は岩手山麓の寒冷積雪地帯であり，10月下旬より雪が降り出したが，11月中は最低 −3° 位に止まつて居つたので，コンクリートの養生も，水及び骨材の加熱と莚被覆を併用して充分であつた。しかし12月に入るや急に気温低下し −3°〜−5° が普通となつて来たので現場としては電気養生の準備が完了するまで取敢えず，耐寒材（零下 50°，塩化カルシユーム），急硬材（シフカーB）を使用し被覆も莚三枚重ね位として養生したが，その結果は −5° 以下では効果少

なく，−5° 以上でも表面は凍結する状態で安心して施工出来なかつた。

殊に零下 5°（粉末）の効果は甚だ疑問であつた。シフカーは一応効果は認められるも経済的に軀体全部に使用出来ないこと，シフカー混合部分と混合されてない部分との強度変化等の問題が有り軀体の大きなコンクリートには適さない。

（3） 電気養生の準備に当つては本店土木資料を唯一の頼りにして行つたが，各資料共専門的に相当周到に実施されて居り，それを直ちに当現場に適用させるためには——工期と寒気に追られて居り。限られた現場員で専門的担当者の配置が出来ない。電気養生のため特に電気技術者の応援が求められない。電気養生の特別実験的な経費が見込まれてない——等の理由から仲々困難だつた。従つて我々は「施工容易で余り経費がかからないこと」に重点を置き，完璧なる成果を期待するよりも簡易施工により許容される成果を挙げれば良い，との方針で準備した。

5. 施工法及施工實績

施工法は前記の方針より一定型式とせず，その場処に適応する施工法とした。

当工区での電気養生は昨年12月12日より1月10日までで，コンクリート量で約500立米であるが，こゝではその代表的な例のみ施工法と実績を一諸に記載することにした。

（1） 型枠締付用鉄線を電極に利用する施工法（第1図参照）

この施工法は型枠の締付鉄線（8＃～10＃線）を電極に利用するものであり，電気養生のため特別に電極用鉄線を必要とせず施工も唯鉄線と電線の結線だけであり，施工極めて簡易にして経費も少額である。

但し緊張線の間隔を所定の寸法に合せて型枠を立組まなければならない。

又鉄筋コンクリートの場合には電極と鉄筋が接触しないよう絶縁に特に留意しなければならない。これが現場の実体から非常にめんどうくさい事であり，複雑た鉄筋コンクリートの場合には実施が困難である。

当現場では接触しそうなところはすべてブラックテープで電極を被覆し絶縁した。配線，通電方式には，上，下の電極を異相とし横を同相とする方式と横を異相とし上下を同相とする方式との二つがある。

結論的に，この施工法は無筋コンクリートのしかも両面型枠で施工する様な処では養生の為の鉄線も不要であり，打上り，即ち通電が出来えて非常に良好である。しかしながら鉄筋コンクリートの場合には短絡防止対策を充分に施さなければならないので，この方式には施工の限界がある。

（2） 電極枠を挿入する施工法

8＃～10＃鉄線で電極枠を適当な間隔に挿入する方法であり，結線通電方式は前項と同様，上，下又は横に異相とする二つの方式がある。この施工法は所定の挿入高毎にコンクリート天端を播均さねばならないし又所定間隔に挿入してもコンクリートの搗固めのため間隔がまちまちとなりがちであり，温度上昇が不均一となる欠陥有り，結論的に余り感心した施工法でない。当現場でも一個所しかこの方法を実施しなかつた。

（3） 電極横張り施工法

型枠組立終了と共に電極の鉄線を所定の間隔に横に張り両端を型枠押えの角材に結び付けコンクリートを打込んでもたるまないように緊張する。コンクリートが打終つたら，上，下又横に異相とし結線し通電する。

コンクリート軀体が長く電極も長くなる場合は，中間にも電極端子を出し結線し電極の過熱をさけなければならない。

鉄筋コンクリートの場合は電極と鉄筋とが接触しないよう特に注意しなければならない。表面の凍結を恐れて鉄筋と型枠の間に電極を型枠板に釘で打止めて施工して見たが，電極と鉄筋の距離が近過ぎるため短絡現象となり，電流大なるに比し発熱少たく余り結果的に良くなかつた。従つて大部分鉄筋の内側に鉄筋より少なくとも10糎以上離して張線した。

電極横張り施工法は当現場の実施した電気養生の大部分を占めて居り施工簡易であり電気生産のためコンクリート打の作業を邪魔することもなく，又材料（電極）も比較的少なくてすみ温度上昇の成績も良好であり，推奨出来る施工法である。

（4） 電熱養生法

これは電熱線をもつてコンクリートを加熱する養生法である。

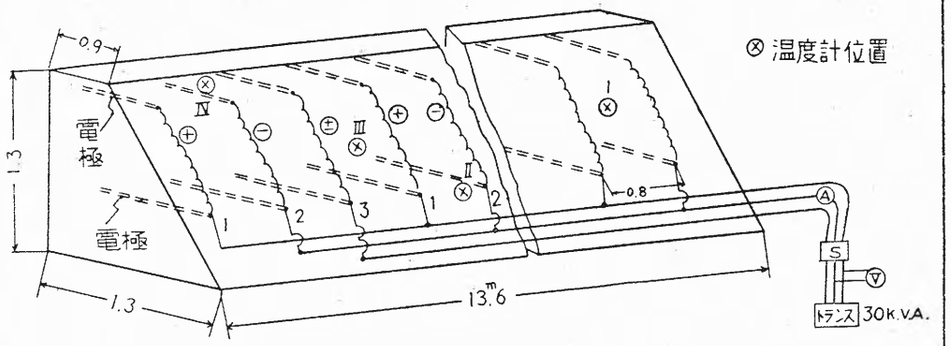
利用方法としては，コンクリート天端は電気養生を施工し，更に莚で被覆をして置いても厳寒のときは凍結する恐れがあるので，天端に電熱線を張り電熱養生を施工すると効果的である。

実施例

（1） 開渠のコンクリート天端に直接 3KW のニクローム線を二条に張り通電し好結果を得た。

（2） 天端巾の広い取水口排砂門ピーヤ等の場合，又沈砂池ウオール等鉄筋が立上つている場合には，ニクローム線では何条にも入れなければならないし又絶縁も困難となるので，被覆電熱線（電熱温床用）を使用した。その結果保温もニクローム線よりも効果的であつた。

（第1図）



コンクリート量	19.5 立米
コンクリート種別	鉄筋コンクリート
電極	8# 亜鉛引鉄線
異極間隔	0.8 m
同極間隔	0.7 m
電線	32 粍 7本燃
電源	3相 200V
初電流	185A
電圧	185V
電力量	240 KWH
通電時間	7 時間

温度記録

時	I	II	III	IV	外温	備考
20.00	+3.0	+3.0	+3.0	+3.0	+2.0	コンクリート打込温度 +3.0
21.00	+7.0	+7.0	+7.0	+5.0	+1.0	
22.00	+8.0	+22.0	+8.0	+5.0	0°	
23.00	+8.0	+32.0	+8.5	+6.0	-1.0	
24.00					-1.0	IIの温度上昇適度なるため
1.00	+8.0	+24.0	+11.5	+6.5	-2.0	23時－24時 通電遮断
2.00	+9.0	+30.0	+12.0	+7.0	-3.0	
3.00					-3.5	2時－4時 通電遮断
4.00	+6.0	+16.0	+9.0	+5.0	-4.0	
5.00	+7.0	+22.0	+9.5	+6.0	-4.0	
6.00	+7.0	+25.0	+10.0	+6.0	-4.5	6時 通電遮断

（3） ビーヤ先端部のように鉄筋と型枠緊張線とが複雑に入つて居る場合には，電極の絶縁困難のため電気養生が出来ないので，被覆電熱線を埋込にして施工したが非常に効果があつた。

但しこの場合の被覆電熱線は比較的高価なので最少限にとゞめるようにした。以上のようにこの電熱養生法は電気養生法の補助的施工法として活用さるべきである。又この方法を補助とすることにより安心してしかも確実に養生することが出来た。

6. 經　費

現場の状況其の他から正確な比較検討は出来ないし，又電気養生の経費の綜合的精算が出来てないため極めてラフではあるが概算比較をすれば次の通りである。

〃コンクリート1立方米当の経費比較〃

（1） 塩化カルシューム混入の場合　126円
（塩化カルシューム 1kg—18円，セメントの3%混入）

（2） 零下50°混入の場合（粉末）　373.3円
（零下 50° 15kg—800円，セメントの3%混入）

（3） シフカーB混入の場合　1,134円
（シフカーB 18l—1,400円，シフカーB：水＝1:5 とす）

（4） 電気養生の場合
内訳　材料費　15.0円　（8#鉄線，スキツチ，電線，メーター損料，其の他）
労力費　10.0　（電工，夜間監視）
電力費　18.48　（1m³当 14KWH，14KWH×1円32＝18円48）

以上の結果より見ても電気養生は他の養生法に比し極めて安価であり，更に電気養生の場合はコンクリートの硬化促進のため型枠存置期間が短縮され，型枠費が約1/3位に節約出来る。

7. わからないこと

電気養生は前述の通り未だ実験的段階にあるので，一応の成果を挙げて居るものゝ理論的にも実証的にも未だ未完成であり，未解決の問題や改善すべき問題等多々有るものと考えられます。その中で我々が直接的にぶつかつたものを列記します。

（1） コンクリートの電気伝導度の問題（電圧と電極間隔の関連・施工場所のこれに対する影響）
（2） 温度上昇とコンクリートの強度の関係（温度の上昇速度・上昇限界等を含めて）
（3） 温度不均衡によるコンクリート強度変化の問題
（4） 電気抵抗によるセメントの化学変化の問題
（5） 鉄筋コンクリートの場合の電導及電気抵抗の変化の問題
（6） 鉄筋とコンクリートの附着力強度に及ぼす影響の問題
（7） 温度測定上の諸問題（温度計，測定方法，其の他）
（8） 電気の経済的使用の問題（電極，電線，結線方式，電気器具，其の他）

主なものは以上ですが，この中には我々の技術的知識の不足施工の拙劣によるものなども含まれて居ると思うが，我々現場員はこれ等の問題と真正面から取組んで解決して行く時間的余裕其の他の条件が許されず残念乍らわからないまゝに実施して居る状態である。

8. むすび

当現場で我々が電気養生を始めてよりまだ1ヶ月にしかならず，まとまつた結果を発表すべき段階に達しているとは思わないし又理論的研究の伴わない拙劣な技術的施工結果をもつて結論を出すことは軽率とは思いますが，我々の体験の結論は，コンクリートの電気養生により

（1） 相当の厳寒時でも容易にコンクリート工事が出来る。
（2） 工期を相当短縮出来る。
（3） 普通の養生より経費僅少ですむ。
（4） 普通の電気智識をもつて容易に施工出来る。

しかし電気養生が好成果を挙げるためには，事前準備と良い施工は勿論大切な事ではあるが，通電後の管理をゆるがせにしてはならない。当工区では毎日石積まで含め3～6ヶ所の養生個所を工区員が毎晩交代で徹夜し，通電後1時間毎に，温度，電圧，電流を測定記録し，温度が上昇し過ぎる時や過電流が流れる時は一時通電を遮断するなどして細心の注意をもつて監理している。我々の養生に対する技術的未熟さ欠かんをこの監理によつてある程度補えるものと確信している。又初めての形状と場所等においては通電量の過大なるをおそれ1ブロックを2～3ブロックに区分し別々に通電してトランスの容量をたしかめたり，鉄筋コンクリートの場合は不測の場合を予想し二股帯を行つたりしている。

以上施工の実際について記したが，寒中コンクリートの養生には電気養生が最も経済的且，効果的なものであり今後の冬期間のコンクリート施工には不可欠なものと考えられます。

今後未解決の問題に対し本店及び関係機関の綜合的研究を切望すると共にお気附の点ありましたら御指導あらんことを願います。　28.1.15

（電気養生法は既に宮下等の現場に於て研究実施されて居るけれとも本工法に関する記事は今回が最初なので敢て掲載することにした。編集委員附記）

發電機過電圧抑制の考察と腹帯發電所QDR調整について

岩手支店発変電課　伊　藤　信　雄

＝緒言＝　発電所を脅やかす所の異常電圧は過渡性異常電圧と持続性異常電圧に分けられる。前者は外雷に起因する波高峻度の高いもので是は避雷器により防止しなければならない。後者は内雷に起因する異常電圧で常規大地電圧の3～4倍以下であるが，持続性のもので是は弁抵抗型のような避雷器で放電させる事は困難である。

従来の発電機過電圧抑制装置は自仂電圧調整器を主体とし，過電圧抑制の為の界磁抵抗挿入等は単に自仂電圧調整器故障時の補助の意味で装置される傾向にあつたが，最近は発電機過電圧は是を積極的に抑える傾向に推移して居る。

そもそも持続性異常電圧はその原因から，

（1） 送電系統の地絡又は断線事故等によるもの
（2） 純然たる負荷激減に起因するもの

とに分けて考えられるが，実際(1)の系統事故に際しては瞬時にして保護継電器が仂作し故障地点を除外すると考えられ，その場合は(2)の負荷激減の状態に陥るものと考えられる。

即ち負荷激減による過電圧抑制保護が，以下述べんとする過電圧抑制装置の目的である。

次に過電圧抑制の効果について考察するが，結論すれば是は抑制時期と抑制開始后の効果の問題であろう。

1. 抑制時期について

大別して次の二つの方式がとられる。

a. 発電機負荷遮断と仝時に抑制始動
b. 過電圧継電器動作をまつて抑制始動

運転時系統並列の状態で生ずる外部に起因する過電圧に対しては，両者仝じように過電圧継電器に頼るが，発電機負荷遮断の場合は，aは過電圧になる前に抑制始動するから，発電機電圧上昇はbに比し充分抑制出来る。

2. 抑制効果について

次に抑制装置自体の効果について考えれば

1. 励磁機界磁回路に抵抗を挿入する方式
2. 発電機界磁回路に抵抗を挿入する方式
3. 振動型急速滅磁の方式（QDR）
4. 其他（界磁回路遮断方式其他）

今一般的な1，2，3について比較してみよう。

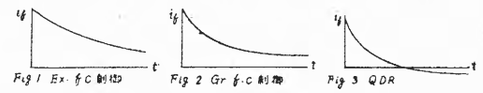


Fig 1 Ex. fc 制御　Fig 2 Gr fc 制御　Fig 3 QDR

実際負荷遮断時には，発電機端子電圧はifに比例して減衰せず，発電機自体の電機子反作用除去による電圧上昇と，水車，過速度による上昇分（速度上昇の2乗に比例）が重複し，負荷遮断より数秒は常規電圧以上の過電圧を誘起し易い。是を抑制する為には，Fig. 5 の QDR の方式が効果的である事は論ずる迄もない。只1，2の方式に比し少々複雑であり，又発電機再起動に際し事前に励磁機を他の電源で励磁してやる必要があるが，完全保護の見地から，1，2の方式に比しその特質は推奨して良いと思う。

岩手支店管内自仂発電所についてみれば，腹帯発電所の急速滅磁式，附馬牛発電所の発電機界磁抵抗挿入式，繋発電所主界磁回路遮断方式の他は励磁機界磁抵抗挿入式であつて，近年過電圧抑制に対する関心のたかまるにつれ是が改造も具体化し，現在改造に着手して居るものもある。

次に腹帯発電所 QDR 調整について記載し諸氏の御批判を得，且今后の是に類する調査の参考に供したい。

3. 腹帯發電所 QDR 調整について

腹帯発電所の過電圧抑制装置は，富士電機製急滅磁装置で，是が始動迄の経緯を略記すれば Fig. 4 の通りである。

停止用押釦—┐　┌—3 去 勢——ＱＤＲ始動
保護継電器—┘　└—86Z 附勢——発電機OCB開

Fig. 4

系統並列の状態で生ずる過電圧や特に主要変圧器二次側開の場合は，QDR は仂かず，この場合は二次側開に伴う保護継電器の仂作（速度継電器か過電圧継電器）を経て Fig. 4 の経緯を辿り，始めて QDR が始動する。

主要変圧器は unit system であるが，主要変圧器二次側 OCB 遮断に際しては QDR の働く時期は上記の様に遅れる。この点につき現場より改良の意見が出て目下検討中である。

扨，たまたま仝所 #2 発電機起動の際，励磁機極性が反転して居る事があり，是が発端となつて調査に着手したわけであるが，概念的に考えてこれは停止時反極量過大によるものと予想される。

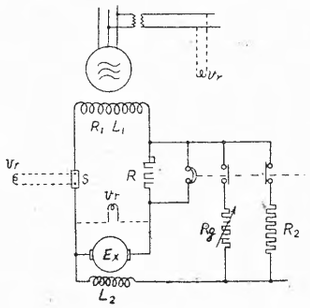


Fig. 5

QDR の設置にあたつて，是が調整の原則は，まず発電機励磁機の各定数（Fig. 5 の R_1, L_1, L_2, R_g 等）の測定をしなければならない。

次に $R_1 \fallingdotseq R$ で振動抵抗 R の値を定め，又 R_2 を次式で定める。

$$\frac{L_2(R+R_1)+L_1(N-R)-2\sqrt{L_1L_2(N-R)R}}{L_2} < R_2 < \frac{L_2(R_1+R)+L_1(N-R)+2\sqrt{L_1L_2(N-R)R}}{L_1}$$

（分巻発電機の場合 $N=R_g$）

こゝに L_1L_2 は直流に対する値でなければならない。即ち設計値より無飽和として算出するか直流を光放電する時の時定数より算出する。

腰帯発電所 QDR 調査は，オツシログラフ（横河製電磁3エレメント）1台を使用し，発電機電圧，励磁機電圧，主界磁電流の三要素を是に入れ，QDR 仂作時の過渡減衰状況を寫真に撮り，それを基にして調整を行つた。第一回調査のオツシログラムを次に掲載する。(Fig. 6, Fig. 7)

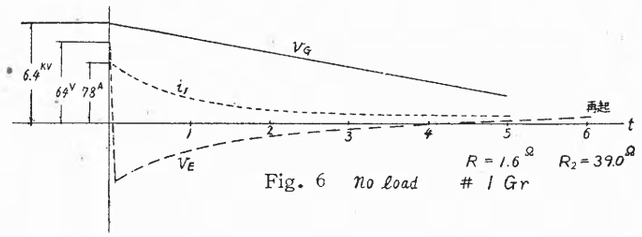


Fig. 6 *No load* # 1 Gr

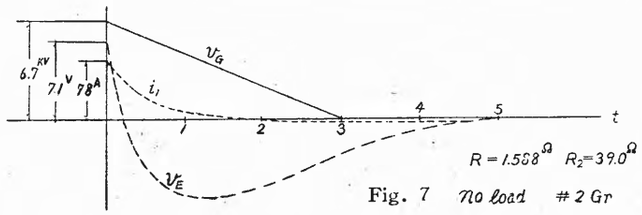


Fig. 7 *No load* # 2 Gr

Fig. 6 は #1 機，Fig. 7 は #2 機である。一見して気のつく事は両者の相違であろう。

第一に励磁機端子電圧であるが #2 が 13㌘ で負波高最大に達して居るのに #1 はいきなり ½～ で逆転している。

第二に #2 は2秒で i_1 逆転して殘留磁気を打消して居るが #1 は 3, 4, 5 秒と減衰しては居るが，正の値で長びいて居る。

第三に，從つて発電機電圧は #2 が3秒で消滅して居るのに #1 は5秒経て未だに消えて居ない。

調査の発端となつた過逆励磁の現象は #2 の場合考えられ，是は R を減少する事によつて解決する事は定数測定結果（後記）より判断しても了解出来るけれども，問題の無い筈の #1 がこの様に異常な減衰を示して居た。

Fig. 6 を検討してみると i_1 の示す様に是は単なる減衰波形であつて，QDR 本来の効果は顯れていない。そもそも励磁機電圧が ½～ の瞬時に逆転して居るのがおかしい。

今 Fig. 5 の回路について考察するに励磁機端子電圧 ½～ で逆転する為には回転数の急変か i_2 の逆点が必要であるが，負荷遮断時数～ の間は回転数は constant であり，励磁機界磁線輪の time constant を考えれば，i_2 も亦 ½～ で反転する事はあり得ない。即ち励磁機端子電圧 V_E が Fig. 6 の如き変化をする事は考えられない事になる。

以上の結果をメーカーえも連絡し，種々検討の結果更に #1 機回路の調査を予定したがその中現場より誤接続の報に接した。

Fig. 8 のように E_{xr} ⊕ より QDR 端子 ④ につながるべきものが Ⓓ に接続されて居た。是を書換えれば Fig. 9 の如くである。

Fig. 8 の V_E の変化は理論的には主界磁両端の電圧をオツシロに入れて居た事になる。

このような誤接続の場合如何なる減衰をするか次に理論的解析をこゝろみよう。

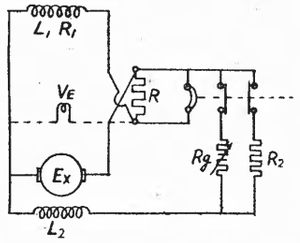


Fig. 8

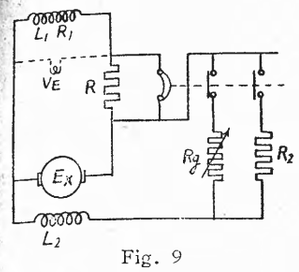


Fig. 9

Exr, R, $R_1 i_1$ の回路について

$$L_1\frac{di_1}{dt}+R_1i_1+Ri_1-Ni_2=0 \quad \cdots\cdots(1)$$

Exr 界磁回路については

$$L_2\frac{di_2}{dt}+R_2i_2-Ni_2=0 \cdots\cdots(2) \quad N=R_g \quad e_x=Ni_2$$

(1) より

$$i_2=\frac{L_1}{N}\frac{di_1}{dt}+\frac{R+R_1}{N}i_1$$ 是を (2) に入れて

$$L_2\frac{d}{dt}\left(\frac{L_1}{N}\frac{di_1}{dt}+\frac{R+R_1}{N}i_1\right)+\left(\frac{L_1}{N}\frac{di_1}{dt}+\frac{R+R_1}{N}i_1\right)(R_2-N)i_1=0$$

$$L_2\left(\frac{L_1}{N}\frac{d^2i_1}{dt}+\frac{R+R_1}{N}\frac{di_1}{dt}\right)+\frac{L_1}{N}\frac{di_1}{dt}(R_2-N)+\frac{R+R_1}{N}(R_2-N)i_1=0$$

$$L_2\left(\frac{L_1}{N}\frac{d^2i_1}{dt}+\frac{R+R_1}{N}\frac{di_1}{dt}\right)+\frac{L_1}{N}\frac{di_1}{dt}(R_2-N)+\frac{R+R_1}{N}(R_2-N)i_1=0$$

$$\frac{L_1L_2}{N}\frac{d^2i_1}{dt^2}+\frac{L_2(R+R_1)}{N}\frac{di_1}{dt}+\frac{L_1(R_2-N)}{N}\frac{di_1}{dt}+\frac{(R+R_1)(R_2-N)}{N}i_1=0$$

$$\frac{d^2i_1}{dt^2}+\left(\frac{R+R_1}{L_1}+\frac{R_2-N}{L_2}\right)\frac{di_1}{dt}+\frac{(R+R_1)(R_2-N)}{L_1L_2}i_1=0$$

$$p=\frac{(R+R_1)}{2L_1}+\frac{(R_2-N)}{2L_2}$$

$$q=\frac{(R+R_1)(R_2-N)}{L_1L_2}$$ と置けば

$$\frac{d^2i_1}{dt}+2p\frac{di_1}{dt}+qi_1=0$$

一般解は

$$i_1=\varepsilon^{-pt}\left\{K_1\varepsilon^{\sqrt{p^2-q}\cdot t}+K_2\varepsilon^{-\sqrt{p^2-q}\cdot t}\right\} \cdots\cdots(3)$$

(3) 式の i_1 の波形は p, q の組合せで次のようになる。

$p^2-q>0$ 非振動 $\begin{cases}q<0 \text{ or } p<0 & \text{増大性}\\ q>0 \text{ or } p>0 & \text{減衰性}\end{cases}$

$p^2-q=0$ 臨界減衰

$p^2-q<0$ 振動型 $\begin{cases}p>0 & \text{減衰性}\\ p<0 & \text{増大性}\end{cases}$

#1 機の P, Q は正規の回路 (Fig. 7) について定められて居る筈で，その値は (ohm 27年7月号参照)

$$P=\frac{R_2+R-N}{2L_2}+\frac{R_1+R}{2L_1}$$

$$Q=\frac{(R_2+R-N)R_1+RR_2}{L_1L_2}$$

$p^2-Q<0$ に R 及 R_2 を調整してあるわけでこの R, R_2 を Fig. 9 の誤接続回路に用いて，振動型 $p_2-q>0$ を得られぬのは当然である。Fig. 8 をみれば i_1 は非振動で，その状態は $p^2-q>0$ の単なる減衰型である事を示して居る。#2 (Fig. 7) に比し急速性に於ても劣るし又完全減磁の特徴も有つていない。

次に本装置の各定数測定結果を御参考に供する。

	#1	#2
振動抵抗 R	1.60	1,588
主界磁抵抗 R_1	1.0	0,908
急減磁抵抗 R_2	39.0	39.0
Exr 界磁線輪 Ref	16.7	16.4
界磁調整抵抗 R_g	mx 55.4	mx 55.4

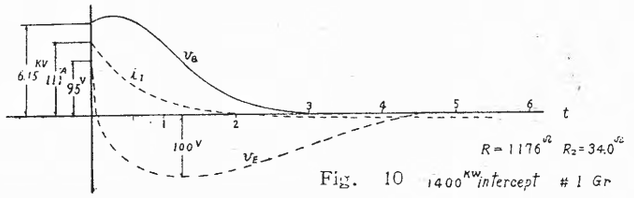


Fig. 10 1400 KW intercept # 1 Gr

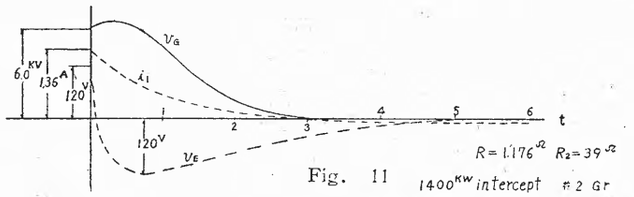
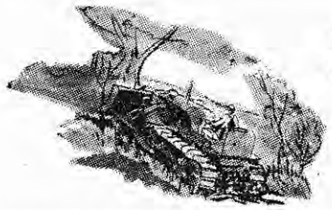


Fig. 11 1400 KW intercept # 2 Gr

L_1, L_2 の測定は時間及装置の関係で公表するに足る Data を得られなかつたが，今后機会を得たら再調査し R_2 の調整に便ならしめたい。 (14頁へ続く)



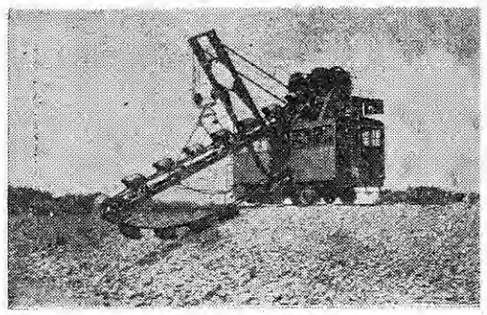
建設機械のしおり(II)

木　原　正　明

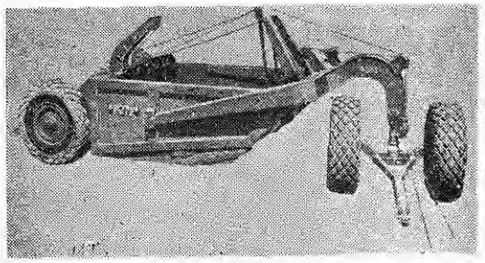
社誌第9号に執筆した掘削機械は「タワーエキスカー」迄説明を致しましたが，掘削機械として未だ「ドラグスクレーパー」「バケットトラダーエキスカー」「サスペンションドレヂヤー」「スクレーパー」「モータークレダー」があり，今回は以上の機械と運搬機械の索道について説明したいと考えます。

（ト）ドラグスクレーパー　ドラグスクレーパーは「タワースクレーパー」又は「ケーブルスクレーパー」とも言い，本機は「タワーエキスカー」と大体に於て全じ形をなして居て，一見して「タワーエキスカー」か「ドラグスクレーパー」か一寸見分けが困難である。それでこゝでは「タワーエキスカー」と「ドラグスクレーパー」の違う点を揚げてお知らせする。大きな違いは土砂の掘削方法が異つて居ることで，自然バケツの構造が違つて居る。前者のバケツは作業の性質上箱型で，土砂のすくい場が可能の様に窓がついて居る。後者のバケツは土砂を或地点より他地点に掻寄せるだけの仕事のため，底のない竜骨の様な骨組だけで出来て居て，土砂の吊り上げによる高速度掘削が出来ない構造になつて居る。然しバケツの容量としては「スクレーパー」の方が「タワーエキスカー」のものより40%～60%大きいから，ショートリーチ(短斜面)に対する掘削は能率がよく，その限界は 70米～100米である。其の他塔の構造は「タワーエキスカー」と殆んど全様である。

（チ）バケツトラダーエキスカー　軌道上を走行し



バケツトラダーエキスカー



スクレーパー

ながら掘削する機械で，主に運河，放水路の土砂掘削に適し能率も非常によい機械である。構造としては，デーゼルカーの中央に梯子状のアーム(腕)を出して，これに無端のバケツ式鋤を多数付けたもので，側下方斜面の土砂を掘削し反対側の運搬車に積込む装置である。故に連続作業が可能であつて，鋤の付いて居る梯子型のアームは掘削斜面の角度（傾斜角）に応じて運転手1人で調節出来る様になつて居る。この機械は昔からある機械で，原動力がスチームエンヂンであつたものを，デーゼルエンジンに改良しただけで，目新らしい改良は行われていないように聞いて居る。当社に於てはあまり利用する状件を具備している現場がないので，未だ使用したことはない。

（リ）サスペンションドレツジヤー　本機はポンツン（箱型の船）にデーゼル発電機を据え，この電力を利用して船の前部に取付けられた無端循環式のバケツで水底又は水中の側壁を掘削するもので，このバケツはアームに多数付いて居るものである。これが船に立てられてある塔より吊られ掘削傾斜角を自由に調節しながらバケツが連続的に回転し掘削出来る構造に造られてある。

（ヌ）スクレーパー　従来ブルトーザーで掘削した土砂は，あまりにも機械の前部に取付けられてあるブレード（排土板）より両側にはみ出される傾向があるので，これを補うために生れた機械で，掘削した土砂を其のまゝ機体の腹部に抱え込み，適当な土砂捨場に行つて機体の腹を開いて排砂する構造になつて居る。

掘削一積込一運搬と全時に行なつて，且又地面の凸



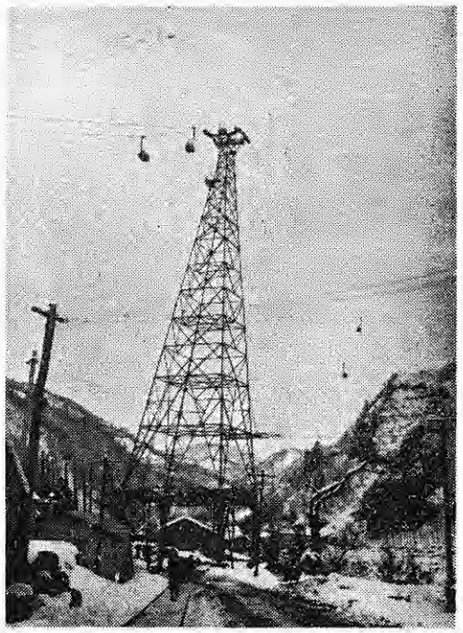
モーターグレーダー

凹も容易に均すことも出来るが，普通自走はしないのでブルドーザーの索引が必要になつてくる。御承知の様にブルドーザーは自走装置がキヤタピラ式たるため，力は大きいが速度が非常に遅い。このために作業の行動範囲は大略 50m～500m に止められる欠点がある。これを打開する目的で現在キヤタピラからゴムタイヤ式に移行して速度を増し，作業能率を上げて居る。

この場合最も重要なことは，走行道路が舗装してあるか若しくはこれに準ずる路面でなければならない。機械の大きさとしては，普通 6y d³ (4.5立米) から，12y d³ (9立米) 位であるが，段々と大型のものが設計製作され容量は益々増大する傾向にある。一例を示すとピサラス社の 22y d³ の如きものである。

（ル）モーターグレーダー　本機は道路整備及び農耕用に使用する目的で設計製作され，機械としては三菱日本重工の「LG 1型」(10トン) 日本開発機「HA 56」(10.5トン) のものがあるが，これは大型機であつて，中小型機としては「MG 3型」(9.3トン) 三菱・小型機・日開式「HA 46型」(5.8トン)・小松式 GD—30型」(6.9トン) 等がある。構造としては機関と車体より成り，作業機器としてブレード（排土板）スカリファイヤー（鋤）がある。

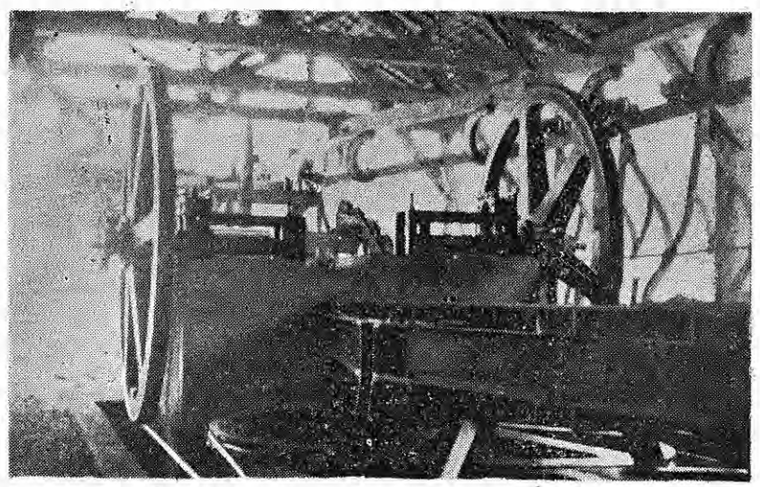
作業順序は最初このスカリファイヤーにより路面を削り起し，スカリファイヤーより後部に付いて居るブレードにより均等に均しつゝ前進するものである。従来この種作業はブルトーザー及びトラクターを以つて行なつて居たのであるが，自走装置がキヤタピラなるために速度が遅く，長距離の路面整備が長時日を要して居た。本機はこれに比べて自動車のタイヤ式であるため，時速 20 Km 平均出せるので能率が良い。現在積雪地方に於て路面の除雪作業に高能率を示し，重宝な機械として利用されて居る。当社の本名上山に通じる道路にも三菱の「MG 3型」が配置してあるので，何かの折見聞して戴きたい。



索　道　鉄　塔

2. 運　搬　機　械

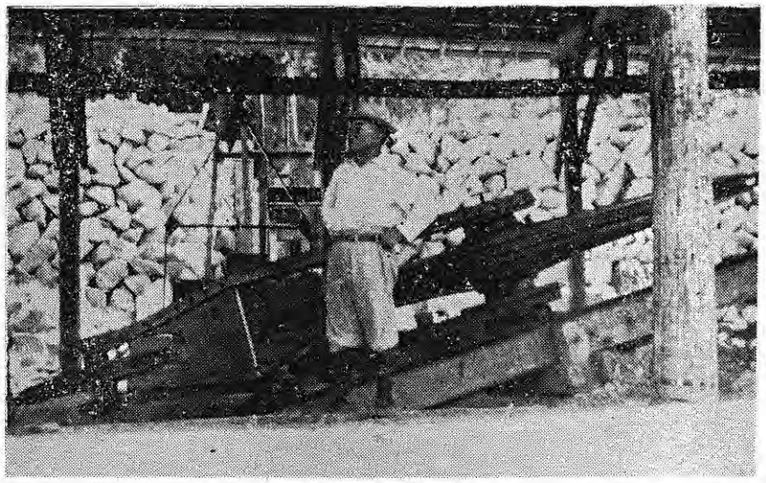
発電所建設工事に，使用されて居る運搬機械は，そ

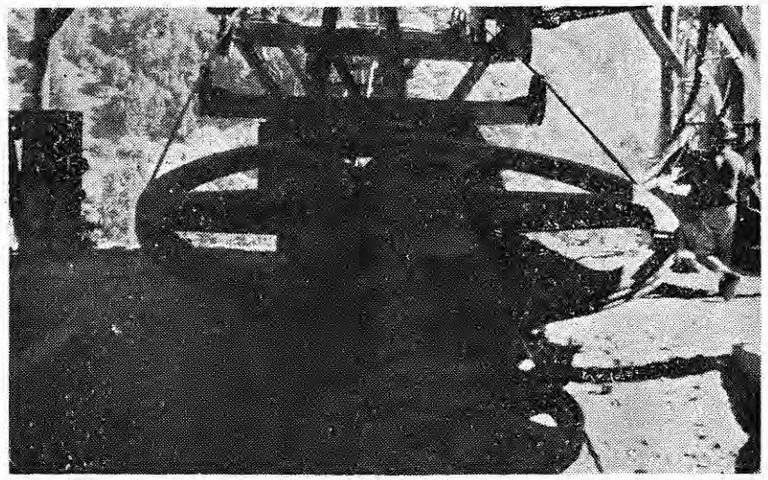


索　道　原　動　装　置

の機械の特性，構造，能力によつて使用する場所も異るが，普通発電所建設工事現場に使用されて居る運搬機械については，本項より除くことにした。

イ）索道　索道機械を最も簡単に説明すると，有端式のものと，循環式のものとあり，索条を張り架けて之れに荷物を吊して地上をはたれ荷物自身の重量及び惰動力により他地点に輸送出来るもので，構造が簡単たものと複雑なものとあるが，いずれのものもこれを索道と云うのである。最も簡単なもの一例として，よく地方の山奥で，炭焼きの人々が渓谷を横断して8番線位の太さの鉄線を傾斜をつけて架け，木炭薪等を吊り運搬して居るのを見受ける。これも一種の索道であつて，日本に於ても相当古くから使われて居るものたのである。現在各発電所建設工事及び鉱山関係に架設してある索道も，この原理を機械化として出来たもので，連続的に荷物を送り出せる特徴がある故に，輸送力が大きく如何なる山間部も大抵架設することが出来，長距離輸送には便利な機械である。然し架設方法及び架設工事の不備と，推持運転に対する補修を誤ると，輸送力は低下して故障が続出するので，注意しなければたらない。





索道緊張装置 (1) (2)

機械の構造としては索条の緊張装置（区間始点）各支塔（ワイヤーロープを受けて居る塔）起動装置（区間終点停留場）搬器（ワイヤーロープに吊す運搬器）等であつて，起動所で原動機により区間のワイヤーロープ（無端のもの）全体を回転させ，これに搬器を下げ 40秒—45秒 間隔に始点より送り出すものである。索道1区間の距離は大体 4KM—5KM を限度とする。当社が架設した宮下より本名迄の8分の3トン，1時間30トンの能力ある索道の一部を寫真で紹介する。

(11頁より)

#2 は理論通りの過程を辿つて居るが，励磁機電圧 V_E の初転極最高値は常時の略 1.6 倍である。Rの測定値は 1,588Ω であるが是では大き過ぎる。

Rは大なる程急速性を増すけれとも主界磁両端の誘起電圧が大となるをまぬがれたい。是を常規電圧位で抑える為には $R \fallingdotseq R_1$ とするのが原則である。以上の見地からRは#1，#2共にグリッド数を減じ 1,167Ω に減らした。

調整後の状態は Fig. 10, Fig. 11 の通りである。勿論1接続の誤りは訂正した。

R_2 は#1 が 34Ω，#2 は 39Ω であつて，その相違は Fig. 12, Fig. 13 の通りである。V_E 反転率は略 110%。i_1 は#1 が2秒，#2 が3秒で反転して居る。是は R_2 の相違即ち i_2 の違いによるものである。全負荷 6,000KW 遮断に際しては Fig. 12, 13 より逆励磁量が過ぎる傾向とたるから，39Ω が適当であらう。

職階給制度について (前)

勞　務　課

ま え が き

職階給制度については，昭和27年12月18日附の賃金その他労働条件に関する仮協定書に基づき「会社組合が協議して決定する」ことになつており，当社では具体案を準備中であつて，その概要は昨年7月組合中央本部に提示された「賃金合理化要綱」の内容と大同小異であるが，新らしい制度であるため一般に難解であると考えられ，然かも本制度は賃金の体系等の改訂及び職務の権限の明確化乃至適正量化並に勤労意欲の向上等を内容とし，社員の主要労働条件にまで影響する制度であつて，全社員が深い関心を持たれていると思われるのでその具体的内容の研究に資するため，以下本制度の大綱について紹介し，大方諸賢の御参考に供するものである。何卒御批判をお願いし併せて今後特段の御協力をお願いする次第である。

職階制の必要性について

電気事業が終戦後産業復興の基盤として，その公益性が一層強く認識され，事業運営の良否は直ちに電気料金に反映するため，その合理化は重要なる課題としてこれに対する努力が要請され，再編成による自立責任体制を採るに至つてこの要請は更に強くなつたのである。これに応えて事業の合理化は電気技術面，資金資材面，労務面の各方面に亘つて行われて来たが，殊に労務面の合理化は経営一般の合理化の高度化に伴い，これを推進する原動力として重要な意味を持つに至り，科学的且つ合理的な労務管理体系を確立して能率の増進と労働意欲の向上を図ることが愈々必要となつて来たのである。

このため，(1) 職務権限を明らかにして人事組織を確立することを前提とする，(2) 適正人員数の決定，(3) 適性配置，(4) 教育訓練，(5) 労働力の保全等に資すると共に賃金の質と量に応じた配分等の問題を解決し，労働力をして事業の経営目的に向つて経営価値的に最大の効果を発揮せしむるため職務評価とこれに伴う人事考課を実施することが当面の急務となつた。

ここに職務評価とは，あらゆる職務を種々の観点から分析して職務の相対的価値判断を行いこれを科学的に把握することであり，多くの職務をその価値に従つて分類し，その相互関係を一つの体系にまとめたものが所謂職階制度である。

この職階制度を確立すると共に人事考課を実施することにより，科学的合理的な労務管理の確固たる基盤を確立されることになる。

賃金体系の改訂について

現行の賃金の配分は生活給偏重であり，体系及び計算が複雑過ぎるので，次の如き合理的改訂が考えられる。

1. 方　針

(1) 賃金は原則として労働の質及び量に応じたものとする。

(2) 職階制を実施し，基本給は職務評価並びに人事考課によつて決定する。

(3) 賃金体系の簡素化を図る。

(4) 労基法第41条第2号該当者で労組法第2条但書第1号による非組合員の賃金その他労働条件については別に措置する。

2. 体　系

(1) 基本給＝職務評価により設定した職級に個人を格付し，更に人事考課により号を査定し，基本給表（別表1）に照らして，基本給を決定する。この基本給は，現行「本人給」「能力給」「勤続給」「職責給」「職務手当」「集金手当」及び「作業手当」中「一般作業手当」を包含する性格のものである。職務評価及び人事考課については後記の通り。

(2) 時間外手当，二交替勤務手当，終日勤務手当，危険作業手当，僻地手当，建設地手当及び冬営手当は現行の通り。

(3) 深夜手当＝午前零時から午前5時まで並びに午后10時から午后12時までの通常，時差及び三交替勤務……1時間につき千分の1.5

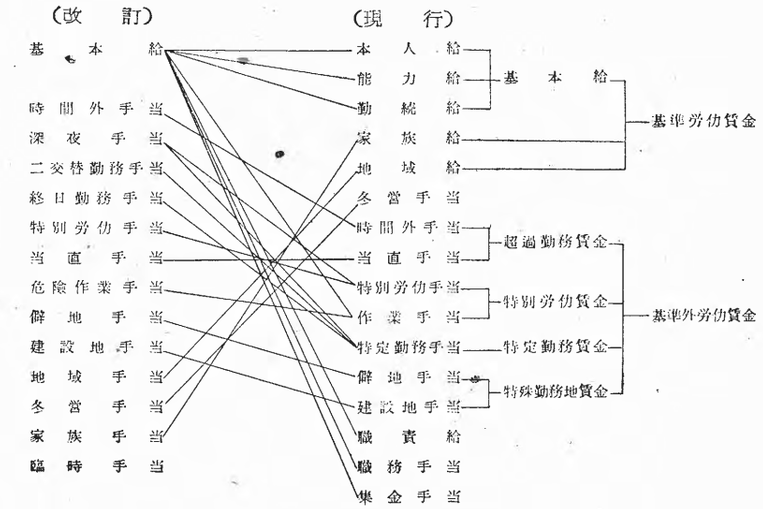
(4) 特別労働手当＝A．荒天の際の屋外作業……時間賃率の4割。 B．水，震，火災等の際の非常

基本給表（試案）

級＼號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
30				12,450								
29			10,800	12,300	14,500	16,600	19,000	21,800				
28		9,400	10,650	12,150	14,300	16,300	18,700	21,500	24,700			
27		9,500	10,500	12,000	14,100	16,100	18,400	21,200	24,300	28,200		
26		9,200	10,350	11,850	13,900	15,900	18,100	20,900	23,900	27,800	32,000	
25	8,200	9,100	10,200	11,700	13,700	15,700	17,800	20,600	23,500	27,400	31,500	36,000
24	8,100	9,000	10,050	11,550	13,500	15,500	17,500	20,300	23,100	27,000	31,000	36,500
23	8,000	8,900	9,900	11,400	13,350	15,300	17,200	20,000	22,700	26,500	30,500	35,000
22	7,900	8,800	9,800	11,250	13,200	15,100	16,900	19,700	22,300	26,200	30,000	34,500
21	7,800	8,700	9,700	11,100	13,050	14,900	16,600	19,400	21,900	25,800	29,500	34,000
20	7,700	8,600	9,600	10,950	12,900	14,700	16,300	19,100	21,600	25,400	29,000	33,500
19	7,600	8,500	9,500	10,800	12,750	14,500	16,100	18,800	21,300	25,000	28,500	33,000
18	7,500	8,400	9,400	10,650	12,600	14,300	15,900	18,500	21,000	24,600	28,100	32,500
17	7,400	8,300	9,300	10,500	12,450	14,100	15,700	18,200	20,700	24,200	27,700	32,000
16	7,300	8,200	9,200	10,350	12,300	13,900	15,500	17,900	20,400	23,800	27,300	31,500
15	7,200	8,100	9,100	10,200	12,150	13,700	15,300	17,600	20,100	23,400	26,900	31,000
14	7,100	8,000	9,000	10,050	12,000	13,500	15,100	17,300	19,800	23,000	26,500	30,500
13	7,000	7,900	8,900	9,900	11,850	13,350	14,900	17,000	19,500	22,600	25,100	30,000
12	6,900	7,800	8,800	9,800	11,700	13,200	14,700	16,700	19,200	22,200	25,700	29,500
11	6,800	7,700	8,700	9,700	11,550	13,050	14,500	16,400	18,900	21,800	25,300	29,000
10	6,700	7,600	8,600	9,600	11,400	12,900	14,300	16,200	18,600	21,500	24,900	28,500
9	6,600	7,500	8,500	9,500	11,250	12,750	14,100	16,000	18,300	21,200	24,500	28,100
8	6,500	7,400	8,400	9,400	11,100	12,600	13,900	15,800	18,000	20,900	24,100	27,700
7	6,400	7,300	8,300	9,300	10,950	12,450	13,700	15,600	17,700	20,600	23,700	27,300
6	6,300	7,200	8,200	9,200	10,800	12,300	13,500	15,400	17,500	20,300	23,400	26,900
5	6,200	7,100	8,100	9,100	10,650	12,150	13,350	15,200	17,300	20,000	23,100	26,500
4	6,100	7,000	8,000	9,000	10,500	12,000	13,200	15,000	17,100	19,800	22,800	26,100
3	6,000	6,900	7,900	8,900	10,350	11,850	13,050	14,800	16,900	19,600	22,500	25,800
2	5,900	6,800	7,800	8,800	10,200	11,700	12,900	14,700	16,700	19,400	22,300	25,600
1	5,800	6,700	7,700	8,700	10,050	11,550	12,750	14,500	16,500	19,200	22,000	25,300

（備考） 労組法第2條但書第1號によつて非組合員であり且つ労基法第41條第2號の監督若しくは管理の地位にある者と認められる職務についている社員には適用しない。

体系



作業……時間賃率の4割。 C. 年末1日，年始3日の勤務……時間賃率の4割。

（5） 当直手当＝宿直……1回につき300円，日直……1回につき300円，半直……1回につき100円，時差勤務の宿直……1回につき200円。（代休を廃止する） 特殊勤務を併せ行う場合は実情に応じて，1日につき次の時間外手当相当額を支給又は加算する。

1号……千分の21，2号……千分の14，3号……千分の7。

（6） 地域手当＝基礎は基本給及び家族手当の合計額とする。地域区分は現行通り。支給率は次の通り。特号……20%，1号……15%，2号……10%，3号……5%，4号……3%。

（7） 家族手当＝A. 支給範囲＝他に生計の途がなく主として本人の収入によつて生計を維持するもので，次の各号の1に該当するもの。（A）配偶者（内縁関係を含む），（B）満60才以上の本人の父母，（C）満18才末満の本人の子女，（D）2親等以内の不具廃疾者。B. 金額及び支給区分＝配偶者（内縁関係を含む）……1,100円，父母，子女……700円，2親等以内の不具廃疾者……400円。

（8） 臨時手当＝新旧給与切換えに際し，基準的給与が現在より減額になる者に対しては，当分の間次の算式による差額を臨時手当として支給する。

〔旧基本給＋旧地域給（旧本人給及び新家族手当に対する旧支給率による地域給）＋旧職務手当（旧職責給）〕－〔新基本給＋新地域手当〕＝臨時手当

（註） 退職金については現行退職金規程に準ずるが算出の基礎額は別に定められる。

職務評價について

1. 對　象

（1） 職務評価は，現業，非現業の各職務について行うものであるが，

A 使用者の利益を代表する職務及び

B 電気事業本来の職務以外の職務であり，且つその職能により，その賃金について或る程度の社会的水準が存在している職務は除く。

（2） 現在の仕事の内容をそのまゝ見るか，理想的な想定による仕事の内容を見るかの問題に突当るのであるが，原則として，現在の業務をそのまゝ見ることとする。

2. 評價法には序列法，分類法，要素比較法，点数法があるが，点数法を主体としつゝ，要素比較法を採入れることゝし，概ね，労仂科学研究所副所長本林博士の主唱する所謂労研方式（正確には本林方式）に則るものである。

3. 基準職務の選定 会社の規模が広汎に亘り，職場の種類，数も多いので，全職務に対し一時に同一の方法によつて行うことは困難であるから，業務の各系統に亘り基準となる職務を選び，この職務について可及的精密な評価を行い，その他の職務についてはこの基準職務と各要素の比較を行うことによつて，その価値をきめる方法をとる。

4. 職務の調査 職務の調査は業務組織に於ける職務が，如何なる態様で，如何なる工程を経て，その間如何なる機能をもつて行われるかを客観的に把握し，職務の内容たる仕事を明確に記述することである。その具体的方法としては，調査員が対象事業所

の役職者から業務の内容を聴いて記入してゆく所謂質問法によることゝする。作業職については，右の外，時間調査，作業強度調査，環境調査，疲労調査等数量的に示すことが出来るので，作業職の基準職務については概ね労働科学研究所に委嘱してこれを行うものである。

5. 職務の設定　個々人の仕事が調査されると，それによつて浮彫りにされた内容について，後述の評価要素により評価するのであるが，その場合質と量との全く同じ仕事を3人の人がしていた場合は3人が同一職務についているのであつて，その一職務を評価すればよい訳である。更に若干の差はあつても，その質と量の程度が類似しているものはこれを一職務として把握することが適当である。そこで課長とか係長とかはその業務の内容が明確であるから，一職務として把握評価するが，一般係員については，主として判断要素につき，その業務が指導，企画の如き判定的な性質であるか，定型的な一般業務であるか，補助的乃至見習的のものであるかによつて夫々A職，B職，C職と区分して把握することゝする。これにつき若干説明すれば次の如くである。

（1）A職　役付の直ぐ下で自分の与えられた仕事を概ね自分の判断で行い得て，それを役付が事細かにチエツクしなくてよいグループ。作業職の場合，組長，班長，次席等の名称で呼ばれているものをこれにあてる。事務職の場合は，かゝる職名の明確でない場合が多いが，主任，次席，班長等呼ばれる場合もある。

（2）B職　A職の下で大部分の定型的な日常の仕事は満足に行えるが，予定しない変つたことが起ると，上級職の者が指示を与える必要のあるグループを称する。所謂一般工，一般事務技術職であり，仕事の中心勢力をなし数も最も多い。

（3）C職　B職程の熟練度がなく，個々の仕事につき細かい指示を受け，又は，A職，B職の補助的仕事を担当するグループを称する。

上記の区分により，例えば何発電所電気員A職，何支店経理係C職の如き職務に括ることゝなる。但しその職務の区分は仕事の質，量の類似によつてなすのであるから，同じA職であつても，一本に括れぬ場合は，A_1，A_2，A_3 ……として別職務とする。B，C職の場合も同様である。

6. 評価要素

（1）各職務の共通点を把え，且つこのうち，各職務間に格差のあるものをもつて着眼点となし，この着眼点が即ち評価要素である。（その分類及び数はウエイトの部を参照）

（2）各要素の概念規定を次に記述するが，これを厳格に行うことは，二重評価の誤を犯さないためにも重要である。

A　潜在力＝職務を遂行するためには従業員が過去において蓄積した「知識」「習熟」が必要である。両者は共にその人に備わつていなければならない力であり，職務遂行の源であり，資格条件である。

（A）基礎知識＝着眼点は正式の技術や原理に関する理論的，基礎的知識であり，その職務に要求され活用されている抽象的な知識，例えば経済理論，電気理論等の知識である。

（B）習熟＝会社業務に或る期間たずさわる過程において無意識，有意識の間に獲得せられる業務に関する知識（業務関連知識）及び技能（仕事の速さ，正確さ，勘，コツ等）をいう。前記基礎知識をもつた通常人が，その職務を普通に遂行し得るようになるまでの最低の期間をもつて測定する。

B　現出力＝前に述べた潜在力をそなえたものが日々の仕事をしてゆく場合そこに有形無形の消耗を伴う。これはいづれも職務遂行過程に従業員の負荷となつて表われるもので潜在力或は責任と異り，比較的具体的に把握され，その程度が端的にその量と質によつて影響される特徴がある。

（A）精神的負荷＝職務遂行過程における無形の消耗たる精神的負荷のうち大脳の思考中枢に関するものが（イ）判断（又は応用性）であり，感覚に関するものが（ロ）心的緊張である。

（イ）判断とは潜在力の存在を前提として，その職務遂行上に起る問題を理解し，推理し，決断することであり，仕事の面からいえば，この理解，推理，決断の三つの過程の必要度，要約すれば仕事の複雑度である。

（ロ）心的緊張とは大脳中枢神経の活動までに至らない，その職務遂行の五官末梢神経に及ぼす精神的影響であり，仕事のテンポ，拘束性の多少，要求される精密度等によつて左右される感覚的な緊張である。

（B）肉体的負荷＝仕事をしてゆく上に通常伴う身体的な動作による消費エネルギーの負荷（(イ)肉体負荷）と，作業上の客観的状況（(ロ)作業条件）があり，後者には不測の災害事故による身体，生命の危険度（(1)災害危険）と作業場の環境条件（(2)作業環境）の二つがあげられる。

（イ）肉体負荷は作業に伴う身体の動作による肉体的消耗であり，主としてエネルギー代謝率を以て表示することができるが，四六時中所謂重労働が継続することはあり得ないので労働の質と量を考慮して平均代謝率，休憩の入り方，ピーク作業の量，質等を考慮しなければならない。

（ロ）作業条件のうち

(1) 災害危険は職務遂行上に発生する事故―災害及び疾病―の可能性をいゝ，主として過去の統計による事故の度数，強度，損失労働日数等を綜合して判定する。

(2) 作業環境は災害危険が不測の状態において起る可能性であるのに対し，その職務に常時つきまとう状態であり，従業員の疲労の原因，健康に悪影響を与えるものである。具体的には，温度，湿度，騒音，照明度，塵埃，有毒ガス，汚染等につき綜合的に判定する。

C　責任＝職務の遂行に関して企業が従業員に一職務評価の観点に立てば各職務に一課する義務を従業員（職務）の側より負荷として見た観念である。逆に云えば課せられた義務を完全に果すことによつて責任が全うせられるのである。

（A）人的責任（指導監督責任）＝業務が能率的に行われるように従業員を教育，指導監督する責任，チームワーク並びに現業における他人の安全に対する責任をいう。具体的にはその職務遂行上教育指導監督する従業員の量及び質によりその程度が決められる。

（B）物的責任（業務責任）＝業務の工程，段取に対する責任，設備物品等の管理に対する責任等を謂い，どの程度の危所をあずかつているか，その仕事の出来ばえの他に及ぼす影響等を考慮する。但し，この場合悪意のミスは考えない。

7. 評価要素の等級

（1）等級区分

肉体負荷及び環境は測定値をもつて等級を表し得るから，これによるが，その他の要素については，次の方法によつて，等級を附することゝする。

即ち，全体の内，明かに上位のものと下位のものをまず分け，各1グループとしその中間を1グループとする。この中位の群の内で上位には行かぬが上位寄りと思われるものを分ち，同様にして下位寄りのものを分つ。更に各群内で差別出来るものは，細分して順序をつける。以上の方法により，各要素に夫々の段階を附する。次に前記によつて設定された段階に等級を附するのであるが，先づ各要素の級数をそろえる基準を導入することゝする。即ち，例えば「過去に於て熟練を積まなければならぬ最初の段階」「一般社会人より多くの肉体的消耗のある最初の段階」或は「作業の際の悪環境として取上げねばならぬ最初の段階」というように企業にとつて，その職に就くことにより，何等かの価値を見出す最初の段階，云い換えれば企業に対し補償を要求して恥かしくない最初の段階を各要素共3級と規定するのである。従つてこれより下は補償を要求するに躊躇する段階であり，3級を超ゆるものは，より大きな補償を要求してよい段階である。更に5級は，3級に比し明かに差異のあることを多くの人々が承認する段階，7級は，大多数の人が，素人でもその価値の高いことを区別し得る段階，9級は7級より更に価値の高いことの明らかな段階，更に12級乃至15級を人間の能力の限度に近い段階と考える。これにより，価値として先づないという 0—1級と，3級，5級，7級，9級及び12級以上，これ等の線で要素間の横の関連をつけることゝなすのである。尚実際の評価に際しては 2，4，6，8級等を設け更に必要に応じ各級の中間段階（1.5級，2.5級……）を置き得ることゝする。

（2）等級の定義

等級の定義をなすに当つては，つとめて客観的且つ具体的ならしむることに留意しなければならないが，各要素別，等級別の定義は，「職務等級区分基準表」（別表）に示す通りである。

尚肉体負荷，災害危険及び環境に関しては科学的数値を把握することが出来るので下記による。

A　肉体負荷については平均代謝率を主軸として主作業代謝率，ピーク作業，休憩の在り方等に準拠する。

代謝率の基準は次の通りである。

等級	1	2	3	4	5	6	7	8	9
平均代謝率	0.8以下	0.9～1.2	1.3～1.7	1.8～2.2	2.3～2.6	2.7～3.0	3.1～3.3	3.4～3.6	3.7以上

B　災害危険については，過去の災害及び疾病（職業病と認められるものに限る）の統計に準拠し，災害の頻度率，強度率等を綜合的に考慮し，「注意を怠ると災害が起るが大したことはない」段階を3級とし，「基準法上許されない」段階を7級として上下の級数の基準とする。

C　環境については，騒音，粉塵，汚浄温湿度は下記の基準による。

環境要素	感覺温度	實効輻射温度	騒音	振動	粉塵 遊離珪酸を含まざるもの	粉塵 50%以上遊離珪酸を含むもの	一酸化炭素
程度	0°C以下 0°～4°C 4°～29°C 29°～33°C 33°～35°C 35°C以上	10°C以下 10°～30°C 30°～45°C 45°～50°C 50°C以上	80～100 db 100～120 db 120db以上	衝撃的でないもの 普通程度 衝撃的に大	1000～2000 2000～3000 3000以上	400～700 700～1000 1000以上	0.005～0.01 0.01～0.03 0.03～0.05 0.05～0.01以上
等級	5 3 1 3 5 7	1 3 5 7 9	3 5 7	3 5	3 5 7	3 5 7	3 5 7 9

尙これ等現出力要素はその程度に時間数によつて著しい差が生ずるので時間数を考慮して決めることゝする。

8. 評点の算定

(1) 評点換算＝評価要素の等級は順序を定めるものであつて，そのまゝ価値を表示することにはならない。点数法により評価するにはこの序数を評価点数に換算しなければならない。この場合換算式は等差級数的であるよりも等比級数的の方が合理的と思料せられる点が多い。例えば「歩行」という現象についていえば 2Km, 4Km, 6Kmの距離による肉体負荷，心的緊張は決して2対4対6とはならなず，距離が遠ければ遠い程通増するものである。又習熟についても，最初は習熟の進む速さが目立つが，終りの段階ではその速さが鈍るものとされている。故に同程度の熟練度を得る為に上級部分では，より多くの期間が必要である。環境条件も亦苦痛の影響は悪条件の程度が増すに從つて加速度的に増えるので函数(本林方式) $y=x^2+x+8$ を用いる。これを点数で示せば次表の如くである。

等級	0	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6	6.5	7	7.5	8	8.5	9
点数	8	10	12	14	17	20	24	28	33	38	44	50	57	64	72	80	89	98

(2) 異質因子及び時間因子の綜合＝職務は質の異なる数ケの仕事，数ケの作業からなる場合が普通であり，或は環境に於ける塵，暑さ，騒音の如く異質の条件が重なる場合もある。これ等の場合1職務について，各要素毎の等級を決定するためには，これら異質のもの各々について要素毎の等級を定め．更にそれをその量（時間）に從つて，綜合しなければならない。(この異質の因子の数及びその量は，職務分析の際明瞭にされている）この綜合は次の方法により行うことゝする。

A 潜在力及び責任の場合＝潜在力即ち基礎知識と習熟並びに責任は最高位のものを取ることゝする。蓋し仕事の一部分にでも高度の質を要求するものがあれば，その職に就く者はその質の備わつたものでなければならぬからである。

B 現出力の場合

(A) 肉体負荷　負荷測定の通説に從つて各動作毎に測定せられた平均エネルギー代謝率に各時間を乗じたものの総和を総拘束時間で除し，総平均を求める。

(B) 其の他の現出力要素　まず先に，各因子毎に「職務等級区分基準表」(別表）によつて等級を評価しこの評点に時間を乗じ更に総拘束時間で除して，平均評点を求め，この点数と近似の点数を有する等級を，綜合せられた等級とする。

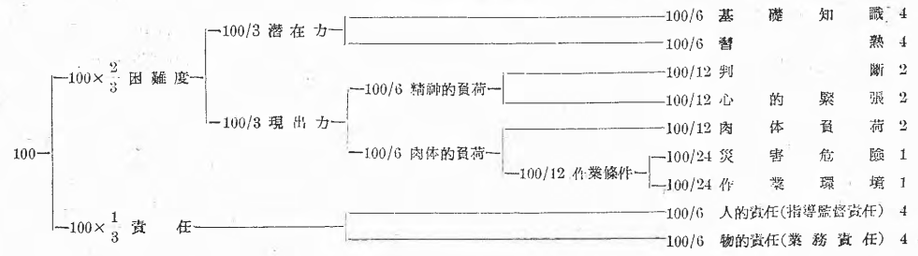
9. 評價要素のウエイト

評価各要素に異るウエイトを置くことは，各要素の経営に対する価値が異ると思料せられるが故である。アメリカ及びわが国の事例を參酌し，下記の本林方式によるウエイトを採用する。

10. 職務の職級編入

以上の方法により職務は要素別に評価して各等級に格付せられ，この等級に対して評点が附与せられる。この評点にウエイトを乗じたものを累計することによつて各職務の綜合評点を得ることゝなる。かくて得た綜合評点を，次表の区分に照して各職務の職級を定めるのである。

評点區分	240点以上 276点以下	276超過 318〃	318〃 366〃	366〃 422〃	422〃 486〃	486〃 560〃	560〃 644〃	644〃 740〃	740〃 852〃	852〃 980〃	980〃 1,128〃	1,128〃 1,298〃
個人職級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12



(別表)

職務等級区分基準表

要素 / 等級	知識	習熟	判断	心的緊張	作業環境	災害危險	肉体負荷	人的責任	物的責任
0									
1	通常の精神状態であれば文字が読めなくてもできる，例えば佛造，運搬，ﾄﾞﾘﾙ押し等.	普通の常識のある者ならば簡単に間に合う.	極めて単純な仕事であつて上級者の指示通りにすればよい	特に緊張を必要としない.	別に取立てゝ問題とならずむしろ良好な環境.	一般家庭における災害危險度と差がない	密度が甚だしくかたい，(平均R.M.R)0.8以下	常に指導監督をうけている細部的なもの	
2	尋常小学卒業程度のもので仕事に就と理解が必要でない，例えば簡単な工具を定型的に使用する仕事，加減計算が出来る程度.	6ヶ月程度の見習を必要とする.	仕事が反覆的なため殆ど選択判断の必要がない.	軽微な緊張を断続的に必要とする	普通の注意を払つておれば災害がない.	普通の注意を払つておれば災害がない.	現場における軽い作業で特に力仕事ことがない，(平均R.M.R) 0.9～1.2	指導することは考えられないが後進者に注意することはある一般工の責任.	大部分の仕事は指示をうけて行われ，その仕事が完成しても大して影響のないもの.
3	高小卒程度の知識を必要とし帝識程度の理論を持つておればよい，例えば定型的な計算事務，而単な設備の定型的な点検操作等.	1ヶ年程度の見習を必要とする.	仕事が定常的なため二者択一的な単純な判断を必要とする.	軽微な緊張が持続的であるか，又は断続的にやゝ強度の緊張を必要とする.	不快な条件は若干あるが馴れゝば気にならない程度の環境.	注意怠慢による災害はあつてもそれが比較的軽微である	時々力仕事が加わるか又は比較的軽い力仕事が連続する，(平均R.M.R) 1.3～1.7	非同作業において指導的役割をもち若干の補助者をもつ程度の一工程を担当しているもの.	所謂一人前の生産一般工の一般業作.
4	新制中学卒業程度の知識で簡単な慣例的な仕事を処理する程度.	3ヶ年程度の経験を必要とする.	仕事は定常的であるが内容がやゝ複雑なため必要個のケースから選択判断する必要がある.	軽微な緊張が持続しやゝ強度の緊張を必要とする	不快な条件があるため神経が疲れる環境.	不可抗力の災害が稀に起り，その程度が少し大きい	比較的軽い力仕事が連続し時々力仕事が加わる，(平均R.M.R)1.8～2.2	同作業において指導的役割をなすもの.	やゝ偏所をあずかつている.
5	やゝ理論を必要とし乙種中学卒業程度の知識を必要とし比較力で簡単な専門書が読める程度.	5ヶ年程度の経験を必要する.	比較的狭い範囲の大綱が定つていて数個のケースから選択判断する必要がある.	厘々強度の緊張を必要とするので若干怠ることも出来ない.	不快な条件は若干あるが馴れゝば気にならない環境.	不可抗力の災害が稀々起り，その程度が甚だ大きい.	特殊的な力仕事を必要とする，(平均R.M.R)2.3～2.6	主として指導的役割を兼ね定常的な業務はしない.	急所をあずかつている.
6	理論的な知識を必要とし帝識程度の理論を持つておればよい，例えば定型的な計算事務，而単な設備の定型的な点検操作等.	7ヶ年程度の経験を必要とする.	比較的狭い範囲の大綱が定つていて応用的判理を必要とする	細心の注意と可成りの緊張を要する	普通の環境	5より更に危險の程度が高いので設備の改良を必要とする.	特殊的な力仕事で時強いとき力仕事が多い，(平均R.M.R)2.7～3.0	更に人数が多く且つ指導の程度が高い.	数個の急所をあずかつてその出来ばえが他に影響を及ぼす.
7	新制短期大学卒業程度の知識を必要とする.	10ヶ年程度の経験を必要とする.	やゝ専門的知識をもつて理解できる程度の内容をもち大綱的な決心でやゝ応用的判理を必要とする.	細心の注意を常時必要とするので，体務の時を相当の精神的疲労のもとする程度.	更に危險なため基準法上許されない	指導されるものが多いので補助者をおかねば指導を全うし得ない.	6よりピーク作業の頻度が大きいので作業を長くつゞけることができない，(平均R.M.R)3.1～3.3	一つのまとまつた部門全般をあずかつており，その出来ばえの影響が顕著としたもの.
8	旧制専門学校乃至新制大学卒業程度の知識を必要とする.	13ヶ年程度の経験を必要とする.	専門的知識をもつて理解できる程度の内容で大綱のみ定つていて，而も応用的判理を必要とする.	7より更に緊張の程度の高いもの.			更に負荷が大きいので運ばれた体力をもつものゝみが行い得る，(平均R.M.R) 3.4～3.6	まとまつた部門全般をあずかつており，その出来ばえが他に大きく影響する.	
9	旧制大学乃至新制大学院卒業程度の知識を必要とする	15ヶ年程度の経験を必要とする.	専門的知識をもつて理解できる程度の内容で大綱のみ定つていて，而も応用的判理を必要とする.	8より更に程度の高いもの.			更に負荷が大きいので更に少くれた体力の持主のみが行い得る，(平均R.M.R) 3.7以上	まとまつた部門全般をあずかつており，その出来ばえの影響が更に大きい.	

農山漁村電氣導入促進法について

営業部普及課

政府はこの度び農山漁村の電化の促進を図り，之が設備の補助や融資の道を開くため標題の法律を定め，27年12月29日より実施することになつた。この法律は12カ条より成り各条文は目的，電気導入計画，資金の貸付，国の補助，事業計画書の提出，農林大臣の指導，都道府県その他の団体の指導，電気事業者との協議，対価等の不服の訴，土地改良事業との調整，電気及びガスに関する臨時措置に関する法律との関係等を規定し，附則によつて他の関係法令との関連を調整している。以下に本年度の予算措置や取扱の概要について解つて居る範囲で参考迄に記述致します。

◎従来と大きく変つた点

従来から開拓地の電気導入については，生産用動力として動力線設備（単に点灯用配線設備は除く）については国庫並に県費の補助があり，又小水力発電に対しては融資がなされて居つたが，この法律によつて前記の他に新に電力会社や他の電気事業者から電気の供給を受け未点灯の解消或は電灯線から動力線設備となす場合の所要資金（工事負担金を含む）に対しても融資されることになつた。

◎補助金融資金の支出範囲

（イ） 開拓地に対する補助

総事業費（総工事費電灯電力設備）の½は国庫
　〃　上　　の⅓は県費
残りの½は受益者並に電力会社の工事負担金規程に定められたる負担額とする。

（ロ） 融資を受ける場合

総事業費の８割となつて居るが査定の上概ね６割内外になる模様である。

◎28年度の予算額

総額９億円であるが其の内訳としては

小水力発電に	7億円
火力発電設備に	4千万円
受電並に開拓地に	1億6千万円

と一応農林省は予定して居るが，総額９億円の範囲内で内容に於ては多少融通は可能ではないかと謂われて居る。然し上記の予算額に対し目下農林当局に要請されて居るもののみでも約40億円に上つて居るとのことであるから相当厳選されるものと思料される。

◎指導機関の設置

中央には農林省，通産省，農業電化協会電気協会等から委員が選出され協議機関が出来，指導に当られ，又各地方毎に支部が設置される由であるから当然東北地方としては仙台に事務局が設けられるものと思われる。

◎取扱の金融機関

従来は農林漁業特別資金融通法によつてなされて来たが，本年４月から発足される農林金融公庫が当られることになつて居り具体的な取扱要綱等は近く制定される筈である。

◎当社としての指導

従来からの経験からも解る様に，小水力発電が如何に農村電化に成功しなかつたことの事例を良く認識せしめ，餅は餅やの当社からの負担工事で受電することの将来共に有利なる点を指摘し，特別な地域を除く他は出来る丈け当社から配電する様指導されたい。

又未点灯部落のみでなく単相線の三相化等も併而本法に準拠し融資も受けられる様指導啓蒙をなし，所謂農村電化，電灯に動力に電熱に広く電気の恩恵に浴することが出来る様各位の御指導を期待する。

参照條文

（資金の貸付）

第４条　政府は，前条の計画を実施するため，農林漁業団体に対し，農林漁業資金融通法（昭和26年法律第105号）の定めるところにより，当該農林漁業団体が主として自己又は組合員その他これを組織する者の用に供する電気を導入するために必要とする左の各号に掲げる資金を貸し付けるものとする。

1. 発電施設（これに伴う送電変電配電設備を含む。以下同じ。）の造成，復旧又は取得に必要な資金
2. 送電配電施設（変電受電設備を含む。以下同じ。）の造成，復旧又は取得に必要な資金
3. 電気事業者（電気及びガスに関する臨時措置に関する法律（昭和27年法律第341号）の規定により

（47頁へ続く）

支店だより

岩手支店

○久慈電業所と久慈變電所竣功

岩手のチベットといわれる北上山脈の北端太平洋岸に近く磯の香のする久慈町において，当社の久慈電業所及び久慈変電所の竣工式が２月４日挙行された。この両所の竣功は，町民待望のものでもあり，且この地方の産業振興，文化の向上等に寄与するもの頗る大なるものがある点に於てか，地元町長始め，関係者挙げてこの建設に協力を惜しまなかつたものである。

当日は感謝状及び記念品を贈つて夫々その労にむくいたが，又地元の手踊りなどの特別参加もあつて，和気藹々の裡に進められ，今後の業務運営上多大の成果を収めたものである。

◇久慈電業所

久慈電業所は約10年前，当町名物の大火で焼失して以来，仮住居は元久慈町営電燈の旧火力発電所本館において業務を実施していたものであつたが，今度コンクリートブロック防火建築の２階建が町の中心街の防火壁も兼ねて，一大壮観を呈することになつた。

階下は客溜り，営業室，応接室兼主任室，其の他，階上は会議室，予備室等で延坪数75坪の堂々たるものである。

今後当地方の電力の増加と相俟つて，サービス面の強化にも１役も２役も買つている事を思えば，この電業所の新築落成は，まことに意義深いものといわねばならない。

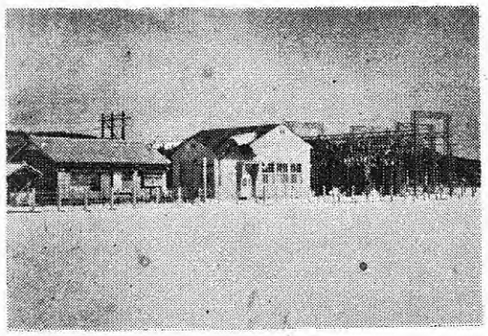
◇久慈変電所

本地方における電力供給は従来，川崎製鉄株式会社久慈工場の自家用変電所によつて委託変電をうけて一般配電を行つていたものである。その設備は約2,000KW程度の供給能力しかもたず，諸種の事情によつて一般配電の契約電力は 800KW に制限され，実際負荷は1,200KW と常に契約を超過している状況であり，需用家の新規並に増加電力の申込に応ずることは不可能であつた。

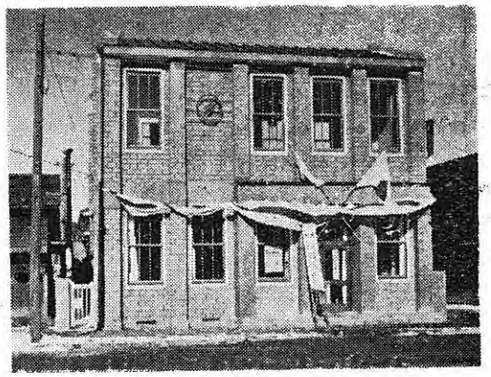
これに加えて故障其の他による緊急連絡に際し他社設備なるが故に種々支障を来し，需用家へのサービスは万全とはいゝ難く，従つて久慈町発展の為にも将た又九戸地方或は県北地方の産業開発の為にも，その根源となるべき久慈変電所の新設置が強く要望されていたものである。

かくて昭和25年以来建設計画が進められていたものであつたが，安家川系発電計画の推進に伴いその幹線中継地をも兼ねる当変電所の新設が具体化され，昭和27年２月以来予算約 3,400 万円を以て着手せられたのである。

以上のような状況にあつたので，敷地約 920 坪の買収に対しては町長始め町民の好意的斡旋協力により，予定通り完成，昨年暮竣工試験を無事終了し，送配電線



久慈変電所



久慈電業所

の完成をまつて本年1月営業運転を開始したものである。本変電所は自動再閉路式を採用し勤務員は僅か2名のみである。

将来八戸市を中心として発展するその一翼として，又未点灯部落の多数をその周辺にもつこの地方の中核変電所として，その使命たるやまことに大なるものがあるといわねばならない。

以下変電所の概要を記すれば，

1. 認可出力　5,400KVA

　主要変圧器　単相　1,800KVA　3台

2. 引込(出)線

66KVA	送電線	1回線
6.6KVA	配電線	2回線
3,300V	配電線	2回線

3. 運転方式　自動再閉路方式

○サービスカー来る

渇水期のさ中，電力制限，節電の御願等を兼ねてサービスカーの巡廻披露が行われ，当支店に於ても県南一関市を皮切りに北上川に沿う地区を北上し，県都盛岡迄お目見えしたものである。

待望久しかつただけに，又必要な時機的なものだつただけに，各所に於て非常な成果を収めた。特にサービスカーのもつ機能の各種についてのざん新な設備能力が，今後此の種機関設備についても，じさする所多く併せて好評を博したものである。

併し，今回は季節的制約をうけて，若干走行を制約され且映寫や電気機器の実演説明が出来兼ねたことは残念であつた。

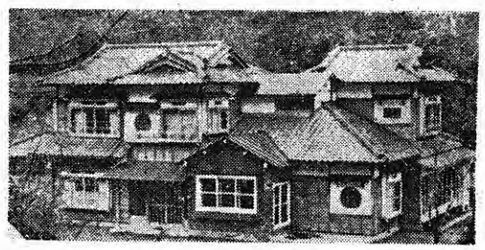
今後は，地域的に特に広いといわれる当支店管下においては，その活用によつて業務遂行が非常に成果を挙げ得るものと大いに期待するものである。

○つなぎ保養所開設

つなぎ温泉は県都盛岡より西南へ16粁，眼路はるかに岩手山の秀嶺を仰ぎ，傍に雫石川の清流をのぞみ，近郊には有名な小岩井農場の牧野を控えた山紫水明の保養適地であります。

今度当社健康保険組合が，この天恵の温泉郷の最好地に純日本風の優雅な木造2階建を新築し，待望久しかつた皆さんの保養所として開設されたものであります。

バスの終点よりだらだら坂をのぼつて約2分，半腹のうちに自然の四季の変遷が観望される高台で，道をへだてて前には岩大農学部の温泉利用の実験温室もあり，冬のさ中であつてもトマト，メロン等がガラス越



つなぎ保養所

に見える閑寂な境地でもあります。

間数は桜，楓，皐月の間等で休養室をも加え7室で直接湯本からこんこんと流れそゝぐお湯は無色透明，やわらかな湯の香に身も心もほんのりと温まる佳境であります。

盛岡よりバスで40分，1日9往復している便利さで，又橋場線小岩井駅より徒歩で約50分，ハイキングコースとして利用されるのも好適であります。

社員各位，又家族御同伴に身心の保養に皆さんの御利用をお待ち致して居ります。

（御利用の方は3日前迄に岩手・労務・厚生係迄連絡のこと）

（岩手支店　N　生）

宮城支店

○石巻営業所の電氣事故防止懇談會

石巻営業所主催により去る1月20日定期招集日を利用して第2回電気事故防止懇談会を開催した。

支店より横田労務課長今野厚生係長出席又地元より国警市警及び消防署長労働基準監督署長並に電気工事業者を招き各氏の講話を拝聴する事にした。

〔営業所長挨拶要旨〕

講和発効後自立経済は電力の開発と豊富な電力を産業方面に送る事であり，それに従事する作業員は安全管理事故防止等には常に心掛けて作業すると同時に一般需用家にも電気知識の向上に努めてほしい。

〔労務課長挨拶要旨〕

電気事故を無くすと言う事は如何に大事な事であるかは申す迄もない。機会ある毎に会合を以つて注意し合う事は結構な事で，一寸の油断が大事に至らしめるから念には念を入れて確かめる様に心懸ける事が肝要である。

〔国警次席挨拶要旨〕

盗難防止については盗難があつた場合は速かに届出

をして下されば犯人は早急に逮捕出来るからすぐ届出る様に御願いする。

〔消防署長挨拶要旨〕

電気からの火災は無届使用と電気知識の低い関係上発生する率が多いと思うから，専門家の皆さんも工事の内容については充分気をつけて戴き火災を無くする様協力して下さい。我々消防の任に当つて居る者も電気の知識及び工事の内容を身につけて努力致して居るが，それと共に電力会社，工事業者の協力がなくしては非常に至難な事であります。又不良電気用品の取締規定工事規定に違反しない様にする事によつて，電気による火災の絶無を期する事も不可能ではないと思う。

〔労働基準監督署長挨拶要旨〕

電力会社では安全管理については非常に熱心で安全作業心得を従業員全部に配布してあることは非常に喜ばしい。其の心得通り実行する事により安全が保たれるのである。事故を人力で以つて防止することにより1人も事故を起さない様にすることも不可能ではない。26年度に於ては東北，北海道を通じ一番多かつたのが27年度に入り非常に減つて来た。これは所長さんが事故防止のため非常に努力され，又従業員の方々が所長さんを中心に一致団結した賜であると思う。28年度は一番成績の良い営業所にして貰いたい。会社では色々手を盡して事を守り注意力を怠らずに作業する事に依り事故をなくするため努力される様希望する。

以上各署の講話が終つて質疑応答に入つた。

問（広瀬保）電線盗難事故等の場合機動力があつても優先逮捕権がなければ犯人逮捕も遅れるから出来得るなら消防署同様優先交通権を与えられたい。

答（大山国警次席）当地区署にはパトロールカーが配置されて居るから何時でも出動出来る。精々御利用願う外，今の処は御希望には添い兼ねる。

答（労務課長）仙台営業所では与えられたと聞いて居る。

問（女川散）無事故の営業所，散宿所に対して年1回又は2回何らかの型で表彰して下さい。

答（労務課長）もつともな御意見であります。悪い事はやめ，良い事は褒めると云うのは当然であり現在無事故に対する表彰はやつて居り，又監督署でも安全無事故表彰は実施して居る。

答（営業所長）只今の御希望に対しては営業所としても予算の許す範囲内で行いたい。

問（業者）火災が起きた場合すぐ漏電と出るが，後で原因が判明した時それも新聞等に掲載してもらいたい。

答（大山国警次席）新聞記者が私観によつて書くので警察としては軽々しく原因は話さない。

問（女川散）漏電説がすぐ出るのは盗電にも原因して居るから，其の現場を消防署の方々に見て頂きたい。

答（消防署長）原因不明のもので電気と思われるようなものが石巻市内で5件もある。その様な場合は是非同行して見たい。

問（業者）従業員の怪我した際は女川の様に郡部の時は2，3日届出が遅れると労災が適用されないと云つて居りますが……。

答（監督署長）労災は医者の証明を送るだけでよい。面倒な事がない。

問（鮎川散）事故発生の際は早急に復旧するため，又事故の拡大を防ぐため交通の不便な場所に機動力を持つ事は有利である，会社として此の点考慮して貰いたい。

答（営業所長）これは会社の多年の計画である。現場機関に於て何処も自転車で歩く事は困難が伴うので会社に於ても機械化を計画して居る。その一端として近く各営業所に小型自動車が配置される。それに伴う頭の機械化即ち勉強も必要である。

答（労務課長）社長も機械化について熱心に考えて居る。

問（渡波散）現在方々で技術方面が低下して居ると聞きますが，年に2回位技術競技会をやつて下さい。

答（工務課長）技術競技会及び講習会を計画中で近日中に実施したい。

問（女川変）現在会社で実施して居る社員教育は門が狭い。その点安全管理の面からも若い人々の技術向上をはかる様にして貰いたい。

答（営業所長）支店で実施して居る社員教育は幹部教育及び未経験者の教育であるが，講習を受けたものは帰つたなら他に知識を与える様にして貰いたい。今後は広範囲にやる意味から営業所単位に実施する様にしたい。

以上の質疑応答の後16時20分有意義且つ盛会裡に懇談会を終了した。

（石営　小林(一)記）

山形支店

○遊佐變電所の完成により
飽海地方の電力事情好轉す

戰後一夜作りで建設された製塩用の変電所としての吹浦変電所は，設備の不完全と海岸である為に海水の吸上と，それに見る同地方の強風に依り避雷器の損傷と引込線の断線が甚だしく，加えて同地方の負荷の事情にも相反している状態であつた。

橋本変電所は戰後に於ける農事用電力の増加と一般需用の激増に伴い，容量の増加を計る必要が急務となつて来たのである。

当社としては飽海地方の電力事情を考慮し，上記吹浦，橋本両変電所を廃止して新に遊佐変電所新設工事を着手したのが昨年10月であつた。季節的に恵まれず厳寒を冒しての努力の結果は結ばれて，去る1月30日に完成して飽海地方一帯の電力の悪状態が一掃されたのである。

遊佐変電所

出　力	3,000KVA
電　圧	66KV/3.45KV
変圧器	1,000KVA
配電線	4回線
制伽方式	半自動（自動再閉路）

○鼻息の強い天狗連の將棋試合

忙中の閑を利用してかねてから計画されていた將棋天狗連中の山形支店対山形営業所の対抗試合が去る2月21日土曜日に行なわれた。各15名づゝの選手を出しての白熱戰は口も達者で無ければ勝てない噂さ通りの戰いが展開されたが，各職場の代表ともなれば悲喜交々なごやかな場景が催された。

各5人宛の3組に区分し組の総当り試合であり

松　組	支店	14点	山形営業所	11点
竹　組	支店	19点	山形営業所	6点
梅　組	支店	8点	山形営業所	17点
計		41点		34点

で団体戰では山形支店に凱歌が挙つた。

尚個人戰では各組の優勝者3名に依つて斗はれたが，山形営業所橋本選手の頭上に輝いた。

○社員教育

今後の効果に期待

―受講者は語る―

電気事業の重要性が益々痛感せられるゝに鑑み，社業の合理化と能率的な運営の一環として従業員の質的向上を計る目的を以て，意義ある社員教育が開講された。

受講者の或社員は

ほんとうに有意義でした。現場に居るととうしても沈滞勝ちになり易く，発憤する気力がおとろえる感じです。

本ばかりに頼るよりも，こんどの様に短い期間でも受講すると新しい事柄を教えられると共に復習にもなり活を入れたことになりました。

と，しみじみ其の感想を語つていた。

其の様に空腹に飯を喰つた如くに効めは無いかも知れないが，もつともつと深い基盤のある効果が強い力となつて湧き挙つて来ることであらう。

教育日程は次の通りであつた。

送電関係	1月29日～31日迄
受講者	8名
配電関係	2月24日～26日迄
受講者	32名
発変電関係	2月19日～22日迄
受講者	19名

北芝松川工場を見学し同工場驚見，木原，古田技師の講義を受く。

土木関係	2月10日～12日迄
受講者	12名

沼山発電所を見学し其の得る所多いと痛感せらる。

○目標5,000台を突破か
山形支店ラジオ販売活況振り

昨年10月に予定されていたラジオ販売もストや其の他の関係で延期されていたが，いよいよ去る1月10日より開始された。農村地帯の多い山形としては旧暦の正月と農閑期を利用したのであるが，例年に無い多雪の為に行動力を減じられた運動員は之れを突破して売行すこぶる良好であり，係員も整理に汗だくだくの嬉しい悲鳴を挙げている状態で，目標の5,000台をはるかに突破するので無いかと見られている。

各営業所毎の目標次の通り。

山形営業所	1,500台
米沢　〃	1,000〃
新庄　〃	700〃
鶴岡　〃	900〃
酒田　〃	700〃
支店　〃	200〃
計	5,000〃

○議員は電力問題の為に働く人を
山形の「電力は国の寶」懇談會

「電力は国の寶」運動が積極的に展開され日一日と電力の重要性が国民に認識されて来ましたが，これで充分であると言う迄にはまだまだ遠いのが実態でせう。

今年は珍らしい寒気厳しく例年に無い渇水の為に，電力需用家も一般電燈需用家も不利不便をぢつと我慢している其の真最中に開催された，電力は国の寶運動懇談会の意義と重要性は特に深いものがあつた。

2月19日山形市町村会館に開催され，参加した各界の代表者の意見は次の様なものでした。

○県会，大口需用家

東北地方で開発された電力は東北地方開発を優先的にして利用すること。山形県並に秋田県のため現在開発の只見川から山形県の八久和，秋田の郷内系を通ずる裏日本にも15万ボルト送電線を建設すること。

水力と火力の調整金を負担しているが，之れは資力に乏しい東北地方にとつては重荷であるから，この制度を廃止してもらうこと。

○中小企業家，一般家庭

電源の開発で誘致される重化学工業のため，小中企業，一般家庭用の電力に不足を来さない様計画的にして，渇水だと言つても今年の如き状態の無い様にすること。

尚東北電力としても水力の開発のほかに火力発電所の建設も考慮する必要があるのでは無いか。

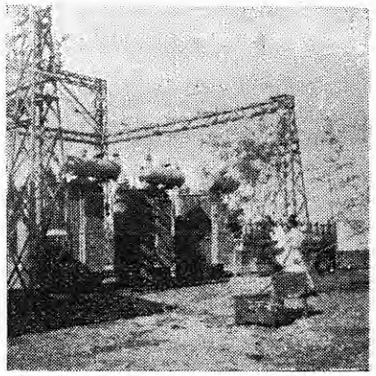
など数多の意見が真面目に叫ばれた。とくに注目すべきことは，電力問題について識見と活動力のある国会議員と県会なり市会なりの議員を選び，今後政治的問題の明るい解決を期する様努力することが満場一致で認められた。

（大　場）

福島支店

○矢吹變電所落成式

白河の関で有名な奥州の関門白河市は，電源県福島の管内で一番電力に恵まれざる所であり，早くから電力誘致の運動が行われて来たが，昨年8月に熱願が実を結び工事も順調に進行し，去る2月7日午前11時矢吹町の現場で関係者多数の臨席を得て盛大な落成式を挙げました。建物は変電所建物木造平家建1棟，建坪21坪5合，外に社宅木造瓦葺平家建2棟，建坪34坪5



矢吹変電所

合，倉庫1棟6坪で，6万KVAで受電し，3KVAで供給する800KVA主要変圧器3台を設置したものであります。

地元代表が続々つめかける中で盛大且つ厳粛に落成式が執行われました。

○会津仙台線増設工事

只見川の大電源開発も，種々な問題を孕みながらも厳寒を排して急速な建設工事が敢行されているが，片門，柳津，宮下，沼沢，上田，本名と次々に大発電所が完成に近づいている。

東北地方北部区域の供給状態を緩和し，電源地帯と直結しその恩恵を分つ意味から会津～仙台線を更に1回線増設することになり，亘長120,32 KMに140KVの送電線建設の突貫工事に移つたのであります。

総建設費574,450千円をかけて峰から谷え，川から屋根えの用地が通水路の様に拓かれております。

新潟支店

○第1回　全社スキー大會新潟支店豫選大會

今冬初の試みとして全社第1回スキー大会が2月25日，26日の両日全日本高校スキー選手権大会が開催された。スキーヤーにとつて馴染みの青森県大鰐温泉スキー場に於て実施されるに先立ち，当支店管内選抜予選大会を，2月8日妙高山麓の池の平妙高両スキー場を中心に各営業所より選抜された精鋭30名でその技を競うた。

予選大会当日は生憎妙高山へ吹き上げる猛吹雪と，加うるに前日来の豪雪で各競技種目共コースに一方ならぬ苦労をするという悪状件のもとで行われたが，幸に地元妙高スキークラブの援助により競技は比較的ス

會津電力事務所

◎十日市

若松がまだ聚落形態をなしていた未開の当時，物々交換を目的とした市場が定期的に開かれていたが，この市場の中，年始めに開かれる初市の名残が十日市であると云われている。旧の1月10日に若松全市の商人が呼物入りで商売合戦を演ずるのであるが，最近では新旧正月の二度にわたつて行う習慣となつた。この日は若松近在からも，お正月休みの客が臨時列車に鈴なりになつて乗り込んで来るので人出は毎回5万と下らないと云う。そしてこれらの人々は例外なく「起き上り小法師」や「五色の風車」や「白飴」を買つて帰る。「起き上り小法師」は七転八倒の人生秘訣を教え，「風車」はくるくる変動する景気の好調を示し，「白飴」は隠忍自重の粘り強さを表象するそうである。

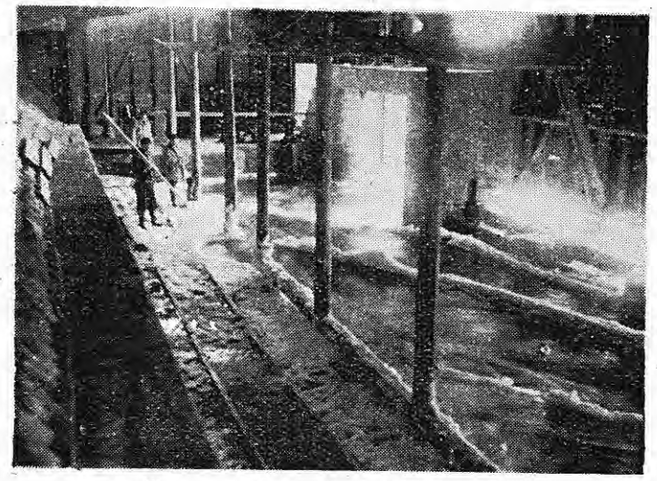
○災の神

元旦が明けて不用になつた松飾，門松，注連縄等を一まとめにして焼き棄てる為に旧1月14日の夕方に行う行事が会津名物の「災の神」である。

この日には各町内毎に有志の者が各戸の新年飾物を払い受けてこれを町内広場に集積し，山なす芝木や藁屑と共に点火する。その炎は旧正月あけの夜空に地界の災の神を焼き盡す勢で燃え上り，観衆は歓声を以てこの劫火を見守るのである。

災の神の残火で人々は家族数だけの鏡餅を黒こげに焼いて持ち帰る。この黒こげの餅を食べると無病息災で新しい1年を過せるという言伝えがある。

◎伊南川発電所の冬



伊南川発電所沈砂池流雪路

電源開発ブームに湧く本名を一歩出ると世界は急に静かになる。帯よりも狭い雪の1本道，ざくざくぬかる1里有半は雪道に慣れない者にとつては一苦労である。大吹雪の年などは全身を以て雪を押し分けながら歩かねばならないので50米を歩くのに1時間もかゝると云う。路の両側は切り立つた雪肌で雪崩止工事を施してはあるものゝ，それでも山のような雪崩が路を遮つている箇所が数箇所を数える。毎年1人2人の人命がこの雪崩の為に害われているという話である。

道には鼻水を流し雪やけした子供達が無心に遊んでいる。こゝから半道もある先生1人生徒20人の季節分校に通つているのだと得意そうに話してくれた。

しーんと静まつた谷間の村に聞えて来るものは発電所の唸音と，只見川のざわめきとそれから最近建つたという雑貨屋の電蓄から流れる「涙の渡鳥」だけである。このような社会に生を営んでいるのが伊南川発電所の従業員なのである。新聞は確実に2日遅れ，冬期間中は全くの冬眠生活で，何の娯楽もなく，運動も出来ず勤務を終えて口にする熱かんのお酒に，僅かに淋しさを紛らすという。1年に1度てくてく歩いて，何時間も自動車に乗つて汽車に揺られて若松の町へ出ることが何よりの楽しみとか。

華かなネオンサインの陰に，伊南川発電所の電気のような地味で苦難な人間力の塊もあることも忘れてはならないと思う。

○鹿瀬の雪崩

豊実鹿瀬附近も雪の多い処である。今年は特に多い様だ。元来この地方は天候に恵まれていない。県境の稜々地帯にあるのと北に雄大な飯豊山塊を背にしている影響だろう。新潟が降つてもお附合会津が降つても御附合する事が多い様だ。この地方から若松へ転勤した人が「会津は青空の日が多くて住心地がいゝ」と喜んだと云う話を聞いた。仙台や福島などから若松へ転勤して来たものには凡そ正反対の感があるので一寸やそつとにはこの気分は呑込み難い。

長さ200米を超える堰堤，150米もある取水口水槽，それに屋外変電所等広い構内のほんの必要部分の除雪作業だけを考えても容易なことではない。少し気を許していると忽ち自然の猛威に屈せざるを得ない。それが3月に入つて気温が緩みかけると湛水各所に雪崩

が発生し土砂混りの雪塊が取水口に押し寄せて来る。立樹，伐木，用材，木根，草根，その他ありとあらゆる塵芥が流れつく。世間の花見時も傍目に流芥を相手の地味な斗いに奔走させられるのである。

今年は2月末の異常暖気で例年よりも2週間程も先行して湧水の苦労から解放されたのであるが，この暖気の来た翌25日にはもう雪崩の被害を受けている。25日の午後発生したらしい大雪崩の流塊群が夜の8時頃集団して鹿瀬堰堤にたどりつき，取水口前面の荷揚浮桟橋が押し流されてしまつた。幸いにも浮桟橋は横倒しにもならずにピヤーとへばりついていたので，ダム水位を変動させぬ様流し込み，発電所同様の運転を継続し崩雪塊が自然に分解消滅するのを待つて無効放流も出さずに翌日正午近く応急復旧することが出来た。この時の崩雪塊群は発電開始以来20数年間未だかつて例のない程のもので，容積10,500万米と推定されれている。これがピーク時40,000キロワット発電中の220 m^3/sec の水勢にのつて襲いかゝつたのだから浮桟橋も随参せざるを得なかつたのだろう。

地肌を削りとつた赤土岩片混りの雪崩塊の中に直径1尺5寸程の生の杉の木が根こそぎの恰好で横わつていたのも痛々しかつた。もつとも丈が短かゝつたところを見ると以前にも同様の被害を受けて上半身をもぎとられた残りなのかも知れない。遡航して現場を見た。堰堤上流約4粁の東南に面した急斜面が水面上300米程が相当広幅をもつて雪崩れている。

130米以上もある湛水面を距てた対岸にはなお相当量の雪塊が桟橋にのり上げて残つているし，岸の畠地の雪は水際から2，30米の幅に一面に褐色によごれている。しぶきのためだろう。航行中に遭遇したら一たまりもあるまい。雪崩の規模としてはそれ程驚くにも値しないが落下した場所が河巾の広いダム湛水区域だつたのが，従来経験したものとは全く別な感じを受けた。

○管内発電所記録映画撮影

2月22日より25日迄雪中只見電源開発突貫工事記録映画作製の一環として下流阿賀川系既設発電所（会津電力事務所）の全貌も同時にフイルムに収めた。

撮影は東技師他1名の担当で，撮影日時の都合上雪中強行された。

鹿瀬，豊実両発電所撮影のときは生憎吹雪であつたので撮影地点登高に苦労したばかりでなく，撮影の出来が天候に左右されるから，技師の苦心もはたで見ている方で気が揉める。

今年は雪が多かつたので登高には「輪かんじき」を使用しなければならなかつた。鹿瀬，豊実発電所建屋附近平均積雪量18米。

雪の発電所の全景が「スクリーン」にどのように映し出されるか，吹雪の合間を見ての撮影であつたからなおさら心配だ。けれとも山郷，新郷発電所のときは幸い天候も良かつたから美しいネガが出来ていると技師も云つていた。

撮影の行程は湛水路が下流から上流に続いているから焼玉エンヂン船を利用出来たので好都合であつた。雪に明け暮れる発電所の実態は建設の突貫工事現場と較べては実に地味そのまゝであるが，黙々として恰も放水路から噴上り，湧き上る雪しろ水のように常に動いてやまない。

2日間の撮影行であつたが，中で豊実発電所社宅の子供達が山嶽地帯に住み乍ら発動機船で通学する姿には発電所所在の特異性を見たような気がして心を打たれた。

◎第2回管内職場美術展開催



職場美術展

文化教養の向上を図り併せて職場レクリエーションを兼ねて去る2月10日～17日第2回職場美術展を開催した。この展覧会には更にその意義を大ならしめる為に社員子弟の作品を併せ展覧して文化活動推進の一助に資しようとしたのであるが，この催しは予想外に評判がよく，出品点数絵画42点，書道36点，寫真43点の多きに達した。社員の家族も多数参観され有意義であつた。

（会津電力事務所●村田）

私達の營業所

平營業所の概況

我が平市は福島県の東南部に位し徳川末期の大政治家5万石の閣老安藤対馬守信正公（坂下門の変）の城下町として発達して来た。附近は常磐炭田の中心地で又石城七浜を近くに控え地方物産の集散地として近年発展めざましくまた東日本と北日本を結ぶ磐越東線の起点ともなつて居る人口4万余の商業都市で我が平営業所は平市大町10番地に店舗を有する概況を延べれば次の通りである。

従業員数　443名
発電所数　15ヶ所　認可最大出力43,951KW
変電所数　10ヶ所　認可出力　82,050KVA
電業所数　3ヶ所　（小名浜　植田　四倉）
散宿所数　9ヶ所
供給区域　1市3郡11町26村
配電線路亘長　1311粁
需用家数　電灯 46,569 電灯契約 207,882灯
　　電力 2,716 契約KW 22,077,¼KW



500 KW以上大口需用家数14戸
契約電力内訳下記の通り

収入概況

目別	26/上	26/下	27/上
電灯料	21,407,296	69,937,213	64,605,045
電力料	93,090,133	211,088,468	269,604,756
超過料	104,620	643,065	8,682
電気税	4,090,978	12,170,693	13,224,405
供給雑益	624,100	1,482,950	2,858,626
合計	119,317,127	295,322,389	350,301,514

27,9,30現在

	契約電力 渇水	豐水	オフピーク	特殊	汽鑵	計	供給電力実績	備考
常磐1号	16,000	16,000	21,000	—	—	21,000	8,833,348	融通21,00
常磐2号	10,500	10,500	13,000	—	—	13,000	7,321,795	融通13,000
古河炭礦	4,500	4,500	—	—	—	5,400	2,069,563	融通12,20
日本水素	7,100	9,000	12,200	5,400	500	12,200	5,89 ,100	
呉羽化学	4,500	5,000	6,500	6,500	—	6,500	2,635,832	
專売公社	2,100	4,000	—	5,800	—	5,800	1,028,033	
日曹炭礦	1,700	1,700	—	—	—	1,700	620,160	
小田炭礦	1,000	1,000	—	—	—	1,000	499,920	
隅田川炭礦	1,000	1,000	—	—	—	1,000	393,216	
大日本炭礦	1,400	1,400	—	—	—	1,400	690,430	
磐城セメント	1,200	1,200	—	—	—	1,200	577,638	
大阪造船	1,000	1,400	2,200	2,200	—	2,200	97,787	
岡本ゴム工業	500	500	—	—	—	500	42,350	
福電興業	1,000	1,500	2,000	2,000	—	2,000	524,378	
合計	55,400	56,800	56,800	21,900	500	74,900	31,625,096	

調定額　電灯　122,59,786円—
　　電力　53,183,766円—

以上の通りですが日平送電線完成し平変電所も9月5日より営業運転を開始し常磐炭礦，専売公社製塩工場，日本水素，呉羽化学，古河炭礦など常磐地区の主要工場に供給されるので当地方の工業は飛躍的に発展が約束されるに至る。

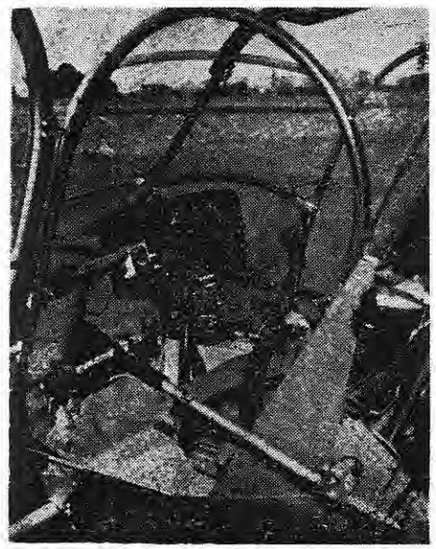


ヒラー UH-12B ヘリコプター

進む近代化・機械化

"ヘリコプターの利用と ランドロバーの設置"

年頭の挨拶に於て，社長は総ての施設を機械化して能率の向上に資することを言明せられたが，その要請に応えて早くも各方面に於ける機械化近代化が実現しつゝあるのは誠に御同慶の至りである。建設工事の機械化と通信の極短波による近代化は既に本誌に紹介せられた通りであるが，今度はヘリコプターによる送電線路の測量とランドロバーの各営業所えの配置が実現した。いずれ詳しい報告がなされるであろうが，その概略次の通りである。

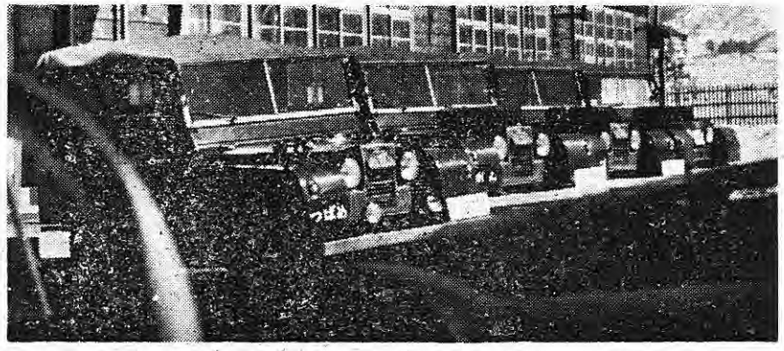


操縦席

まづヘリコプターは来年度完成予定の本名発電所と長岡変電所間亘長 72Km に建設予定の 15 万ボルト送電線のルート測量に使うことになつた。何しろこのルートは日本の脊梁山脈を越えるもので，殊に標高1,585 mの新潟県北魚沼郡浅草岳は気流の変化の多い分水嶺であるから相当の困難を予想される。

今回はジヤパン・エアサービス会社の所有するヒラー UH-12B 型を用い，長岡市の新潟大学工学部のグランドを基地とし，北魚沼郡の上条発電所と本名発電所とを前進基地とし，電気建設課の木下副長等が乗り込みルートの山岳地帯を測量することになつているが，その方法としてはルート予定線を2,3選び，着色

した粉末を撒き，種々の角度から検討して建設ルートを決定し，決定したルートに錘のついた測量旗を投下して目印とするものである。これにより従来のトランシットをかついで歩き廻る作業が相当解消するのであるが，数ケ月もかゝつたものが数日で済ませることが出来るというのだから正に革命的である。



会津現業部前に並んだランドロバー

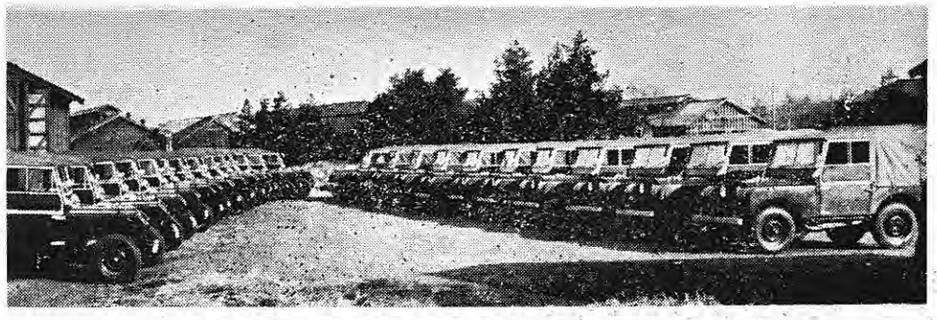
この測量作業が成功してヘリコプターの有用性が確認されれば，今度は新たに数台を購入して恒久的に測量と保守に用いることになる。従つてその操縦者を外国え派遣して技術を習得せしめると社長も言われているから，腕に覚えのある方は今から予定されていることも無駄ではない。

当社で購入するのがヒラーのものかどうかは未定だが，この型は巡航速度1時間70マイル，最高速度84マイルで，航続距離135マイル，上昇速度は1分間770フイート，最高9,400フイートに達することができる。エンジンは200馬力，自重1,656ポンドで，844ポンドの積載能力がある。従つて操縦士を含めて3名が乗り込むことができる。

会津と只見川の建設現場との連絡には，ツバメ，ガン，モヅなどの小鳥の名を附した英国製ジープのランドロバーが使われて効果を挙げている。小鳥のように身軽に飛び交うこれらの車を営業所へも配給して営業所長の足としようという構想は，やはり年頭に社長が言明されたところであるが，今度その注文した車体50台が英国から到着し，東京で整備を終り各営業所へ配られた。

国民性というものは自動車にも現われるもので，仏伊などの芸術的な感じ，アメリカの華やかな形体に比べ，ランドロバーは英国的な堅実で落ちついた形と能力を有している。ランドロバーというのは「陸の放浪者」という意味でもあろうか，最高52馬力のエンジンによる四輪駆動で，前進8段速度の強じんな自由に加減し得る速力で，道無きところでも，泥濘でも，砂地，草原，浅い川，山路，急傾斜，あらゆる所を突破してゆくことが出来，まことに「放浪者」の名に肯かぬ能力をもつて居り"Go Anywhere"というスローガンをもつているが，道路の悪い東北では殊に重宝な車である。

当社5営業所の所長さん達は一斉にこの車を駆つて春浅い東北の山野に飛び出し，管下の業務運営状況を視察して，廻るわけであるが，とかく末端現場と営業所支店などの連絡不充分のため起り勝ちであつた「サービスが悪い」という声も大分解消することゝ思われる。



整備成つた営業所用ランドロバー（於東京都）

第1回全社スキー大會を觀て



東北電力第1回全社スキー大会は，2月25，26の両日弘前城下大鰐温泉スキー場で，青森支店久慈選手以下120名の参加を得て，華々しく開幕された。

云う迄もなく本大会を開催した趣意は，当社事業の特性から冬期間はスキーに依存せざるを得ない場合が多く，その為にスキー技術の向上が直接に対業務面に及ぼす影響の高い点と，特に，東北地方特有のウインタースポーツとしてのスキーを通じ，従業員の体位向上をねらつたものであつたが，何分スキー競技の特色として，大会開催に至るまでの諸準備が広範に亘り，距離競技の場合だけを考えても，関係役員40名を必要とする程なので，斯うした点から頭初の計画に当り，大会運営に聊か危懼の念を抱かぬものでもなかつたが，幸い地元青森支店並びに大鰐町当局の並々ならぬ協力のもと，予期以上の成果と自信を得て，無事目的を達することが出来た次第であり，この点地元関係当局者に満腔の敬意を表する所以である。

さて本大会に於て，まず何より嬉しかつたことは全大会期間を通じ連日晴天に恵まれたことであつた。尤も大会当日は窓を張れば，競技開始前まで4～5寸程度の降雪を望み得たなら，結果から判断して，もつと好ましい記録を得ることが出来，且つ選手諸君も最上のコンデイション下で堂々遺憾なく戦い得たであらうと後の祭ながら考えたが，（連日の晴天下において決行された為に雪質は固く凍結していて，恰もスロープがスケートリンクの如き感であつた）これも冬期間のことであつて見れば，これ以上の条件を自然に対し要求する方に虫のよさがあり，一応恵まれた条件下であつたと考えなければなるまい。

まず本大会開催に先立つて，限られた競技種目の中から当社のスキー大会にふさわしいものとする為に，如何なる種目を選択するかが問題となり関係者間で協議を進めたわけであるが，これも第1回目のことであり，各出場選手のレベルが全く不明で，コースの選定等にも大分苦労したが，結局レースそのものを競技本位から実用的職場スキーの技術体得に重点を指向し，次の5種目を選択した。

○15 Km　距離競技
○5 Km　重量物搬送距離競技（重量15Kg）
○滑降競技　（全長1,200m，最高斜度35°，平均斜度12°）
○廻転競技　（21旗門）
○20 Km　各チーム対抗継走競技

◇大会第1日

2月25日，愈々大会第1日目である。絶好の晴天に恵まれ各選手を初め大会役員と地元応援団が続々とスキー場に詰めかける。開始予定時刻9時には，既に数百の観衆が右に左に乱舞して，正に大会気分満点である。都合により開会を30分延ばして，9時30分から開会式が予定のプログラムで厳粛にヒユツテ前スロープで執り行なわれた。大会委員長挨拶，地元町長の祝辞があつた後，青森支店大場主将の力強い宣誓があつて競技に入つた。最初に15K距離競技である。この競技に出場する選手は各チームから3名宛の出場で計30名である。各選手共発電所に保線所にそれぞれの職場で鍛えた日焼した顔に，東北健児の真価を満面にたぎらせ，与えられたゼツケンを胸に意気颯爽と出発点に集合した。スキー並びに人員の点検が終り，予定の開始時刻10時を待つている。場内アナウンスで都合により出発時刻を10分延ばし，10時11分スタートと発表され，10時5分に前走者が出発した。この頃から観衆も一斉にスタートライン附近に集り選手達の何となく落ちつかないざわめきが聞える。やがて出発主任の「出発1分前」の声に第1走者本店吉田選手がスタート線についた。ストツプウオツチがこちこちと静り返つた

場内に響き渡るような一瞬である。〃30秒前〃〃20秒前〃〃10秒前〃と刻々と合図される計時係の声に，選手の胸の鼓動は激しく，吐息が長く澄み切つた空に尾を引いて行く。〃5秒前〃…用意…ピー…ホイツスルが鳴つた。吉田君のスタートである。続く第2走者会津現業の藤山選手がスタート線についた。30秒間隔のスタートである。同じような方法で，次々と30名の選手が出発して行く。10時25分30秒。最終走者岩手の大釜選手のスタートで全選手の出発を終つた。群衆がスタートラインから四方に散り初める。計時係，記録係員数名が決勝点の位置で記録の整理，時計の規正に余念がない。この人々は大鰐スキー倶楽部の猛者連で往年の国体選手から現役のランキング登録者もいる。この人達にしどうでせう，どの位でゴールするでせう」と問いかけるとしサア，早くて1時間10分から20分の間でせう」こんな話にはずんでいる最中し只今ゼツケン7番新潟松橋選手第1関門2Kの地点通過」とアナウンスされる。新潟の選手控所から拍手が起る。しおう早いぞ，相当やるわい」記録席からの声である。暫らくはこんな状態が続く。選手がゴールするまでの一ときである。やがて11時12分55秒，新潟松橋選手元気でゴールする。新潟の全選手が現れ，同選手の労を犒い，「よくやつた，よくやつた」とスキーをとるやら，肩をたゝいてやるやら暫らくはほほ笑ましい情景が続いた。……かくて11時58分46秒，終末走者がゴールするに及び！名の落伍者もなく，全員元気でゴールインし，こゝに予想外の好記録をもつて第1種目 15K 距離競技は終止符を打つたのである。成績次の通り。

15K 距離競技入賞者

順位	ゼツケン番号	所属	氏名	所要時間 時	分	秒	得点
1	8	新潟	川久保 敦		56	27	6
2	22	會津電力	大江 稔		56	34	5
3	13	新潟	小島 博		56	59	4
4	18	青森	佐藤 五郎		57	00	3
5	7	新潟	松橋 信茂		59	55	2
6	25	青森	猪股 貫一	1	00	02	1

続いて次の種目滑降競技の開始である。予定の開始時刻12時を11分繰下げ，12時11分開始と発表された。このコースは全長 1,200m，最高斜面35度，平均斜度12度条件としては申分ないが，たゞ雪質が固く日影に当る部分はまさに氷である。コンデイシヨンは最良とは云えない。然し各選手共元気で各々スタート線に集合を終えた。29名の選手によつて覇が争そわれるわけである。前走者が見事な滑走でゴールする。愈々競技開始，青森山内選手がスタートした。1分間隔スタートである。かくして12時33分全選手のスタートを終えたが，新潟の後藤一夫選手が圧倒的に強く1分7秒の好記録で堂々制勝した。たゞ本競技が生憎の雪質で，35度傾斜面では転倒者続出の状況で選手もゴールする迄一汗かいて来たものが多かつた。戦績次の通り。

滑降競技入賞者

順位	ゼツケン番号	所属	氏名	所要時間 時	分	秒	得点
1	2	新潟	後藤 一夫	1	07	0	6
2	20	〃	後藤 信繁	1	24	6	5
3	5	会津電力	渡邊 正美	1	26	0	4
4	28	新潟	岡田 要	1	40	0	3
5	10	本店	石井 保次	1	41	0	2
6	3	福島	羽田 善衛	1	45	0	1

次に第1日目最終の種目である 5Km 重量物搬送距離競技である。この競技は各選手が各々 15 Kgの砂袋を背負い5Kの距離で技を競うことになつて居り，特に当社の業務実態を加味して組まれた種目だけに注目を引いたが，会津現業部高井選手以下30名の全選手が，予想以上の好記録でゴールし，16時40分無事第1日目の全スケヂユールを終えた。成績次の通り。

5K 距離競技入賞者

順位	ゼツケン番号	所属	氏名	所要時間 時	分	秒	得点
1	28	新潟	宮下 進		27	03	6
2	10	〃	竹田 榮		27	26	5
3	20	〃	北村 正美		27	32	4
4	22	会津電力	大江 稔		28	13	3
5	16	青森	川村 俊雄		29	32	2
6	25	〃	村井 成松		30	04	1

◇第2日目

前日に引続き，本日も又絶好の晴天である。競技日和としてはこれ以上望み得べくもなかつたが，惜しむらくは雪質である。昨日にも勝る固さであつて，殊に本日の最初の予定競技が廻転とあつては尚更懸念される。然し条件は条件として予定の10時に競技は開始されることになつた。コースは昨日の滑降コース35度斜面を中心とし，21旗門をもつて決行された。然し案に違わず，固く氷結した岩盤の如きスロープでは，如何に技術の優秀さがあつても抗し得ず，転倒棄権者続出し，その殆どが 50m 近い絶壁を流し落されると云つた状態で，無事ゴールに入り得たもの僅か12名と云う淋しさであつた。たゞこのような悪条件下で決行された為に或は負傷者の続出も憂慮されたが，大したこともなく終了を見たことは，不幸中の幸いと云わなければならない。成績は次の通りである。

廻転競技入賞者

順位	ゼツケン番号	所属	氏名	所要時間1 分	秒	1/10	所要時間2 分	秒	1/10	合計時間 分	秒	1/10
1	5	会津電力	渡邊 正美	1	25	3	56	0		2	21	3
2	8	新潟	後藤 信繁	1	27	5	56	8		2	24	3
3	23	青森	佐藤美佐雄	1	15	8	1	09	8	2	25	6
4	7	福島	羽田 善衛	1	27	5	1	04	0	2	31	5
5	14	青森	大島 彦一	1	46	5	57	7		2	44	2
6	30	秋田	佐藤 数好	1	59	0	1	30	9	3	29	9

愈々本大会の掉尾を飾る最後の種目，20K 各店所対抗継走の開始である。ヒユツテ下のリレー出発ラインに勢揃いした各チームの第1走者が，型通りのスキーと人員の点検を受けている。ゼツケンの背にその所属する店所名をはつきり註記してあるのも，如何にも対抗団体競技らしい風景である。各チームの監督が現れ何事か走者に耳打ちである。し頑張れよ」しくつ付いて行けよ」思い思いの声援が飛ぶ。やがてスターターがし出発5分前」の合図に全選手は一瞬緊張の色を漲わせ軽いウオミングアツプで，はやる胸を押さえている。〃1分前〃〃30秒前〃〃20秒前〃時計係の声が白一色のスロープにしみ通るようである。しいやだね，死刑の宣告でも受けているようだ」いま出発する選手とも思えない程落ちついたユーモラスな声も聞え，場内の緊張をほぐす。〃5分前〃ホイツスルが鳴つた。10名の選手！斉スタートである。バタバタバタ……走るスキーの音，湿しくストツクでける花吹雪，まさに壮観である。100m の直線コースを走り終え，こゝから1本道のコースである。10人の選手が連つて走つて行く。各チームの声援が，各々の選手を見えなくなる迄追いかける。勝ちたい。勝たせたいの一念である……何分か経過した。選手も観衆も一斉に場内スピーカーの下に集る。途中の模様を一刻も早くキヤツチしたいからだ。

やがてし只今，2Kの地点第1関門を，新潟，青森，会津電力の順で通過」とアナウンスされるや，どよめきと喚声が湧く。かくして所要時間25分55秒で新潟の第1走者小島選手が猛烈なファイトで第2走者にタツチする。続いて青森，会津電力の順で進行……結果は次の通りで，こゝにめでたく本大会の予定スケヂユールを無事消化し得たのである。

競技終了に引続き閉会式に移り，団体，個人入賞者の表彰が終り，審判長の講評があつて後青森支店長の閉会宣言をもつて，2日間に亘つた意義ある第1回全社スキー大会の幕を閉じた。

以上で大雑把に大会の模様を描寫したわけであるが，第1回の試みとしての本大会が非常な盛会裡に終ることの出来たのは，会長初め，会社首脳陣の深い理解に基くものであることは言を俟たないが，然しこれに加うるに本大会事務を直接担当された青森支店を初め，地元大鰐当局の心からなる援助の賜であることを特筆しなければならない。特にこの大鰐町はスキーをもつて栄えたと云われ，スキーシーズンである12月から〜2月までの3ヶ月間は各種スキー客で賑い，1ヶ年の収入の大半は本期間中に納められると聞いている程，スキーと大鰐町とは密接な関係におかれている由である。その為もあるであらうが，今回の大会を通しての歓迎振りは，目頭の熱くなる程で，優勝盃の寄贈から，祝東北電力スキー大会の記念マツチを配布するなど至れり盡せりの状態であつたことは，理屈を抜きにして，参加者一同の心をあたゝめてくれたことを確信したい。

最後に，本大会によつて体得された経験を選手各位が，各々の職場で，より真剣に検討され，同僚の指導に，将また，スキー技術の向上を通して，冬期間の運転保守関係の業務面に，生きた技術の真価を12分に発揮せられ，延いては第22回以降の次期大会開催への因とされんことを願つて擱筆する。

各店所対抗 20K リレー成績表

順位	所属	氏名	個人タイム 分	秒	チームタイム 時	分	秒	得点
		小島 博	25	55				
1	新潟	川久保 敦	24	08	1	37	24	8
		宮下 進	22	48				
		松橋 信茂	24	33				
		川村 俊雄	27	16				
2	青森	星村 由藏	26	22	1	43	51	6
		猪股 貫一	25	27				
		佐藤 五市	24	46				
		二瓶 四郎	26	39				
		大伍 經夫	27	42				
3	会津電	大江 稔	25	21	1	47	20	4
		小林 林藏	25	38				
		福島 要	29	51				
		影山 伍郎	23	59				
4	会津現	長ヶ川寅雄	26	38	1	51	48	3
		高橋 武男	26	20				
		正木 幸	31	21				
		鈴木 賢一	33	13				
5	山形	閉ノ口好太郎	26	32	1	57	47	3
		高橋 滋	26	41				
		原野 武	31	33				
		三上 一夫	29	37				
6	宮城	伊藤 良典	29	27	1	58	52	1
		瀬尾 源治	28	15				

（厚生課　三宮記）

本店ニュース

映　畫

HYDRO ELECTRIC POWER IN JAPAN の製作

只見川電源開発工事実況映畫

白洲会長が首相特使として欧米諸国を訪問することになり，その出発の際当社の電源開発の状況を示す英語版の映画を持参されたいとの希望であつたので，既存の各種のフイルムを検討したのであつたが，あるものは調査時代の只見川であり，或は只見川の降雪を主眼とした映画であつたので，当社の開発工事の実況は含まれておらず，結局急いで製作することになつた。

映画製作の方針の決定を見たのが2月20日であり，おそくも3月5日までには完成して米国に送らなければ会長の予定に間に合わないという電源開発に比すべき突貫作業となつた。



上田建設現場における益田監督(右)と杉本技師(左)

2月20日に，普及課長，総務課副長が上京して製作会社東京シネマと契約調印し，監督は会津出身の元日活監督，益田晴夫氏と決つた。

2月21日夜に撮影隊は東京を出発し，22日朝，会津若松着，そこで2班に別れ1班は会津電力事務所，村田総務係長の案内で鹿瀬以下の既設発電所を撮ることゝなり，益田氏以下の1隊は建設中の各発電所を撮影するために柳津に向つた。

柳津建設所到着后，加々見事務課長の御配慮によつて直に現地の撮影にかゝり，折からの猛吹雪を冒して縦横にカメラを駆使した。

23日は前日迄の吹雪も何処えやら，打つて変つた様な好天で，空は真青に澄み，早春の陽ざしが前日来の雪に反射して眼が痛くなりそうな絶好の撮影日和，聞けばこんな晴天は1月に2，3日しか会わないということ。

一同小踊りして8分通り出来上つている堰堤のピーヤに取組む。同行の杉本氏は美校出身者で特殊撮影専門の恐いもの知らずの勇敢なカメラマンであるので，忽ちに職業意識を発揮して，コンクリート打ちのキヤリヤーのバケツトの中に乗込んで，空中からのフカン撮影を始めた。後藤所長に伺えばこの位置からカメラを向けた例は今迄にないそうである。この様にして片門，宮下，沼沢沼を1カットづゝ寫し，24日は主として上田建設所を対象とし，夜に入つて本名建設所着，25日は本名を寫し，午后一行は現像，編集を急ぐ為に夜行にて帰京した。

第1回現像の試寫は27日に行われ，28日には新海総務部長も上京され，編集に取かゝり，出来上つた原稿は，解説者外務省国際協力局長島内氏によつて録音され，同日深夜迄かゝつて録音を終了，更にその日の内に線画の検討を終るという慌しさであつた。

その頃会長の予定が3月8日紐育到着，3月20前后には日本に帰られる事が伝えられ編集を急いだ。その結果4日の夜7時30分頃には試寫にこぎつけるに至つた。大ざつぱに云つて記録映画1巻の製作は2ヶ月は最低必要との事であるが，方針決定后2週間でとにかく1応試寫まで漕ぎつけた方は成功といえると思う。尚現在日本版も製作中であるので遠からず各支店を通じ全社員にもお目見得することであろう。(3.15)

サービスカー

みちのく を往く



サービスカー

会社の考えをよくお客さんに知つて戴き，会社も又お客さんの気持をよく知るため，サービスカーは元気よく颯爽と需用家の懐に飛び込んで行きます。

ミご町内の皆さま，こちらは東北電力のサービスカーでございますゾメロデーの中から美声が流れ出る。

深赤に白い窓枠の8米のボデー，天井の前後左右にスピーカーを内臓，後にはステージをつけたボンネットタイプ。見るからにスマートなこの車は今日もまた町や村を走つて行く。

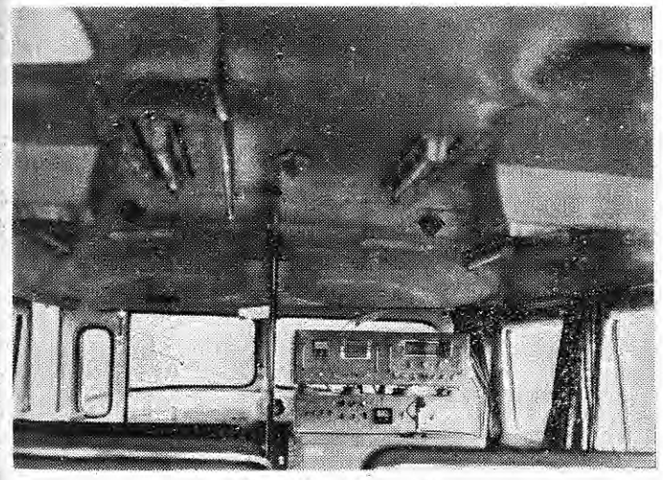
この東北電力サービスカー第1号は本年1月に完成しました。そして第2号，第3号と逐次出来ることになりました。

サービスカーの任務は御存知の通り，電力事情の周知，電気知識の普及，電気使用の申込，電気機器の普及とその取扱講習会，巡回映画会，苦情や相談の申受けなど盛沢山のサービスを致します。この役目を果すために，陳列台，受付窓，ステージ，映寫機，拡声装置，録音機などを設えています。そしてこの車は1月から宮城県，福島県，岩手県の町や村を巡回して好評を博しました。雪が融けて道路が良くなれば裏日本の新潟，山形，秋田，青森のすみずみまで巡ることになつています。

次の一文は宮城県古川市におけるサービスカーの活動状況です。活字を通して颯爽たる活躍ぶりを彷彿ねがいます。

ミ古川市内に入ると，要所々々で駐車して，メロデーは社歌の演奏に切換えられる。ミこれからは新時代にふさわしいスピードで当社の手足となつて忙がしくとびまわつてあるくことでしよう，どうぞ今后ともよろしくゞいさつか得意気な挨拶を残して……女子高校に乗り込んだサービスカーは，積載した家庭用電気機具を講堂にすらりと並べ，将来の家庭電化を説いて夢多き乙女たちの興味を引いた。終つて直ちに映寫会，電源開発紹介，発電機の原理，農業科学，漫画と文化映画に，社会教育科学教育の一助として満堂の男女学生たちを魅了した。スピードサービスも仲々忙がしい。

かくて又サービスカーは新しい任務を得て新らしい町や村を目指して走りつゞけます。



車　体　内　部

東京事務所の近況を少し許り。

新 年を迎えて相変らず本支店から多数役職員の方々の上京はひきもきらない。事務所の掲示板にはその日その日の出張者名が列記せられているが何時もこぼれる程である。試みに2月26日を見ると，内ケ崎社長，中田常務，河路，荘司，斎藤，山内各部長，大宮次長小野寺，雁山，村田，山下各課長，鈴木，植田各次長坂田，渡部，高橋各係長外に10数名の1般職員を併せ無慮30名に及んでいる。こんなに多数のお歴々が東京に集つては本店の事務進行が，と余計な心配が起る程である。

さて，かうして上京されている方々の横顔をチラリとのぞいてみると。

社 長は月半分位は東京に滞在せられることがあり，しかも文字通り東奔西走事務所に席の温まる暇もない。それでいて理髪は学生時代以来30年1日の如く四谷のとある一店以外の処では絶対にやらないという義理堅い一面を伺つている。

白川副社長は電源開発の要務で折々上京されるが，目下明治29年制定以来今日迄墨守せられて来た河川法改正委員会に出席，堂々革新の急先鋒を承つて遊休水利権問題其他に関し火の出る様な論陣を拝聴している。

堀副社長は昨年11月元の電気事業経営者会議が電気事業連合会に改名と共に従来の社長会議の外に，新たに毎月各電力会社副社長又は常務取締役による常務会が開催せられているので，その代表メンバーとして上京せられ，山積に処理すべき9電力会社の対内外の諸問題の解決に活躍せられている。たゞ何時も余りにお忙がしいので東京にも喫茶店があることを御存じないだろうとの噂。

中田，金田一，平井，瀬戸各常務も折々上京せられるが会議と対外折衝との連続で寸暇もない。何分事務所が手狭なため何時も狭い御迷惑をかけている。

本店ですら重役の顔を拝することは稀であるとはよく聞く処であるが，この事務所では屢々白洲会長を始め大幹部の顔が揃い，東北電力の偉容を示している。

さ て最近何が東京に於ける中心問題か，ということであるが出張者の数がその多角性を裏書きしている。先づ近く昭和28年度を迎えるに当り，電源拡充，資金，電力需給，営業，事業収支等々の年次計画の対外的折衝，調整が行われている。

新 年度の電源拡充工事として，柳津，片門等の昭和26年来の継続工事計12万キロ，本名，上田，八久和



等本年度着工工事計17.2万キロ大池第2松神，法量等新年度着工新規工事2.4万キロ計約32万キロが略確定せられるに至つた。

新年度の特質は近く当社発電力百万キロ突破の電源拡充工事の外に会津，盛岡間約300粁の大幹線の建設が計画せられ14万V東北主幹送電線の宿望の実現，14万Vによる新潟，直江津方面の送電力強化，平方面の周波数の統一を中心に特に送変電部門の充実に重点が置かれていることは特筆すべきである。かくして新年度の工事総所要資金は148億円に及び昨年度を更に5億円凌駕する規模の大きなものとならんとしている。148億円といえば，旧丸ビルの中央に収容人員7千人，総延坪2万坪，という東洋一の新丸ビルが完成したが，この大建築が5つも作れる額に相当するので，朝夕新丸ビルを仰ぎ見乍らも心ひそかに優越感に微笑んでいる。

次 に，只今国会に於て幾多の重要問題が俎上にのせられんとしているが，その尤なるものは通産省関係で公営並びに自家用電力施設又は事業の復元，電気事業法，電気施設法，電気工作物規程，建設省関係の河川法等の改正，本名，上田の開発をめぐる只見川問題等がある。

復元は電気事業者の見解に於ては公共の福祉並びに電気事業の健全な発達にとつて重大な障害を及ぼす性格のものであり，且つ法的にも承認出来ないものであるから目下電気事業連合会の対策委員会が中心となつて復元の主張の不都合なことを広く大衆に呼びかけている。

又電気事業法の改正は目下通産省の改正審議会で討議中であるが，公益事業か，基礎産業かの法的性格や供給区域の独占の是非等の根本問題から発足し，その帰趨は電力事業全体に大きな性格上並に経営上の変更を



招く場合すら予想せられる。従つて昨今は如何なる会合にも必ずこれが話題の中心となつて賑つている。

只見川問題は天下にその名を売つたが，やがて天下はその公正なる現実を認めるに至るであらう。只見川問題では報道関係者の来訪が多く全く応接にいとまがない。

さ て次は需給，営業方面の問題として，柳津，片門等の竣工に伴い新年度の増加電力量は約5億KWHに達する見込である。この大量電力を如何様に配分して，現下の電力不足を充足し，産業の振興，電力文化の向上を図るか，他方原価高の新しい電力の収支の均衡を奈辺に求めるか，等々の方策は電気事業再編成後の自主的経営の強化と共に益々重大化する。目下その新年度対策が関係各方面との間に連日折衝が続けられている。他方には東北の電力は東北地区へと，地方陳情団の上京が相次ぎ，その熱意に頭が下がる。何しろ関係筋が多いので一々歴訪することは陳情団も並大低ではない。

こ の外政府当局，又は連合会主催の各部門別部長会議或は各方面の技術打合会に至つては枚挙に暇がない。

この中技術的なものを2つ，3つ披露すると，先づ電源開発のトピックの1つとして本名発電所に新たに採用せられんとする落差36米のカプラン水車がある。只今36米の実落差のモデル試験という劃期的な研究が進められているが，これ等は各方面の注目の的であり，今後中落差開発に新機軸を生むものである。

次はヘリコプターによる雪に埋れし奥只見の高山を突破する送電線経過地の探査である。ヘリコプターを電力方面に利用する計画は本邦では最初のことであり，社長自ら3月9日神奈川県藤沢飛行場にて試乗しその性能を検討せられた。

本年春夏の交，米国から活線作業のエキスパートを招き，本邦にその技術を導入する商談が目下進行中である。活線作業は配電線では常識であるが，米国では28万Vの送電線に於てすら実行せられているので，この技術が本邦に於て成功すれば需用家への無停電サービスは1層向上せられる。

今 1つ外資導入の要望に対応し，その必要性を諸外国に納得させる一要素として，本邦の電力需給上大きく電源開発の必要なことを説明しなければならぬ。その場合の統計的説明方法として欧米自由主義諸国の間に或る方式がある。昨秋米国から専門家を招聘し，その勧告により新たに日本電力調査委員会が設立せられた。目下その線に副う作業進行中であるがその骨子を要約すると。

1．従来電力需給バランスは電力量を基としたのに対し，最大電力を基準とし，而も平水年と渇水年とを考慮に入れる。
2．電力の需給バランスと共に主要電力機器の需給バランスも調査する。
3．需給バランスは開発計画の決定したものだけを対象として行う。従つて5ヶ年計画として単に紙上でのみ立案せられた発電所計画は含まれない。極めて確実なものである。
4．1年に2回報告書を出し，絶えず最新の情況を照会する

等である。

さ て一寸東京事務所の1日を見渡すと先づ当日の電力概況に違い東北地区の様相をそのあたり東京の机上に彷彿せしめる。各上京者もこれを1覧の上当日の活動に対し構想を練る。

他方，大小の製作業者，出入商人が工程の折衝，仕様の打合，其の他の商談に朝まだき地下の業務課の部屋にワンサと押しかけて1しきり眼の色をかえた緊張した光景を呈する。

やがて2階の株式班には株式の名義書換，新株式の請求者が陸続と現はれる。最近当事務所管内の株式数は当社総株の40%に激増したので，その方も仲々忙がしい。特に東京では各電力会社がそのサービスを競争しているので1層真剣である。就中スピード時代の現在では書換日数の短縮が最も要望せられる。現在2.3週間を要するがせめて1週間程度にしてほしいとの声が高い。

さ て，最後に2月末頃当社卓球部の選手が上京来所せられ，電気協会主催の全国電気事業大会に出場，勇戦奮闘の結果男子組は全国に覇をとなへた事は天晴れであつた。こんな日には事務所の屋上に社旗を掲げて祝福したかつた。

長々と書きならべたが，東京事務所のプロフィルの1斑を知つていただくことが出来たら幸甚である。

（東京事務所役員室）

せゝらぎ

—従業員の聲—



定めておきたい カレンダー

新潟村上営　藤　原　高　吉

貴重な社誌の一頁をけがさせて頂き皆様の少しでも参考になれば幸いと存じます。

配電線に取扱われる故障は主として変圧器のリード接地碍子の破損油入開閉器のリード接地碍子のバイト外れなどと大体相場は定まつて居る。之等の故障をなるべく少なく杏絶滅せしめ様とすることは左程困難な事ではない。即ちよく巡視し，心して手直しをする。それだけであります。

毎月の定期巡視や臨時巡視これを実行しなければ無論駄目だ。ラジオの勧誘及ワットの勧誘と一日出て一個でも一灯でも出来れば其れ丈け会社の収入が殖える華やかなのは営業だ，技術係の仕事はそんなに即効でない，碍子一ツ直しても全村或は全部に亘る停電を防いだ所で。やるのが当然で鼻高々と人に吹聴するがものはない。それ丈け地味な立場と云える。

近年はサービスも上手になつたし営業も確かに新生面が開けて来たが，忘れてはならない。技術者の本職を（之れを他所にすれば営業サービスが零となるから）縁の下の力持ち？云うな。之れが事業の中堅であるのだ。昔の言葉で云えば，第一線の白熱戦に戦うのも本隊にあつて大行李を運搬するのも等しく戦斗気分が漲つて居る筈だ，技術者の為さねばならぬ仕事は沢山ある。忙しいに紛れて事故を起す様な事があつてはならないので，私は此の巡視にしても修理にしても一ツのプランを立て毎日一回何かの調査と云うものを確かに定めておきたい。碍子デー（週間）を作れば或る定められた日々受持管内の碍子全部を調査し掃除して報告を纏め直ちに適当の処置を講ずる。

変圧器デーではリード及ブツシング油の良否多少碍子型スキツチ等を調査しリート線がケース及低圧に障りそうなのは其の場で直す，ブツシングはボロで拭うそうした仕事でかなり迄事故の原因を除くことが出来ると信ずる。但し之れを営業のワットデーや何かのデー並に停電日作業に巧に繰り込む事が必要で之れは各所によつて大変ちがうと思う。そして其の所の独特のカレンダーを作る必要がある。

何日と定めない事には何としても送られがちでますいから私は次の様な事をあげたい。

碍子デー　電柱デー　変圧器デー　開閉器デー
伐採デー　其の他デー

之れを以て無事故主義としたい。

吾等の仕事は

新潟村上営　藤　原　高　吉

電気会社の仕事は他の総べての会社及工場などと仕事の性質が全然異なる特質を持ち商機を逸する事もない。発電所の運転を休止しても生産費には少しも影響しない。

電気会社の仕事は蛛蜘が網を張つて獲物を待つて居る様なものだ。網を張つてしまえば仕事は無いのが常態だ。然し網は時々破れるから修繕を必要とする。獲物が懸れば之れを捕えねばならない。此の時々に仕事が生ずる。仕事が出来たら全力を挙げて一気に片付ける。一時間で出来る仕事は一時間で片付けよ，仕事が片付いたら遊べ，仕事らしく装うな。

365日朝の8時半から16時半まで休み無しの仕事などある筈がない，毎月の調定及伝票毎日の不点事故其の他の仕事の量としたら知れたものだ私はこう言いたい。

早く片付けて早く遊べ
蛛蜘が獲物を待つ心持ちで＝

能率向上のために 社員名簿を

岩手支店　老　社　員

能率向上とか能率増進と云う事が良く云われて居りますが，之れは如何なる事にも必要な事であります。一国の政治に於ても毎年行政整理と云われながら実際には実現されている様にも見えない様です。之等も能率向上が出来さえすればそれに応じて行政整理も出来る事と思われます。所で会社の場合能率を向上して人員の不足を補う事は一方法であり私が云う迄もない事でしよう。それでは能率向上にはどうすれば良いか之れには色々の方法なり何かあるでしようが，結局は各自が職務に忠実に努力する事にあると思います，努力は秀才に優ると云えます，努力と云う言葉は簡単ですがその程度にもありますが実際には仲々むずかしいものです。然し之れを出来る様に仕向ける事と当人の考え様に依つて出来るものです。今此の努力と云う事をその心理状態からとでも申しましようか，之れを考えて三つに分ける事が出来ます。

1．利得に依る努力　2．束縛に依る努力
3．興味に依る努力　之れを説明すれば1．の利得に依る努力は之れに依つて直接なり，間接なりに金品とか名誉とかが得られ，即ち目先の利得のために努力するのであつて若し結果に於て，その目的が達せられなければ永続きはせず，努力と云う事が出来なくなります。

2．の束縛に依る努力は，即ち上司なり同輩なりが見ているから，やるとかやつた様に見せると云う事になりますから勿論能率等向上する訳はありません。次の興味に依る努力之れはその仕事なり事務なりに興味を持つてやるのですから．そのものの仕上に興味を持つ様になりますから上司が，居様が居まいが問題ではなく，又出来上つて自分の名誉とか，直接金品が得られるとかはなくも之又問題ではなく，其の結果が良ければ楽しみとなり又思わしくなければ，此の次の機会にと云う楽しみと云う事になり，益々興味が持てる様になりますから，此の興味に依る努力が良い様です。勿論如何なる努力にもしろ結果は幾分なり共自分利得になる事になりますから，利得に依る努力と云う事にもなりますが，問題は直接それを得る目的のためではなく，興味から来るものであれば良いと思います。そして何事も興味を持つて当る事に心掛けるのが必要と思われます。では仕事に興味を持つには又持たせるにはどうすれば良いかと申しますと，之にも色々あると思いますが何と云つても職場では，御互が気分良く勤務する事が最も必要な事です。それには御互が親しみを持つ事です。それも身近に居る同志ばかりではなく，職場全体支店全体いや会社全体が御互に親しみを持つ事です。此の全体が親しみを持つためには，御互が会社の社員であると云う事をたとえ既知の人であろうと未知の人であろうと姓名だけでも知り合う，機会が欲しいと思います。それにはどうしても社員名簿が必要となります，現在の様に会社の役付職員のみが名簿に出て私共の様な無役職員が社員と云う事を何ものにも発表されていないのが実に淋しい感じです。いやいさゝか不満でもあります。どうか私共の名も出る会社全体の社員名簿を作つて下さい。そして経費の関係等で各自に配布出来ないならば各現業機関の最小の散宿所，駐在所発電所取入口等各機関毎に配布して下さる様御願い致します。之に依つて旧友も又学友も新しく見付出して改めて文通し遊覧なりの機会を作り会社全体が親しみを持つて楽しく業務にはげむ事が出来ると思います。殊に電力再編成に依つて旧東北配電なり旧日発なりに相当広範囲の異動があつた後であれば御互に旧知人の消息が知り度いものです之等も此の名簿に依つて総てがわかつて来る様な気が致します。之は1人私のみではないと思います，又此の名簿作成に依つて業務能率向上と云う所迄行くと云う考えを持つ者も私1人ではないと思います，会社よ是非会社全体の名簿を作つて下さい。

職場を表彰して下さい

岩手支店　T．T　生

人間の本能とでも申しませうか自分自身，我家庭，自分の職場と云う様に次々と自分の身近から大きく生活程度とか成績とかを良く仕様，向上せしめ様とする考えは御互何人と云えども持つているものであります。会社に於ては自分自身我職場と云う様に業務成績を良くし様とする気持は各々其の差こそあれ必ず持つている我々も，その例に漏れず其の精神を持つて懸命に努力して居りますが中には不幸にして不可抗力なり外部からの影響を受けて立派な成績を揚げ得ない場合もあるが兎に角之に対して努力している事は何人も同様と思う。然し其の程度には相当の差がある事は大体に於てわかると思われます。其の結果は，数字なり何かで明らかになつて来て居ります。之等に対して以前は会社に於て個人なり，職場なりの表彰が其の都度又は期別に発表されたものですが現在では其の制度がないのか発表もされて居りません。勿論これには色々の事情がある事と思いますが若し之が経費の関係で表彰されないものならば私は次の様な方法で表彰してはと思います。それは本誌東北電力に誌上表彰欄を設けて成績の良かつた職場例えば無事故とか，能率向上とかと云項目で表彰する。表彰面には表彰項目其の所在地其の寫真設備の概要。其の長及び従業員の氏名を掲載する事にしては如何でせうか，之に依つてどんな小さな

設備を持つ職場でも誌上に掲載されると云う事を考えて一寸した事にでも注意して能率を向上させるとか色々な面に注意して成績を良くする考えになるではないでせうか，今の様では設備の小さい所では他の注意を受けていないと云う考えで，能率とかと云う事については余り深く考えていないのではないでせうか，そして此の表彰に依つて私共の様な小さな職場でも寫真に出て，会社からは勿論他の職場からも其の存在を認められる様になると思います。之が又其の職場従業員にも張合があると思います。会社当局者の一考を煩わし度いものです。

農事用石油發動機の出廻り

宮城支店　H.　S.　生

近頃農事用石油発動機の需要が活潑である。これが我が社に及ぼす影響は，少くないと考えられるので，一言述べてみたい。

この需要増加は，農家の間に農業労働を機械化しようとする機運が強まつてきた事と，動力脱穀機，動力籾摺機，動力耕耘機，動力噴霧機，等の動力源を安定性のある石油発動機に向けたゝめであると思われる。特に昨年は石油発動式の売行が最高を示した。（下表参照）これは

1. 終戦直后買入れた石油発動機の更新期がきた事。
2. 米価の値上りで農家経済が好転した事。
3. 電力事情の関係でモーターの使用を石油発動機に転換した事。
4. 石油発動機の移動の自由性と操作の安易性による事。
5. 過去15年間もの石油の統制が昨年7月に廃止され，石油が潤沢に出廻つた事。

等の理由によるものとみられている。そのなかでも見逃せないのは3番目の理由の様に思われる。昨年の炭労，電産2大ストで1番儲けたのは石油会社といわれている。即ち熱源，動力源を石油機械に移行したからである。

つまり需要家の電力に対するレジスタンスの展開といつたものが石油界ひいては石油発動機，石油コンロに幸いしたのではなからうか。供給区域の大部分が農村である我が社として，産業用動力源を他に転換されるのを傍観してはならないと思う。近き将来電源が開発されて，安定性のある豊富な電力が得られるのが明瞭なる時に，其の対策のおそきに失しない事を望むものである。

石油発動機生産実績調

年度	生産台数	増加係数	延べ馬力数	換算KW	備考
	台	%	万馬力	千KW	
16年	31,758	100	11	82	戦前最高
26	91,154	287	26	194	
27	134,636	423	36	269	

註　1.　陸用内燃機関協会調べ
　　2.　日本経済新聞3月3日より

サービスに就いて

新潟小出営　尾　沢　源　吉

小さい商店や小規模の工場よりも，百貨店や大企業程サービスが悪い，と言うのが一般需用者のほとんどの声である。ましてや我が電力会社の如き独占的公益事業に於いて，一般需用者が抱いて居る感情は相当悪いものと思われる。事実そうであるが，会社をより良く運営するには先づもつてサービスの改善に務めなければならない。

サービスとは？　受付窓口のみの応対や美しい言葉を使う事だけがサービスではない。本来のサービスとは以上の事は不可欠の条件であり，サービスの根本を為すものであるが，当社としてはもつともつと大きな視野に立つて，完全なるサービスをなし，健全なる運営をせねばならない。その方法として，第1に電源の積極的開発をすると共に，質の良い電力を需用家が満足のゆく様に供給する事。第2に電気知識の普及。第3に経営の合理化である。そこでその1つ1つに就いて述べるが，先づ第1に就いては，26年5月，再編成に依つて発送電と配電が一緒になり，新会社が発足し，8月に料金の値上げをし，9，10月に稀に見る所の異常渇水に依り，需用家の非難は相当に強くなつた。その反面，当社としては電源の開発に努力して来た。然し未だ正規の電圧，正しいサイクルを出す事が出来ず，渇水期には緊急停電に依つて，かろうじて窮状を凌いで居る現状である。先づもつて緊急停電を無くしなければならない。幸い本年8月迄には20万KWの増加があるとの報せである。沼沢沼も出来，本年の夏，遅くとも来年の今頃は，緊急停電は遠い過去の夢になる事と思うが，完全に需給のバランスがとれるのは31年だそうであるから，緊急停電はしなくてもある程度の負荷の適正化が必要なものと思われる。とは言つても需用を抑えてはならない。申込みに就いては出来る限り供給すべきであり，常に需給のバランスを計ると共に，経営の面のバランスも考えなければならない。

第2に電気知識の普及に就いて。沢山の電気を供給し，多くの色々な電気機器が出て来ると，需用家は必然的にその機器を使い度くなる。その為にはある程度の知識が必要であり，知識の無い者がいたずらにこれ等の器具を使用するとなると大変な事になる。故障が多くなり，火災の原因が多くなる。此れを防ぐ為には電気知識の普及を完全にやらなければならない。知識があれば器具が使いたくなり，電気が売れるのである。電気とはどんなもので，どんな器具を使うと，どれだけ電気を消費するのか，等の簡単な根本的知識を植え付けなければならない。

第3に経営の合理化。経営の合理化と言つても，少ない人員で，沢山の仕事をする様にするだけの事ではなく，又此れに依つて人員を減らすのでもない。能率を上げ，よいサービスの出来る様にしなければならない，言い替えればサービスのために人員を増しサービス機関を多く設け，現在の会社機構，又は社員の気持を80度転廻させなければならない。以上がサービスのあり方である。

本年はサービスカーを備え，小型サービスカーも作るそうであるし，障害探知機も備えられつゝある。いよいよ多くのサービスが出来るものと思われるが，唯1つ人員が未だ未だ不足である。唯単に営業関係ばかりでなく，あらゆる分野に於いて不足である，社員を増加する事こそ大きなサービスと言えよう。人員を増してより多くの色な事をやれば，必ずやそれ以上の収入があがるのは当然である。

本店では8月迄に増加する電力の内3乃至5万KWは新たな申込みを取らなければならない，と思つて居るのに対し，下部末端ではそれどころか申込みを抑制しなければならない，と言う考えである，かゝる事態は個々の仕事が忙しく，色々の事に就いての認識を身に付ける事が出来ない所に，大きな原因がある。会社の規程すらも勉強する事が出来ず，ましてや社誌等を読む暇がない様な事がそもそも宜しくない。もつと人員を増し，社員教育を大いにやつて，会社の運営方針を徹底すべきである。

そしてサービスを第1のモットーとして進むべきであり，サービスこそ会社がより良く運営され発展する原動力である。

（22頁より）

その例によるとされた公益事業令（昭和25年政令第343号）第2条第4号に規定するものをいう。以下同じ。）に対して負担する工事負担金

（国の補助）

第5条　国は，開拓地における農林漁業団体が必要とする前条各号に掲げる資金に対して都道府県が補助を行うに要する経費に対し，毎年度予算の範囲内において，政令の定めるところにより，補助金を交付することができる。

（農林大臣の指導）

第7条　農林大臣は，第4条の規定により資金の融通を受け，又は第5条の規定により補助金の交付を受けて発電施設又は送電配電施設を造成，復旧若しくは取得しようとする農林漁業団体に対し，当該施設の建設に関し当該施設を造成，復旧又は取得したこれらの農林漁業団体に対しては当該施設の維持，管理又は利用に関し，政令の定めるところにより必要な事項について指導しなければならない。

（都道府県その他の団体の指導）

第8条　農林大臣は，前条の指導の事務を，都道府県その他の法人で省令で定めるものに行わせることができる。

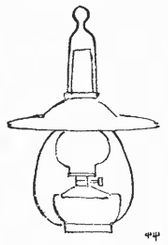
2.　政府は，毎年度，予算の範囲内で，政令の定めるところにより，都道府県に対しては第2条第2項の調査を行うために必要な経費の一部を前項の規定により同項の事務を行う者に対しては当該事務を行うために必要な経費の一部を補助することができる。

（電気事業者との協議等）

第9条　農林漁業団体で当該農山漁村に電気を導入する事業を行おうとする者は，その造成，復旧若しくは取得しようとする発電施設又は送電配電施設の利用上必要な電気の供給又は発生する電気の託送若しくは売買について，電気事業者に協議を求めることができる。

2.　前項に規定する協議がととのわないとき又は協議することができないときは，当該農林漁業団体は，当該事業の公益性及び緊急性について農林大臣の認定を受けた上，政令の定めるところにより，通商産業大臣に裁定を求めることができる。但し，認定を受けた日から2箇月を経過したときは，この限りでない。　（第3項以下略）

白洲さんと妙高



草間源之進

私の職場は，関川一筋を境として中部電力と接している当社最南端に位置する60サイクル系の一電業所です。辺僻な所ですが，秀峰妙高山（2,446米）の奥から流れ出る関川には9万KW余の発電設備があり，500KW以上の大口工場8つに供給して，当地方文化の源泉となつています。

妙高山麓に聳える白亜の館は，妙高温泉の誇りとする観光ホテルで，長い間接収されていましたが，昨年6月接収解除となつて，日本人も泊れるようになりました。

去る1月22日午後観光ホテルの支配人から電話があり，明日白洲さんが来るという電話が東京の帝国ホテルからありましたが，白洲さんは会社の会長さんではありませんかと問合せがあり，白洲さんの来られた事を知つたのでした。

翌23日は当地方でも珍らしく一夜に85糎の積雪を見白洲さんの汽車もその為に難行して1時間程延着しました。ホテルには雪中自動車があり，常に客の送迎をして居るのですが此の朝は運転が停り，白洲さんの日程にも大きな支障になつたものと思います。8時40分頃白洲さんがひよつこりこの電業所へ見えました。その堂々たる体軀で，所員は最初外人が立寄つたものと思つて居ましたが，「東北電力の白洲です。」といわれたので，一同初めて見た白洲さんを知つたわけです。それから約1時間いろいろお話しがあり，なかなか我々現場員にとつて印象深いものがあるので，2，3書き誌して見ましよう。

所員K—昨日観光ホテルの支配人から白洲さんが来られるので，今日の停電日を何とか送電してほしいと再三電話で申込まれて困りました（停電するとスチームの機械が運転不能となる）。

白洲さん—ホテルとか大口工場はこれで利益を挙げているのだ。それよりも家庭を確保しなければならん。僕がこんなことを云うので，とやかく言われているが，僕は一向にかまわん。

ケトウとは一緒に泊れん。とても室内が暑くて夜でも眠れんよ。だから水を飲む。時には変つた水もね……。東北人は酒がいけるが皆飲めそうな顔をしているね。（ポケツトから煙草を出して）君達の煙草は金を出したのだろう。これは汽車の中でケトウからまき上げて来たんだよ。さあ……。

近頃新聞などで6億献金とかさわいでいるが，君，東北電力をサカサに振つてもそんな金などとこからも出て来ないよ。今はないが選挙資金をねだりに来る政治家があるよ。そんなのにやる金があれば君たちに分けた方がよほどいゝよ。

会社の幹部が1人や2人辞めても困らない。いくらも動いて行けるよ。弱音を吐く様だが君達全員辞められたら替玉がない。

諸君は雪国の作業服について考えてみた事があるか。今の社給品についてはどうか。

所員A—会社のアノラツクは，防水が不完全で，保温が不充分で丈が短かいと思います。

白洲さん—（社給品のアノラツクを見て）色は赤か黒がよい。雪に対して白は不可だ。遭難等の場合も考えなければいけない。防水と保温の関係については研究の必要がある。完全防水も汗との関係があり，裏はラシヤがよいだろう。丈は更に5寸位長い方がよい。ノルウエーでは前袋をつけているが，あつた方が便利だ。ズボンはどんなものがいゝかね。

所員B—ラシヤかコールテンでなければ行動出来ません。

白洲さん—（社給品を見て）これは夏物だ。こんなものでは冬の雪国では作業出係ぬ。購入者が現地え来て着装して行動してみれば一番実態が分つてよい。いずれ仙台え行つた時試作させよう。

所員K—荒天で道も悪いし，ホテルまで御案内させます。

白洲さん—15年程前に友達と赤倉えスキーに来た事があるので知つている。帰りに宿賃が足りなくなつて時計とスキー靴を置いて，東京から金を送つたことがある。赤倉は宿賃が高いので記憶に残つている。かまわないでくれ。凍死しても元をとつたのだから惜しくないよ。また来るよ。

と言葉を残して粉雪の舞う猛吹雪の中え出て行かれた。

25日午后7時頃再度電業所に見えられたがこの時は宿直員だけだつた。隅々宿直社員の長女恵理子（2年3ヶ月）さんが来て居り，白洲さんをオジチヤン，オジチヤンとよび，だつこをしてすつかり仲好しになつてしまつた。

白洲さんの子供好きは有名な話だが，東京え帰られてから大きな箱入りの玩具が送られて来た。初対面の1社員の子供にこの様な心づかいをされた白洲さんに大きな親しみを感じ頭が下るのである。

白洲さんは今重大使命を受けて異国の旅を続けて居られる。つゝがない旅路をお祈りする次第である。

（28.2.12）（文責在筆者）

雪の藝術祭

越村正一

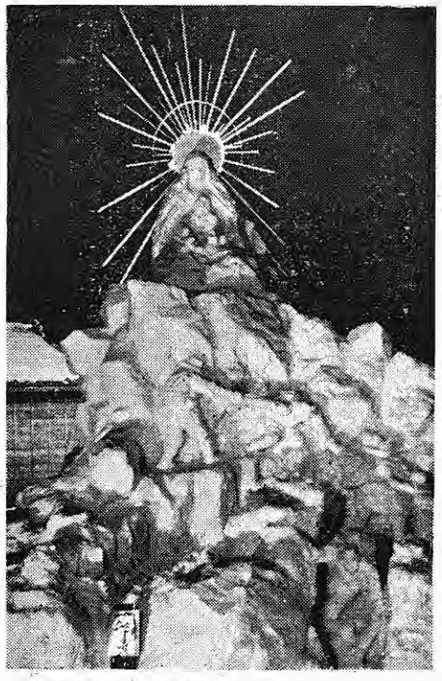
深雪の里，十日町，通称越后のチベツトと言う。そのチベツトで去る2月14日15日の2日間，世界一の豪華雪まつりが，珍らしもからりと晴れた上天気に，一きわ景観であつた。雪の芸術作品立ち並ぶ街頭は，ゲスト，報導陣，さらに近郷近在から雪まつりを見んものとつめかけた，老若男女が行き交い，目抜通りは宛ら名産明石ちゞみを織なす綾の如く，人波はえんえんとつゞき，チベツトにかつてない賑わいだつた。

此の雪まつりの遠来の客は，評論家の阿部真之助氏女流小説家の吉屋信子女史，画家の小野佐世男氏，又芸能関係では落語の三遊亭金馬氏，万才の柴竜万竜等未だかつてなきメンバーを揃えての豪華な顔ぶれだつた。

これ等のメンバーも芸術作品の審査に加えられた。雪の芸術作品だけでも大小合せて，44点だからこの作品全部に小半日もかゝる位だつた。雪の芸術作品に出動した人員は，延2千人と推定せられている。期間も優秀賞を得た，雪の殿堂などは1週間も要して，その経費8万円との事だつた。雪の芸術作品を鑑賞した人員3万数千余位と推定せられる。従来冬季にこれだけの多くの雪国の人が，集団して戸外に繰り出した経験はおそらくなかつたらう。雪に埋れて小半年冬期間はスキーより外，楽しむ物はないと言うた昔は，今何処ぞやである。

こゝに雪の芸術作品の寫真を掲げて皆様から鑑賞して戴き，雪でもこんな芸術が出来る，と，言う事を認識して戴きたいと思います。

尚，来年の雪祭りには，是非，越後のチベツト十日町にお出下さい。



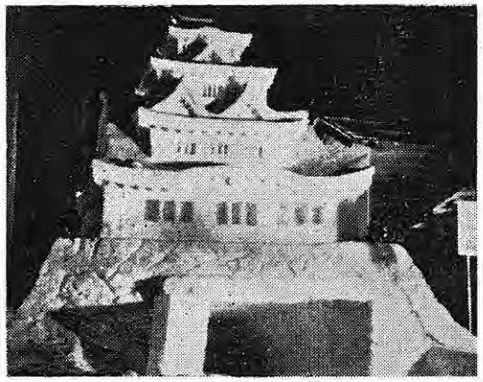
1等　手ぐさりによつて

No. 1は1位袋町西区の大優秀作品「**手ぐさりによつて**」で，1週間延3百名近くの努力で完成した。頂上の女神を目指して手をつなぎ，前進する有様を現わしたもので構図と云い，彫刻と云い1点非の打ち所ない。

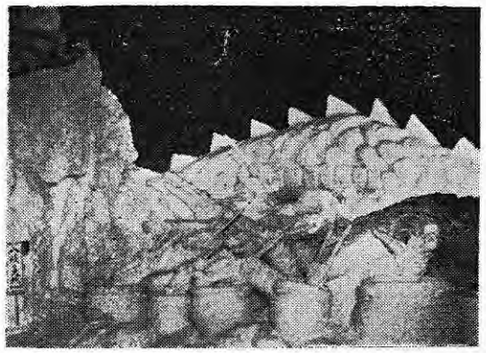


2等　船　出

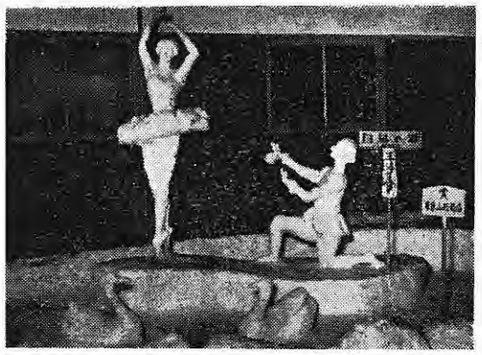
No. 2は，2等入選の西寺町作品「**船出**」御題に因んだもので，夜間照明で特に夜は秀逸作品ぶりを発揮した。



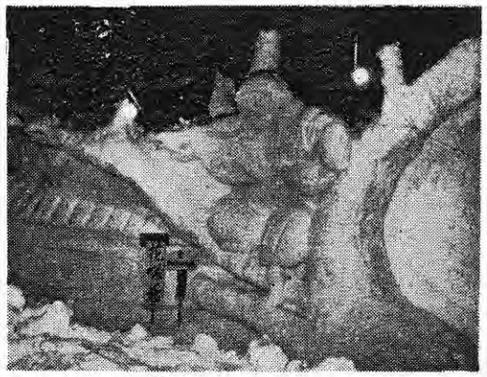
No.3 は，同じく3等入選の稲荷町の作品で，「**白雪城**」で高さ8米もあり，手のこんだ立派な作品，前夜の降雪の為に1睡もせずに，10数名で撫で通したそうである。



No.4 は，同じく3等入選の高田町の作品，「**八岐の大蛇**」で長さ4間もあるもので，大蛇が酒を呑む様はまるで生きている感じだつた。



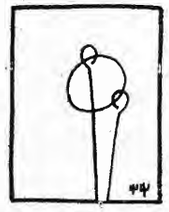
No.5 は，同じく3等入選の五之町の作品で，「**白鳥の湖**」で，小品乍らなかなか立派な作品で，バレーの踊り子が今すぐ踊り出すが如くであり，踊り子の雪像の技術を高く評価され，この寫真だけでも 1,000枚近くも売れたそうです。来年の芸術祭にはこう云う感覚の作品が多く出る事でしよう。



No.6 は，同じく3等入選の田中町の作品「**花咲爺**」で，昔語りにある正直爺さんが，殿様の前でかれ木に花を咲せる構図で。夜は電気などを点灯して折りからの新雪に，ほんとうの花が咲いた様でした。寫真の都合で馬上姿の殿が寫らなかつたのは残念でした。

（十日町営業所）

電氣と雪について



神経質なWMH

年の瀬は何時も同じく慌たゞしい。私も同様常日頃の不真面目がその儘に，1952年の師走が迫り，一度に重畳された如く，テンヤワンヤの1年を閉ぢ会社の業務も少しくは翌年に越さねばならない運命であつたが私としては思う存分勤め努力した賜としてボーナスを懐に，1年振りに見る故郷えと国鉄に 400円の運賃を支払い体及小荷物一切を委せ汽車の人となつた。車中は相変らず年末を強く表現している。商用の者。社用の者。帰省の学生。列車を利用して食わんが為の行商人。独立後の日本社会を1車輛に縮尺描寫した如くである。その縮尺された社会の1員となつた自分の職業を，ふと振返つて見た。公益の為の需用を賄つている電気に直接関係ある工務に勤める自分が，名実共に公益事業に従事する名誉と誇を感じた。斯く身を委ね安全に旅行出来る鉄道も，電気なくしては1時も運行出来ない。石炭あればと云々される方もあろうが，列車運行の連絡，タブレット，踏切のシグナル，夫々が電気を使用している。斯様な事を考え乍ら列車の窓より外を眺めると，我々電気屋の給料を何時も確保して呉れる，我が社の送配電線が，野を越え山を越え，町に田舎に，山奥の僻地部落にも，文化の光を灯している。自分等の保守状況等考えて，他支店，営業所の保守如何と見較べ乍ら汽車の旅を楽しんでいたが，T駅に停車，町の製材所であらう，H柱に15KVA2台がトランスの腹部が少しく見えるのみで碍子，開閉器等は雪に覆われた場面を見て「雪が若し絶縁物でなかつたら」唯それ丈であつだが，若し雪が導体であつたなら，如何なる方法にて電気の需用に応じていたであらう。と考えられて来た。特に我が国は山岳の国，雪の国である。又人口の大半は農漁村を占め，自然の理として，その朴納な人々は半年も深い雪の中に素朴なその日を送つているのである。その人達にも電灯を灯して敷けるのは，雪が絶縁物であり，その為雪に対する電気的考慮も必要なく送配電しているが為であつて，若し之がケーブル使用とか，地下道にて供給する場合，経費面にも相当高額になり，現在の様に広範囲な利用も不可能であろう。屋根の雪，腕木上の雪，雪は遠慮もなく処構わずその場所に落付いている。之が導体であつたなら至る処でショート漏線状態になろう。完全なる導体でないとしても長距離広範囲では相当のロスがあり，如何にして之を保守していたであろうと安心感が胸を撫で下した。美しいが冷たく清純な六華の雪で銀世界と化した東北には，一つの淋しさを思わせるが，その反面雪に対して感謝すべき点がある。

我が国の様に大部分は河川流量をその儘水車に導き電力と化す流込式発電所である場合，又は大きな貯水池を有しない発電所に於ては，11月～3月に亘つて渇水期となり，発電量の不足を来す原因である。然し後者を考察すると，自然を利用した一大貯水池とも考えられる。春が訪れ諸山より溶け集る水は，水力電気と化して文化の進歩に福音を与える事を思えば，我々には無くてならない雪の存在である。雪の我々工務保守員に直接影響する事は，雪の重量に依り，樹木の枝が線路に障りグランド又は断線漏線等を惹起する事位であつて夏期に伐木，支持物等の保強を維持していたなら，未然に防止出来るものである。扨つて此の雪を利用し保守上に有利な場合を或る電話保守員の話を例として記さう。

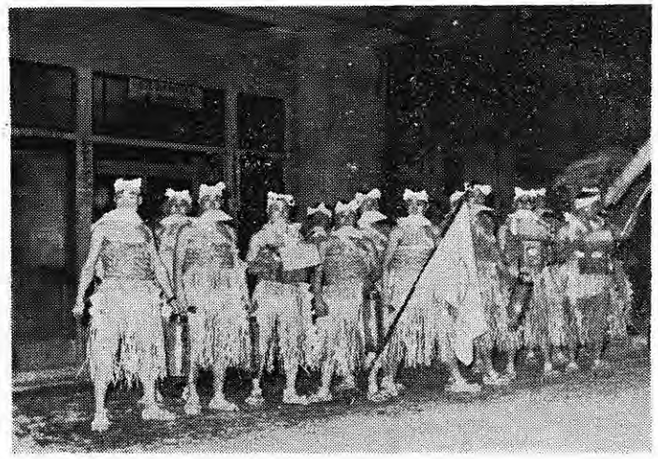
毎年の様に襲い来る送配電線の雪害が又も到来，3回線支持の腕木が4本も折れ電話線が地上の雪に覆われていた。その際保修用具材料もなく，応急処置として各回線漏線しない様小さい杭で雪の上に止め，その日は帰宅，翌日その箇所を保修し，その間電話通信を何等支障なく終えたとの事である。之が夏季の事故又は雪が導体であつたなら，是が非でも地上より離し，碍子等を用い完全なる絶縁は幾ら応急処置としても必要であつたろう。此の事故現場も丁度人通りなく，田圃であつたが為に斯様な処置も出来たのであり，高圧にても重要回線で地形的に上記の様な場所であつたなら，可能な応急処置とも考えられる。我々線路保守員の線路巡視にも，春夏秋は草木を分け線路の下を徒歩で歩まねばならないが，冬は雪とスキーの恩恵にて高低の少ない地上を難なく滑り，時間的にも急速に任務を果せるものは，之も雪があつての賜である。電気と雪を対照した場合，雨は大貯水池を有しない限り，貯水保存が出来ず，雪の場合は人工的貯水池は要せず自然を利用，その熔解した分を電力として活用出来る点は雨に比して優る点がある。特に東北，北海道等の地域では，冬期間の降雪は年間降水量の50～55%に及んで居り，年間の雨と比較し半以上は雪である。之で豊な電気を発生して雪中生活を合理的文化的な楽しいものとするのである。自然の中に雪と雨があつてこそ電気事業も果てる事なく続き，従事する我々の生活も保証され，降り積つた六華の雪も人為的に利用してこそ，輝かしい光となり，産業の動力として我々の生活よりは寸時も切り離せないのである。

斯く考え乍らも，列車は吹雪の中を進んでいる。間もなくM駅である，懐かしき我が家え一刻も早くと下車準備をした。

（青森支店七戸営業所）



「冬の神は私達雪国の者を白いヴエールの厳しい生活環境におかせて「確信と忍従」「苦闘と希望」の默示を与えてくれるものである。そしてこれらのものは，寒風と雪にその生活を圧縮させられる北国人の精神を



盛岡営業所前にて

強く鍛え，稍々もすれば凍りついた生活や心に雪国ならではの特趣ある情緒やヴァラエテイに富んだ行事を人々に慾求させて，長い冬の生活を潤飾さしてくれるのである。

この冬が生んだ所産の年中行事として岩手県には代表的なものに，大原町の「水かけ祭り」や水沢の「蘇民祭り」等数々の行事があるけれ共，私は生ッ粋の盛岡人の立場から何はともあれ，古くから盛岡近郊に伝はる寒中の“裸参り,,を紹介し度い。

裸参りは「名「寒詣」とも云われ毎年県社八幡宮を筆頭として，日頃信心する夫々の神社等の御年越祭に威勢のいゝ若者が裸で寒詣りをして願をかける行事を云うものである。

裸参りと云えばその受ける言葉の感じから未知の人には非常に奇異に思われるかも知れない。当世のストリップの出現によつて往々酒落れたつもりの御仁が「ストリップ詣り」などと揶揄しているが，それらの人々は素朴な人間感情をもたない悲しい凡夫の曲解と云わざるを得ない。裸参りはけだし，年越祭の行事にちなむ冬の盛岡圧巻である。その何んらの盛飾ない素朴な表現や精神に人々をして共感を抱かしめるのであり，ともすれば複雑な現代人の私達に或る意味の郷愁をすら感ぜせしめるものでもある。

然らば裸参りとは如何なるものであろうか。今の所郷土誌や其の他の文献にも見出せないので詳述する由もないが，ともかく根強い郷土民の執拗なまでの神えの信仰心の発露が根本である事は間違いない。郷土の隆栄とか，その年の厄払い等の祈願，更にその時代時代の祈願の意図をもつて，併せて北国人の雄渾にして剛健な気性ッ骨が潔斎された体を張つて凛然として膚を刺す寒夜に神に仕えるという思い付を加味したものと思われる。

さてその様相は，当日になると沐浴潔斎した若者達は出発場所の祭壇に供物を供え礼拝を済ませて後，御神酒を戴き寒詣の仕度に取りかゝるのである。身に纏うものといつては，真新しい褌をしめ腹には晒1反をまき，腰部には相撲に見られる横綱式の太縄のシメと腰ミノとをつけ，キリゝと向う鉢巻をしめる丈であり，足には草鞋を履き口には3角の口紙をくわえる。そして1部のものは，三宝に米，鏡餅或いは土器に入れた御神酒又野菜，魚等神社えの供物を捧げ持ち，2，3の勝れて屈強な若者は細長い棒の両側に3角紙の並んで取りつけられた丈余の錦状の「ハサミ」と称するものを持つ。このハサミと云うのは3角に折られた紙の袋が100枚，棒の両側に取りつけられてあるがこの1枚1枚の3角紙の中に，嘗つては1厘銭をはさんでおいた事を，もじつて名付けたといわれている。三宝持以外の者は必らず鈴を手に持つのである。斯うした出で立ちの1団は各自銘の入つた小田原提灯を下げた1人の世話役を附添わせて，日暮れ時から1斉に歩を揃えて3歩進んでは鈴を1振りし乍ら白い雪道を進むのである。この速さは半里を約2～3時間を要し，正に牛歩遅々の感がある。神社に着くと供物を供えて心からなる拝礼を済ませ御神酒を戴いた後，町中から集められた門松，しめ飾りを焼き納める神社の清納祭に参列してこの寒詣を終るのである。斯うした勇ましく荘重な修行の各組が長蛇の列を作つて行進する頃となると祭りに出向いた参詣人は道の両側に人垣を成して見入るのである。



循環している血が寒さの為停止したかに感じられる酷寒の夜空に，一斉に振られる鈴の音は人々の心を全く浄化してしまい，そしてそのまゝ彼等が2歩3歩と歩を運ぶ如く再び血が活躍し出す様に思われる。彼等の顔は無表情であり唯眼丈が次第に神々しく光をおびてくる。彼等に「寒いだろう」などと同情するのは決して当らない。なんとなれば，時折り身体中にピリッと刺す様に感じた時，くわえた口紙を全顎の力を結集して固く噛む外は，極度に緊張され，統一された気魂に満ちた精神から全然寒さの自覚を失つてしまうからである。否，その受ける荘重な厳粛さから畢竟神に仕える彼等自身神であるようだ。神えの願いを中断されるとの縁起からであらうか，見物人にとつてこの行列を横切る事は絶対に許されない。人々は其の儘冷凍してしまいそうに気遣われる裸参りを見て毎年の事乍ら驚異の目を瞠り，神えの新たな敬虔の念を湧出さして一層年越祭を意義あらしめるのである。

歳々行われる行事ではあるが，年が明けて正月気分の追々薄らぎかけて来る頃盛岡の人々は，昔から素朴な心に生れ育てられ，今日までうけつがれてきたこの気魄に満ちた行事を心待ちに待つ様になる。それ程市民の心に滲透し生かされて来た所以のものはそのスケールの雄大にして厳粛であり，素朴にして内剛的であり，更に渋い古淡な美しさをもつているからであり，それが其の儘城下町盛岡の情緒的土民性に合致するからである。

茲で，特筆せねばならない事は，今年この冬の盛岡の風習裸参りに我が盛岡営業所現場員諸子が参加した事である。当営業所の裸参り参加の歴史は相当古く，遠く盛岡電燈会社時代の昭和12年頃より始められている。尤も今次戦争終了後，杜絶えてはいたものゝこれは神を敬遠したアプレ的な時代の流れで，ひとり我が営業所のみではなかつたのであるが，漸やく今年度復帰を見て1月15日，屈強の現場員15名が社運の隆盛と今年の完全就業を祈願して，数団参加せる裸参りの先頭を切つて，白地に朱の社章も鮮やかな社旗を先頭に押し立てゝ荘重に寒詣りした態度は，親馬鹿的評ではなく，一きわ気品があり威風堂々として立派であつた。この裸参りする人々はなんと云つても消防関係の人が多く，我が営業所現場員は勿論，町内青年団，或いは信仰心の厚い有志等となつて居り，原則的に3年連続参加を以つて満願年数となつて居る。又この寒詣をやつても絶対に風邪や其他の疾病に罹る事の決してない事を，因に申述べて置き度い。

この裸参りは，古老の話によつてもその起源に就いては明らかではないし，又神社自体すら明確な資料が無いそうであるが，宮司のお話しでは，日露戦役当時必勝祈願の意味合から相当な隆盛を見たものなそうで推察するに，遠く明治以前より鞏固に継承されて，日月歳々同様終古消磨する事なくこの素朴な冬の行事は連綿として今日に到つたものと思われる。

我が盛岡営業所も，再び本年を皮切りに，年々歳々この行事が続けられて行く事であらうが，この行事が行われている限り盛岡の人々は，根強い美しい素朴なそのまゝの姿で，いつまでも，いつまでも，南部人の特質を生かして行く事であろう。（岩手盛岡営業所）

古い思い出



佐島信愛

厳寒の最中に只見川其他の現場に御苦労しておられる諸氏の労苦を浮べながら，自分のさゝやかな現場生活の思い出を記してみる。先日只見川の起工式の映画で北松部長さんの元気な四股を踏んでの紙入式を見て，古い思い出などと言えば北松部長さんや多数の先輩に頭が上らないことは無論承知で書くことにした。

都会生活を永く続け，しかも丸の内のサラリーマンとして，いさゝか自惚れていた頃の自分が人里離れた群馬の草津温泉に近い山奥え測量班と同行したのは，昭和2年の秋近い頃だつた。初めの内は見るもの聞くもの総てが珍らしく，半年位は，いつの間にか過ぎ去りボツボツ都会の生活が恋しく，わざわざ休みを利用しては半日の銀ブラ位で我慢することもあつた。しか

し請負がきまり，ボツボツ人夫が入つてくると，それにつれ日増に勇ましいダハツパの音も数多くなる頃は何かしら仕事に対する責任感と興奮を覚え日々の勤務が楽しく成つて来た。どんどん仕事は進んで行くばかり。もう技術やも事務やもない皆んな共同作業に成つてしもう。計算に技術やさんが残業すれば，我々事務やもソロバンの手伝をしたり，測量に手不足の時は自分達若者はポール持をして手伝つたこともあつた。ある小雨の時のセメント運搬に，トラツクのシートがなかつたので目から火の出る程叱られたこともあつた。又セメントの運搬が後れたり，補償関係が進まぬ為に多くの人夫を遊ばせて，請負の人から，今で言う吊し上げを受けたことも度々であつた。初の内は稟議や書類に付いてくる技術関係の図面等は，チンプンカンプンで只予算面とソロバンさえ合えばO．K．と考えていた。し事務やだつて図面の見方位しらないでは1人前の事務やになれるもんかと先輩からドヤされたことも思い出される。又「事務やでも時々現場に出掛けて勉強しろ」と，やかましく言われた。やはり事務やとて帳簿と伝票にばかりに噛りついているばかりが能でないし，工事中の実物を見ないで正確な伝票も発行出来ないことは無論のこと，精算の場合に案外適格な処理が出来ることを教えられた。

最盛期ともなれば，今の様に基準法等もない時分だから昼も夜もなし皆んな目を赤くはらして，仕事以外は何も考える余地もなかつた。この頃は皆んなが気が立つているので，よく喧嘩もした。ある現場で竣功が，目前にせまつた頃，北松部長さんからの至急電話で，おしかりを受けたこともあつた。「骨材が不足で予定の進行が出来ないとは，どうしたことか。――骨材がないなどとは言わせぬ――道路のバラスを集めても期日に努力せんか」北松式ハツパが来たと電話の前で頭をペコン，ペコン，やつたことも思い出の1つでになつた。

しかし昔はよく「ノム」チヤンスも多かつた。まず起工式から横坑着手だ，ヤレ本坑着手だ，ヤレ隧道貫通だ。インバルトの打初めだ，フイゴ祭だ，山の神，水神さんだと，竣功迄に何回位あつたか。その頃はやはり酒が1番の慰めでもあつた。

いよいよ待望の堰堤水門閉塞―水路の通水試験―水圧鉄管の圧力試験―次々とテストが進んで最后の発電機テストとなれば，テスト係員以外はあの大きな「シヤフト」の初廻転を見んものとカタツバをのんで見守つている。

静かな音……静かに廻転初める「シヤフト」やがてゴーゴーと音をたててフルスピードで発電機がウナリ出す。……皆んなは真黒になつた，帽子，手袋，菜葉服，地下足袋，ギヨロギヨロ光つている顔一パイの涙一互に肩を叩きつつ--よかつたナア……よかつたナアお目出度うの連発。所長も泣笑の顔に涙が1つ2つ有難度う，有難度うと，廻つて居られた。皆んなの永い永い苦労も一コマですつかりわすれてしまう。自分もこの一コマが忘れられないばつかりで現場廻りばかり永いこと暮して来た。自分も，もう少し若ければなどと言えば又北松部長さんに何を小僧がと言われること受合い……。でも現場生活の活気ある苦楽の生活も今では，一生の内で1番楽しかつたわすれることの出来ない過去となつてしまつた。現場の皆さんの御労苦に感謝申上げ併せて皆さんの御健康を祈りつゝ筆をおく。（山形支店）

田澤湖と補償



菅原利宣

生保内村から玉川本流を横断，石神部落を経て石神峠を越えると，風光明媚な水深日本一のカルデラ湖田沢湖がある。

田沢湖は生保内発電所建設と共に，重要資源として時代の脚光を浴びた大貯水池であるが，其の最深部425米に及ぶ東北々部の大電源を賄うこの大貯水池も発電利用水深は僅々12米で総貯水量の約30分の1であるので更に2米の湖面低下を計画している。

石神峠を越えた湖畔を白浜といい，石英砂が美しく光つている遠浅の砂浜で，湖畔の観光施設は全部此処に集中，湖の行楽の基点でもある。

これより西え湖畔に沿うて数丁で当社生保内発電所先達川取水路の注水口があり，更に約半里でさながら瀑布の様な水音が聞えて来る。これが当社の玉川導水路注水口である。

この注水口の飛沫をあびる湖畔に，美しい観音像がある。之が玉川毒水の流入による湖神を慰める為めに建てられた有名な姫観音である。湖神に対する湖畔民の信仰の念は極めて厚く，田沢湖開発は時恰も国策の線に沿う事業であつたとは言え，この解決が如何に難航を極めたか，筆者は此の観音像の前に歩を運ぶ都度如実に偲ばれ，実際此の業務に従事した諸先輩の労苦と功績に，深甚なる敬意を表したい。

玉川毒水の田沢湖流入によつて起きた補償問題の1つに，西明寺村の灌漑問題がある。

生保内発電所運転迄湖水は

湖の夕べの水は落ちるなり

家七つある潟尻のむら―小杉放庵―

の歌碑ある潟尻部落より落水して，潟尻川となり，西明寺村の千数百町歩の灌漑用水となつていたが，玉川の導入，湖の水位の変動に伴い，湖水を利用する事が出来なくなつたので，先達川取水路より最大毎秒2.38立方米を分水し，延々湖畔を半周して潟尻川に導入する当時本湖最大の補償工事たる，湖畔分水路工事が起された。

併し乍らこの水路も，種々なる事由の下に，数年にして使用しなくなり，迂余曲折数10回に亘る水利組合側との折衝の結果，田沢湖の水を直接潟尻川に注ぐ西明寺灌漑分水路の設置をみた。

この水路の水門の操作は，5月10日より8月31日までであるが，1昨年8月31日筆者はたまたまこの水門を視察した折，湖水は丁度水門の敷まで下つていたが，目下申請中の，湖面低下が許可になつて，有効に水位を調節をした場合，この水門の高さが問題となるのではなかろうか。

次に田沢湖の特殊性ある補償工事として大きいものに湖岸崩潰防止工事がある。

12米の湖面低下に起因して湖岸の諸所に，崩潰が起きている。これは主として湧流の注入箇所に多く毎年数百万円を投じて，この防止工事が継続的に行われているが，命令書第5条の2にも次の如く当社の責任で行う施設を明らかにしている。

「田沢湖の沿岸に対し本事業に起因して生ずる危害防止の施設」

本崩潰に依り耕地の欠潰，民家の危険等数々の故障が起きるので，有力なる大貯水の維持としても，又止むを得ない出費であろう。

然し本崩潰が拡大し，周辺の道路問題にまで及ぶ虞があるので，局地的な解決方法に依ることなく，大きな政治的解決方法かあるではなかろうか。

尚崩潰地の今後の処理問題は私達に与えられた課題であり，善処を要する。

農地の崩潰予定地は昭和23年頃に一応買収しているがこの買収の農地調整法による県知事の許可条件第2項に「欠潰に依つて耕作不能となる場合を除くの外相手方の使用収益権を保証すると共に，耕作上の妨害をしないこと」とあるが，この度玉川堰堤嵩上工事も竣功したので，貯水の実績も上ると思われるけれども，右条件にふれる事があるではなかろうか。次に補償的意義あるものとして，玉川除毒工事がある。本工事は旧藩時代より度々着工，除毒に努力を払つて来ているが，現在は県耕地課主管の下数回の設計変更を経て，8,700万円の巨費を以て，(国6割5分，県1割，当社2割5分負担）玉川温泉鹿の湯附近で，工事が行われ昨年は一部竣功，除毒がなされた。

其の後の田沢湖のP．Hの測定の結果は，まだ聞いていないが，酸度が稀薄になつている事には疑をもたない。本工事は28年度で竣功になるので，其の結果玉川流域の耕地に及ぼす影響，発電所施設に及ぼす影響等に大きな期待をかけている。

これは県並に，会社首脳部の大英断に依る協力が実を結んだもので，其の功績は偉大であると思う。

毒水に関聯して田沢湖の漁業権問題がある。元々貧栄養湖であると言われている田沢湖の事とて，他の湖の如く豊富な魚族には恵まれてはいなかつたとは言え毒水の流入に対しては，唯一の漁業組合たる秘湖漁業組合との補償に関し，相当の日時と努力が払われた様であるが，後日再び魚族の衰滅による湖岸元漁民の酪農転業費の要求問題が起き，政治問題にも発展したが会社は湖岸民1戸当り3万円の見舞金を出して円満に解決している。

玉川導入後名産の鱒は影をひそめたが，鮠は相当大きいものが依然として肥育棲息していて，大公望を喜ばしている。先達川及玉川導入後の最近のプランクトン調査によれば，年々増殖しているとの事，これは浮游物の流入や，生物の適応性によるものではないだろうか。毒水の排除と相俟つて，死の湖と言われている田沢湖も，今後の魚族の自然繁殖以外に，人工養殖も考えられ，再び漁業権問題が起きるのではなかろうか。

其の他補償問題としては，貯水池共通の問題である飲料水問題，耕地潰水問題，家屋移転問題等数多あるが，かゝる問題には今後利用水深の変更で，重ねて起こる事が予想されるが，上司や先輩諸氏の指導をうけ時代に即応した解決をしたいと考えている。

本稿の筆をおくにあたり，西明寺問題其の他潮畔の補償問題に，あらゆる情熱と努力を払われた現山形支店労務課長佐島信愛氏に満腔の敬意を表したい。

（秋田支店）　—1953.1—

短　期　員



佐藤鉄歩

樋浦元一君は東北電力の或る発電所の堰堤番である。堰堤番と言うよりは，水路保守も含めて勤務員が只1人なのだから水路番と言うべきものかも知れないが，日常勤務の本拠が堰堤番小舎なので，自他共に然う呼んで居るのである。

彼は7～8年前，38才の時，前任社員が退職した後をうけて人夫として勤務し，爾来引続き今日まで勤務して来たのだが，悲しいことに依然としてまだ人夫であつて社員ではない。最近に至つて短期員と言う名で呼ばれることになつたらしいが，それは決して「出世」した内容を持つものでなく，年令の多い彼にとつては愈々と離職の不安が増して行くばかりのものである。

樋浦君の受持つ発電所は大正12年に出来たもので経過年数30年，竣功後色々改良が加えられて，今では大小支流の取入が3ケ所もあり，水路は開渠，暗渠，隧道，水路橋と凡ゆる種類を備え，堰堤は木工沈床を積み重ねた，表面混凝土被覆したもので，極めて脆弱で出水の際には時々表面剝脱し，水叩きも始終破損するので常に厳重監視を要する。

何もこゝで名前も明らかにしない山中の中位の発電所の水路工作物の説明をするにもあたらないが，樋浦君の勤務内容に一寸触れて置きたいだけの話だ。

その上に本流は非常な暴れ川で，出水毎に年数回は堰堤上下流がひどく変貌を来しその度に護岸維持やら取水方法に人知れぬ苦労を重ねて居る。

本流堰堤の上流3粁位の地点にこの川の水の大半を取入れる灌漑用水があつて，昔から非常に贅沢に水を使つて居り冬は田甫に冬水を入れる慣習があつて，四季を通じてこの田水の豊富な残水が堰堤の下流に於て本流に還流している勿体ない状態であるが，統合以前から会社は之を座視するに忍びず地元え再三交渉したけれども，旧来の慣行の力は強く，遂に之を改めるまでに至らなかつたのである。其の当時の堰堤番は夜陰ひそかに用水取入口に至り草堰の一部を取払つて本流の水を増やしておいたところ，村人は翌日直ちに之を修理する。堰堤番は夜に入つてから又それを取払う。幾度か之が繰り返されているうちに，部落の大問題になり，遂に犯人が挙がつてその堰堤番は家族の者にまで指弾を受け身の置き所がなくなつて首を縊つたと言う哀話が残つている程で，樋浦君はこの事情を充分知悉し，村人の水慾の根深さに対し担当社員に協力して常にかんたんを砕いている。

随分前置が冗長にわたつたがもう少し我慢していたゞき度い。

樋浦君は社員の裕福な人達の様に田甫を持たない。日傭取などで細々煙を立てゝ居たのだから，会社の人夫に採用されてからは之が自分の天職と心得て勤務は真剣だ。或時芥掻きの柄が折れたので樋浦君は職場を妻君に交代させておいて，2里位山奥の本家所有の林にいつて手頃の榛を2本切取りそれを職場に持帰つた所へ，丁度支店係員が現場調査に行つて之をみて，いたく感動させられたことがある。

樋浦君が斯くも真面目に仂いているのに何故今以て人夫であるのか，それには何とも仕方のないわけがあるのである。

樋浦君は土地の小学校を出たのだが，他の多くの同僚と同じやうに，実生活に直接関係のない「がくもん」は殆と忘れてしまつている。社員採用試験は2度ばかり受けてみたが算答殊に算術，中でも分数など解らない為にいつも不採用となつて来たのである。少しは勉強してみた結果，$\frac{1}{2}$が$\frac{1}{3}$より大きい位のことは解つたが，さて$\frac{1}{2}$から$\frac{1}{3}$を引くだの，$\frac{1}{2}$を$\frac{1}{3}$で割るだのとなると，どうにも手に負えないのだ。大体そんなものが何の足しになるのか腑に落ちない。

学校で教わつたことを皆覚えている位なら大学出は其の後の体験と加えて皆博士様な筈だ。40才を過ぎた文科系統の学士様に積分を呑み込ませようとしたつて容易なことであるまいが，それと同じ理くつぢやねえかと樋浦君を知る程の者は口惜しまぎれに然う考えたくなる。

樋浦君は分数は解らなくても，ゲートのハンドルを右に廻せば閉まり，左に廻せば開く位のことは絶対に間違えない。仕事に対する熱意と多年の習熟に依つて他所の水路番に引けをとらない自信は持つている。

所で今回会社では短期員の社員採用試験が実施されることになつたが，樋浦君は年令の関係で受験の資格がない。所属営業所や支店の計らいで特別申請をしてもらつたが，会社の方針でそれは駄目になつたとのことだ。

国の方針や法規の変る毎に，諸方面に犠牲者の出るのは止むを得ないことだとするならば，会社の方針，規程の前には自分一身のことなど，どうにも仕様のないことであらう。

会社の規定とあれば，随分立派な上級社員がまだぴんぴんして居るにも拘わらず，停年と言つては退職して行くのを数多く見て来ている。

短期員整理も会社の方針とあれば当然のことであろうが，自分にとつては致命的な痛手だ。採用試験実施にあたつてたとえ特別な計らいで受験資格を与えられたとしても，算術の出来ない学のない自分には合格の自信が全然持つていない。試験するならなぜ実際作業に就いて行わないのだろうと不思議にに思うだけだ。

何れ試験の結果，採用される者は輝く幸福を得るであろうが，それと同時に不採用の者は現下最も深い痛手であるところの失職の憂目に多分曝されることになるであろう。

樋浦君は斯う考えて来て，失職後の家族の暮らし方について，近頃は日夜心を悩ませている。

この寒空に，裏日本の暗い雲の下，胸の底に固まつて溶けないしこりを抱いた儘，樋浦元一君は，せつせとスクリーンの雪掻きにいそしんでいる。

体が頑健で真自目な彼は，恐らく退職の日まで此の姿に変りがないであろう。　（新潟支店土木課）

娘のユートピア



小林美智子

私は時折こんな事を考える。

理想と空想はどう違うであろうかと……。

そして未だに明確なる答を得られぬまゝに放つて置く。時々思い出した様にとり上げては悪い頭をひねつて見る。

語句自体の相違を辞書によつて対比すれば，

理想＝理性にて想像し得る最上の状態。

空想＝現実よりかけ離れたる思想。

以上であるが，実際の日常精神生活に於てどこからどこまでが理想でどこからどこまでが空想であるか，その境界をはつきりと見定められない。

私は親姉弟に大空想家だと渾名されているが，一口に空想家と云い切ることは出来ないと思う。

空想と云つても実現の可能性の大きいものから「事実や法則に関係なく，その目的に達する手段も甚だ漠然として，実用的より寧ろ快楽的に傾くもの」まで種々雑多であらうが，私としては絶対不可能の事，たとえば砂上に楼閣を築く様な事は望まない。それ故に殊更，良く云えば理想家，悪く云えば空想家という様なもので紙一重の問題である。斯う考えても結論を得られず，つまる処誰が何と云おうと「私の遥かに思い寄する心」が理想であると独り決めして満足している。

私は1日24時間を睡眠と勤めとに大部分を費し，残りの少時間を，家事手伝，食事，入浴，雑談，新聞読み，とそれはそれはせゝこましい程小刻みにした忙しい日々を送つている。会社がひけて家に帰るともう掃除が待つている。それが済むと台所で炊事の手伝，けれど私は決して嫌やともつらいとも思つた事がない。それもその筈，此の掃除や炊事の時間が私達母と娘の楽しい会話の交される一ときなのであるから。母が野菜を刻めば私が拭き掃除をすると云つた具合に互に手を，体を動かし乍ら語り合うのであるが，政治の事，経済，文学，宗教，科学，医学，教育，服装，世間話思い出話，将来の夢，（時々は小言を聞かせられる）と高低，多少の差はあつても各方面にわたつて話の糸をたぐつて行くが尽きることがない。

「母ちやん，女つて一生独身で暮すことゝ，平凡な家庭人となる事とどつちが幸福でしようね」「そうさね，親の立場から考えれば，独身でたとえどんなに出世しても，社会的地位を得たとしても，精神的な幸福はあり得ないよ。それよりも平凡でも，よい家庭人となり地味に人生を歩むことこそ女として最上の幸福と思うがね」「それもそうね，1年1年としみじみさう思う様になつて来るの」

今日此の頃の語らいである。

私の理想（人に云わせれば空想）も幾変転の後やつぱり落着くべき処に落ち着いた。何千年も前からの何億何千万，いやいや数字等に表しきれない程の多くの女性が夢み，その達成のために努め，実際に歩んで来

た処の〻幸福な家庭を作るゝという女の理想点に私の心も落着いたのである。〻婦人運動家（市川房枝女史の志をついで）も2年程夢みつゞけて消え，〻女外交官（これはほんとにはかない夢と称するもので）も心の隅に擡頭しかけて間もなく消えた。(多分猿に喰われたんだらう)

後者は別として前者は独学でも何でも努力次第で実現し得るものと絶対信じていたが，行動に移さぬうちに周囲の感化の力には抗しきれず，私の理想も高い高い雲の上から現実世界にずるずるひきずり下されてしまつた。然しこゝに初めて永久的な，健全な理想が築き上げられるのではないかと思う。土台をしつかり地の中に伏せて一つ一つあせらずに準備して行く処にきつと大きな幸福がもたらされ，何時かは理想に到達し得ると私は信じている。

「幸福な家庭を作る。円満な家庭人となる」これが私の終生変らざる理想になろうとしている。

そうなるべきだ。そうなるべきなのだ！

小春日のやわらかく射し込む南向きの縁で真新しい座蒲団に座つてせつせと編み棒を動かしている若い婦人，お勤めを持つ忙しい体だけど，せめての日曜日でも利用して御主人の春着のセーターを編むのらしく，白くてやわらかい毛糸の玉が，きようにの動く指先の，調子に合せてころころ板の上をころがる。傍に居眠る子ねこ，縁先の小さな庭の，芽生え初めた草木……。

何も彼も新鮮で幸福にみち足りている。こんな景色が私によく見えるの，ホラホラ……ね。私にだけ見えるのかしら。その御婦人は誰でしようね？　私だつたらうれしいんだけど……。　（新潟・燕営業所）

冬の句自解



久保乙秋

雪虫や袖にひくければただよへる

銀杏黄葉が，一せいに落葉を急ぐと，黄色い色紙を撒いつばい撒いたやうに美しい。銀杏の根元の日だまりに，子供等が集つて来る。雪降るまでの子供等の集会所である。

独楽を廻わす子供，縄飛びの子供等元気いつぱいである。落葉の季節からもう冬の足音がそこえ来ているふと白い綿のやうな小虫が，ふわふわ漂つている。掌にすくい取つて見ると雪虫である。生命あるものとも思えぬ程あわれで，はかない。子供等は，こんな小さな微生物にはかゝはりなく，元気に跳びはねている。

人ゆくや冬木の日射し野の日ざし

何年も前の飯坂街道は，舗装路でもなかつたし，勿論電車も通つて居なかつた。自転車か歩くより仕方なかつた。小春日和の飯坂街道は駄馬，人，自転車，人と長い行列である。

角巻に頬被りの老婆が，この行列の1員として，ゆつくりゆつくり道を辿つていた。もうすつかり落葉しつくした柿の木，桜の木が，冬木らしい枝を張つて，道筋の両側に影を曳いている。あたゝかである。角巻では少し汗ばむ程の珍らしい日和である。ところどころ藁塚の残る田んぼは，涯しなく広い。取り入れのすんだ田面は，春のようにうらうらと，かげろうさえ見えるように長閑である。

立ちいでて煙草慾りぬし懐手

阿武隈川の川べりに住む自分にとつて，いわゆる隈畔は懐しのプロムナードである。春から秋まで絶つりで世話になる阿武隈川は，1日に一度は御目に掛らないと，気分が優れぬ程身近かな存在になつている。寒くなればなつたように，雪が降れば降つたように，阿武隈川の姿貌は，なつかしいのである。どんな寒い朝でも，起き抜けに隈畔に出て見る。秋も晩くなると鮭小屋が掛る。間もなく竹簀の端に鴨撃ちの小屋がいくつか見える。急に寒くなつたものと思い，懐手のまゝ今朝も隈畔に出て見る。阿武隈川の水量が，著しく減少している事に気がつく。そろそろ本格的な渇水期に入つたなと思う。いつも煙草をくわえて出てくるのだが今朝に限つて忘れて出て来てしまつた。ゆつくり煙草を吸いたいなと思いつゝ人影の無い隈畔をゆつくりゆつくり散歩し始めた。

電柱にことに雪降る家の前

酔歩漫然と雪の降る夜の巷を歩くのは，なかなかに味のあるものである。殆ど人通りは絶えて，風の繁華さは見るべくもない。市のはづれにある自宅迄，ときどき外套の雪を払い落し乍らブラブラ歩いて戻つた。自宅の門の前に街灯が灯つている。大通りから入り込んだ裏通りの街灯は，よく断芯して暗い場合がある。家へ入る前に，電球の健在を見上げて確める習慣になつている。ひんぷんと降る雪の中に，今晩は灯つている。斜めに飛んでくる雪片が，街灯に浮き彫りされて電柱から光線のとゞく範囲だけが，殊更に雪が多く降つているように見えた。酔眼の魔術であつたかも知れない。

猫柳田ごとに残る雪すこし

飯坂温泉行の電車に乗つて，信夫山麓を廻ると，一面の涯しない田んぼである。小川がキラキラ光つて水かさを増している。立春とは謂え，吾妻颪が肌に痛い程である。ふと電車の窓から猫柳の芽吹いているのが見える。そして田の西側に当る畦の部分には，雪が残つている。少しづつ雪の残る田の畦が，吾妻山麓までつゞいて広がつている。そして吾妻山の一切経の左肩の辺に，白い噴煙が立ち昇つて，澄み切つた青磁色の空へ流れては，消えてゆく。みちのくの春も真近い。

（福島支店）

馬は人が乗るように出来ている



松岡志郎

クライド•ブライオン•デーヴイス，この人の馬の経歴については私は何も知らない。たゞ私にわかつていることは，彼がまだ脚が短かくて鐙に届かず鞍に足をかけねばならない子供の頃から気の荒い馬に乗つていたということと，彼の父もアメリカの或地方で有名な馬の乗り手であり，暴れ馬を馴らすには並々ならぬ手腕を示したということ，馬から突発的な反逆を企てられ殺されそうになつたこと，彼が愛馬にまたがつて狭い山路にさしかゝつた時，馬の4分の1位の小さな汚ならしい黒熊に出遭い馬がまるでヒステリーの馬鹿者のように振舞い危く人馬諸共200フイートの断崖から転落せんとしたが，辛うじて御し得てすんでのところで命を落すところであつた，ということだけである。

デーヴイスは，次のようなことを言うのである。

大きな気持のよいおとなしい曳き馬は別であるが，将軍や紳士がその位階の表徴としてまたがるあの美しい気品のある利口で忠実な馬は，戸外の旧式便所と同様時代錯誤の代物であるというのである。

又更に彼は馬に林檎や砂糖をやつて馬を愛した。少くともそう自身では思つていたが，その愛が報いられているなどと決して考えなかつた。馬は人に対して嫌がる様子もみせず，時には姿が見えると嘶いたりするけれども，心の底では馬は腹を立てゝいるのである。一度馬に癇癪を晴らす機会を与えて御覧なさい。一体どんなことが起るか。

デーヴイスは更に，私は度々馬で怪我をした。しかしそれは大ていの場合，自分の過失からであつた。何故かと云えば私はつい油断をして瞬間的に馬を信用してしまつたからであつた。いやしくも馬を信用するような人間は，ボートを揺ぶるような愚かな輩と同様である。乗馬用として価値ある馬はどれでも，四六時中危険なものであるが，馬を信用したその瞬間に，人の生命は全く危険に陥るのであると。

又，馬の賢さについていろいろ言われてきた感傷的な馬鹿話は全く驚くほどである。カウボーイと彼の愛馬のロマンチックな関係は多くの馬鹿気た作り話や映画の主題となつている。これらのものには次のようなことは省いてある——。

この忠実な筈の馬が夜になると繋ぎ杭を引き抜いて逃げてしまい，後に残されたカウボーイはハイヒールの長靴をひきずりながら，20哩も歩かねばならないこと。スモーキーとかシルヴアーとかオールドペイントとかいう名馬が，5寸にも足りない鼻にひどく驚いて足をすべらせひつくり返つて，我等の英雄カウボーイの足を挫かせた揚句逃げ失せてしまうこと。またオールドペイントが半哩はなれたところに立ち止つて草を食んでいるところへカウボーイが跛をひきひき悲し気な声で彼の忠実なる馬を呼びかけながら追いかけて行つて見ると，その4本脚の相棒は50碼まで近づいたとたん，さつさと逃げて行つてしまうことなど。否，馬と人の関係は不承不承に仂く奴隷とその主人の関係と大差ないのである。

いま，スポーツとして乗馬をやつている人達は，何か武者修業といつたようなある曖昧なことに浸り込んでいるのではないかと思う。彼等は鞍にまたがると，あたかも英雄になつたような気になるのではないか。いや，それもお好みとあれば一向差支えないことであろう。だが馬に乗るくらいなら，両脚をダイナマイトで吹き飛ばす方が遙かに安全というものである。とデーヴイスは言うのである。

しかしながら，デーヴイスがいうように，馬が時代錯誤のシロモノであり馬を信用したその瞬間生命まで

危険に陥つたり，馬に乗るくらいなら両脚をダイナマイトで吹き飛ばす方が遙かに安全かとうか，私の言い分も聞いて貰いたい。

私は少しばかりの経験ながら，馬が記憶力に富んでいるという事をよく知つている。そして理解力は遅く唯昔の憶い出だけを追うロマンチストだという事を。

繋ぎ杭を引き抜いて逃げてしまつた馬は，過去に於ける繋ぎ杭は抜けるものだという彼の記憶によるものである。始めに頑丈な繋ぎ杭に繋いで，どんなにしても逃げられないようにしておけば，繋がれたらもう逃げようなどとは思うまい。綱をほどいて逃げようという理解力は持ち合せがないからである。

デーヴイスは自分の過失――独断をして瞬間的に馬を信用したための――から度々怪我をしたというけれども，私は彼の不注意を指摘したい。暗闇で突然ピストルをつきつけるような或種の人間より，馬はもつと紳士的であり，腹の中ではどうあろうとも礼儀だけは辨えている人間よりも，もつと正直であるからである。

何故なら馬は耳，眼，鼻其の他動作で自分の意志をあらわすものである。

頸を低く下げて頭を前に突出し，耳をずつと後へ倒し，後肢をピクピクとさせたり，或は背を張り，尻尾や後肢を寄せて近寄れば蹴らうとし，又咬みつくような動作を現わす。こんな時は不平，悪意を持つ時の表情である。

耳をピクピクとしかも無暗に右左へ向け，又は右左方向を違えて動かしたり，時としてからだの皮膚迄ブルブル震わせていることがある。眼はあちこち定まらぬ方向に動き，鼻も開いて各方面を嗅ぐようにして，止つていてもジツと静かにしておらず，歩いているときは歩調を乱したりすることがある。こんな時は不安の状態を示しているのである。

馬だつて愉快なことがあれば，矢張り笑いもする。鼻端や上唇を上の方にまくりあげて歯銀を出して上を向く。声は出さないが，これを笑うと言つている。兎に角嬉しい表情である。背上の暴君を振り落したら大いに笑うにちがいない。

蹴るとか，咬むとかは，元来馬が他からの迫害に処する防禦手段であつて，悪意から出たものではない。林檎や砂糖をもらつても，平生苛酷な取扱をうけていたとしたら，馬の鋭敏な記憶力には時たまの御馳走など有難い筈もなく，時には反逆もこゝろみたくなるだろうと同情出来るのである。

映画にあつた「不思議な少年」に限つたことでなく馬の扱いや仕込むことの上手な人は，馬と話が出来ると言つている。これは馬のいろいろな表情を察して，馬の意志を知ることである。はやく馬の意志を知つて之に応じて馬を扱い仕込むから馬と人の親和が出来，馬の服従が得られるのである。仮りに馬の反抗があつても速かに之を察知して，未然に之を制するところに名人上手があるのである。人が耳，眼，鼻及び其の動作にあらわれる馬の意志によく注意すれば，言葉のない馬の話が聞かれるのである。

不意の反逆とか，不注意による怪我は，馬に乗るものにとつて衆人環視の中の落馬よりもつとはずべきことゝ思うのである。

スピードとスリルとハーモニーと，そしてリズムが揃つていれば，人間の嗜好に合わないことはない。

山路，野原，川，そんな所を力一杯馬を走らせて御覧なさい。山の斜面の立木を縫つてスキーのように馳けおりたり，灌木の繁みを跳び越えたり，川の中を突切つたりすれば尚更のこと，スピードとスリルを満喫することうたがいない。

馬に乗る人達の間に「良馬は美馬なり」という言葉がある。このことは血種のすゝんだ良い馬というものは，調和のとれた美しい馬であるということである。美しい馬は良い馬であるともいえる。むづかしい「ゼッテガスト」氏の併行方形説を今こゝで説こうとは思わないが，良馬の姿こそ絵だと私は思う。

馬にリズムなんかあろう筈はないと。どういたしまして，速歩のあの歩音は四分の二拍子，駈歩のあの歩音は四分の三拍子。

こんなに三拍子も四拍子もそろつた乗馬がスポーツとして騎乗者にも見物人にも面白くなかろう筈はない。決して武者修業とか，金の拍車の騎手を夢みての馬乗りではない。私はダイナマイトで両脚をフツ飛ばすのは嫌だ。スピードとスリルを楽しみたい。

狩猟として旅行用として馬が重要な交通機関であつた時代のように，馬を下駄がわりに乗り廻わすのならいざしらず，馬術となると馬の服従がなければ鞍上に人なく鞍下に馬なしといつた馬術の醍醐味には浸れない。馬術をやり，馬術を馬に調教すれば，デーヴイスの言う四六時中生命の危険を心配する必要は毛頭ない。何故なら親和と服従があつてこそ馬術があるからである。

昔なつかしいジンタの声，その音につれて首をふつては客を呼ぶサーカスの馬，あの可憐な馬も一たび舞台に立てば人気役者としていろいろな芸をする。

舞台を円形に疾走している。傍からあらわれた青いズボンにエナメルの長靴，赤いマフラーの紳士が姿もよろしく銃声一発，すると件の馬は3本脚で走り出す又更に銃声！発，馬はコロリと横に寝る，あたかも弾が命中したように。

成程，これも人の命令と馬の服従がなければ出来そうもない。それならこれも馬術？　私は否と答える。これは合図であり馬術ではない。何故なら，最初の銃声では3本脚で走らなければならない裡脚を引ン叩かれ，叩かれ叩かれ教えられ，次の銃声で綱で引き倒され引き倒されて教えられた親和も何もあつたものではない芸当だからである。

私がかつて乗つていた5才の栗毛馬は，私が上半身の体重を横に移すことによつて左にも右にも横に歩いたりした。このことは，はたでみれば極く簡単に見えるかも知れないが，これは馬が騎手との平衡を得ようとして横に歩くのであつて，それには服従とか，命令とかを超越した人馬一体の妙味があるのである。これが段々高等馬術になると，ピヤフエ，パツサージ，駈歩の歩毎変換，信地駈歩，後退駈歩等々になるのであるが，この人馬一体の妙味の中には生命の危険もなければ，反逆もない。馬は唯，嬉々として騎手の思う通りに懸命に動くのである。

いやいや，私は議論するつもりではなかつた。私は馬は人が乗るように出来ているとの本論にかえらう。

象のように馬鹿に大きくもなく，5尺2，3寸の背丈といゝ，肩から尻にかけてのあの滑かな背の凹みといゝ牛のように背骨が飛び出たり，腹がふくれているのでなく，筒のような腹といゝ，全く鞍を置けといわんばかりである。馬の肢が鹿のように細かつたり，豚のように短かいのでは，人を乗せてあれだけの速さで走れまい。あれだけの速さで走るのなら猪のような短かい首では困まるし，キリンのような長い首でも困まる。

而も轡鎖をかけられるような頭凹といゝ，銜受（下顎の犬歯から第一臼歯に至る部分）のあることは銜身をかけるようにした天の配剤にちがいない。

たてがみは？　騎手が落馬しないように摑むために出来ている。　昭和28年3月5日　（東京事務所）

音樂雜感（其の二）



池田信夫

最近の若い人々の，音楽熱というものは，非常なもので，これは戦後の日本の新しい現象のうちでも最も際立つたものの一つの様です。無論戦前に於ても，特定の人々の間に於ては，非常に盛んであり，純音楽をよく理解する点は，日本人もかなりなものでした。しかしこれはなんと言つても，ある限られた人々の間にしか，みうけられなかつたものです。

ところが最近の音楽熱は，まつたく広範囲にひろまり，就学前の幼児がどんどんピアノやヴアイオリンを専門家のように演奏したり，又小学校，中学校に於ては非常に多数の者が楽器を演奏して居り，家庭に於ても，今まで音楽などあまり聴いた事もないような人々が，その子供さんには何か楽器を習わせようと，一生懸命になつて居られます。こうした現象は，或は一種の流行のようにも見うけられますが，しかしなんとゆつても，音楽熱が老若男女をとわず，盛んになつて居ればこそだと思います。そしてラジオに於ける，毎日の純音楽放送の数多い事，そして大新聞社が，競つて多数の世界的演奏家の招聘を行つて居る等々からしても，如何に音楽熱が盛んだかが，うかがわれます。社誌5号に音楽雑感を書きました処，もう少し続けてくれとの声もあり又地方の方から便りまで頂いて居りますので，社誌の性格からしても，少しでも要望のあるものを書く事もよい事と思い，又少しく書いてみたいと思います。無論音楽雑誌でもなく，又読まれる方も特定の方と限りませんので，音楽の理論とか，むずかしい事を書くつもりではなく，さつぱり音楽なぞ分らぬ，と言つて，あまり聴かれない方も，少しずつ音楽を聴かれるようになつて戴きたく又音楽を愛好される方々には，真に音楽を味わい得る，音楽好きになつて戴きたいと言う気持で書きたいと思います。

～　～　～　～

音楽はさつぱり分らないとか，音楽は嫌いだ，と言う事はよく聞く事ですが，さつぱり分らないと言う人は，だんだんに分かるようになつて戴ければよいので

すし又その方法もありますが，いきなり「嫌いだ」と言うのは困つたものです。しかし嫌いだと言われても音楽全部を指して，嫌いだと言われて居るのではないと思うのです。ちようどラジオでベートーベンやブラームスの大交響曲が演奏されて居るときに，ああやかましい，已は音楽など嫌いだから，スイツチを切つてくれ，と顔をしかめて言われるというような場合に言われる「嫌いだ」ではないでしようか。ですからそのように嫌いな人でも，外に出て，旨いコーヒーでも飲みながら，話合つて居る時，静かに聞えてくる美しい音楽を必ずや，悪い気持では聴かれないと思います。

そもそも楽器は，その音自身が已に人の耳に愉快に響くものです。絃の音にしても，管の音にしても，或いはピアノにしても，その音は，みな美しい音であり綺麗な音でもあり，気持のいい音です。決して人に悪い気持を起させる様な音ではないでしよう。どんな下手に，ヴアイオリンの絃を弾いても，それが実際鋸の目立の音と同じ様に聞える事はあり得ませんし，又どのようにピアノを弾いても，ピアノである以上，それから鉄槌で板を叩く様な音の出る事はあり得ません。たしかに楽器の音自身は，人の耳には，愉快に響くものです。ちようど砂糖は菓子に造つても，またはそのままでなめても，とにかく甘い事には変りはない様なものでしよう。そして砂糖の甘味は誰の舌にも，気もちのいい味であります。砂糖の甘味には，身ぶるいがするような悪感を覚えるという人は，その人の神経の方が少し変つて居るのでしよう。この様に，管絃やピアノの音は，音自身が已に誰の耳にも綺麗なものです。もしピアノの音を聴くのは，工場の鉄槌の音を聴くように不愉快だ，という人があるならば，それはやはり，そういう人の神経の方がおかしい事になります。ですから，音楽が好きだ，嫌いだと言うのは，それは或る人は餅菓子が好きだ，或る人は煎餅が好きだという事に相当するもので，その中の砂糖が嫌いだ，というのではないと思います。音楽の音自身は，つまり砂糖のようなもので，誰にでも或る程度のいい気持は与えるものと思います。砂糖を加工して餅菓子にしたり，煎餅にしたりすると，人によつて多少の好き嫌いが出てくるものです。そしてそうなると，ただの甘味という事だけではすまなくなります。しかし砂糖を少しなめるのならば，誰からも別に苦情は出ないと思います。

家庭でラジオを通して，音楽を聴く場合でも，むずかしい曲を長い時間聴くのではなく，ほんの僅かな時間，美しい楽しい音楽を聞く場合，誰からも苦情は出ないものと考えます。もし喧しい，という様な苦情が出るならば，それはそお言う人が，今肝心な考え事をして居るとか，勉強中だからで，決して音楽の罪ではないと思います。ですから，頭から音楽は嫌いだ，と言う方でもやはりこの様に考える時，何もかも嫌いではないのですから，時々は美しい音楽に耳を傾ける機会を作つていただきたいものです。

～ ～ ～ ～

音楽は元来好きなのだが，どうもさつぱりわからない，と言う方が沢山居ります。そして又よく「音楽が一遍に解るように成る本は無いか」という質問も受けるものですが一寸返事にも困ります。と言うのは，音楽が解る解らないは感覚の問題であつて，知識の問題では無いのですから，いくら音楽に関する理論の本などを読んで，理論の方面は解るように成つたところで感覚が鈍かつたならば，真に音楽の力を感じて，それに酔わされるという事は出来ません。

音楽というものは最も高遠な芸術なのです。そして音楽は世の中で一番むずかしい芸術だとさえ言う人があります。ですから非常に学識のある人が，音楽だけは，どうしても自分には解らない，と言われる場合もあるのです。

ところが，これと反対に，何等の特別の教育が無くとも，音の美しさを聞いて居るうちは，我れを忘れる事の出来る人がいくらもあります。ですから或る点まで，音楽が解る解らないという事は，天性によるものと言つても差支えないくらいです。私はここに音楽好きの人々即ち音楽を解る天性を持つて居る人々が，どうしたなら一層深く音楽を理解する事が出来，且つ正しく鑑賞する事が出来るだろうか，と言う事を取り上げてみたいと思います。

音楽を鑑賞するには，格別自分自身楽器を演奏する事が出来る必要はありません。けれども，唯聴くだけで音楽に対する理解力や鑑賞力を進歩させる事は，仲々むずかしいと思います。それ故私は，音楽好きの人々が，何か自分でも楽器を習う事をおすすめしたいのです。しかし楽器を習う事は，なかなかの事で，種々の条件もあるのでしようし，又自分でやる事には，あまり興味の持てない人もありますので，私はやはりここでは理想としては，と付け加えたいと思います。私自身楽器を習いましたが，楽器を習うと言う事は，いろいろの曲を研究する上に便利なばかりでなく，楽器を演奏するという事の如何にむずかしいかを知る上にもいいものです。それからまた，自分の習つて居る楽器が名人に依つて演奏されるのを聴く時，人一倍の興味を感じ得るのは勿論として，自分の習つた事のない楽器の演奏に対しても，大概そのむずかしさの程度が想像されるので，同情することが出来，また批判する事が出来ます。

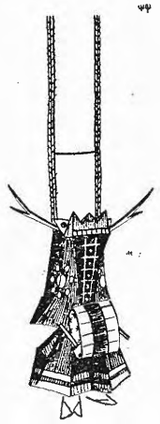
無論楽器ばかりでなく，私は歌う事をもおすすめしたいのです。専門に稽古する人は別として，普通の人は，調子を外さずに歌う事さえ練習すればよいと思います。この調子を外さないという事が仲々困難な事で専門家の連中でも，よく外すものなのです。歌うという事は，一体愉快な事ですし，それに音程に関する観念を確かにする上にも多くの効果があるものです。

音楽好きの人々は，私が特にすすめなくとも演奏会には行かれる事と思います。さて，では演奏を聞く場合，どうすれば一番理想的に演奏を聴く事が出来るのか，という事もよく聞かれる事です。演奏会え行きますと，よく学生さん達の内によく見うけられるのですが，演奏される曲の楽譜を持つて行つて，譜面を見ながら聴いて居る人がありますが，特に自分の習つて居る曲だという場合は，大変参考になると思いますが，さもなくばかえつて頭が二方面に仂くため，演奏から得る感銘を，薄いものにする虞れもあり，大して利益はないと思います。やはり一番理想的と思われる事は演奏会前に，演奏される曲を見るなり，自分で試みて，それがどのようなものであるかを呑み込んだ上，聴きに行くのが一番よいのではないかと思います。しかしまあ，多くの場合知つて居られる曲を聴かれるという場合が多いのではないかと思いますので，そう気にして行かれる事は決してないと思います。

色々楽器を手がけて見るとか(楽譜にしたしむとか)演奏会の事などを申しましたが，もう一ツ大事な事は音楽に関する書物を読む事です。ベエトオヴエンの音楽は，ベエトオヴエンがどんな人間で，またどんな生活をしたか，知らない人々をも感動させます。偉大な芸術は皆，理屈なしに人を感動させます。けれども一例をベエトオヴエンにとつて見れば，彼が如何に烈しい苦悩と闘いながらも，其の意志の力に依つて，遂に英雄として一生を終つたかを知つたならば，其の芸術から，一層強い感銘を受ける事が出来ると思うのです。或る曲を聴く時，其の作曲家の生涯や気質を知つて居るという事は，甚だ理解をたすけるものです。専門家と云えども，たゞ技巧上の方面ばかりに，はしつてはならない事だと思います。

—19533.3.1—(社長室人事係長)

斎藤茂吉



菅雄吉

歌壇の長老斎藤茂吉翁が去る2月25日亡くなつた。明治，大正，昭和3代に亘る歌壇の耆宿であり，その声望は一世を圧していた。昨年は国民祝典歌を作り，その難解な万葉調に依つて世人を当惑させたが，この歌人の終始思うまゝに生きた生涯の終りを飾るにふさわしい愉快な出来事であつた。

私は一度お目にかゝつたことがある。昭和22年の秋頃であつたかと思う。或る用件で東京の世田谷区代田の令息茂太氏の医院にお訪ねした。医院と云つても郊外の住宅地にある小さい町医者風の医院で，看板には内科医として令息の名が掲げられ，終りの方に精神科医斎藤茂吉の名がつけ足しのように小さく書かれていた。思うに敗戦と戦災による打撃のため郷里の山形県大石田に疎開されていた茂吉翁が，漸く上京して令息の許に身を寄せ，第一線を退いた後の仕事として令息の手伝いをしていられたものであろう。

私は案内を乞うて出て来た老婦人に茂吉先生にお目にかゝりたい旨を告げ，精神科の患者として診察を受ける為ではない事を附言した。玄関脇の小さい室に通されたが，診察室のようでもあり，書斎のようでもあつた。然し壁際にある本棚には戦後に出版された粗末な本ばかり淋しく並んでいた。古典学者として愛蔵していた多くの貴重な書物は戦災によつて灰となり，今はこの様な粗末な本のみとなつてしまつたのである。

先生はドテラのような質素な着物で出て来られた。顔は白い鬚で蔽われ，頭は禿げ上つて，全く東北の老農のような印象であつた。話すと山形なまりの言葉で割合に元気よく話されたが，その東北弁には少し意外な気がした。それはアララギ派短歌の総帥として言葉の一つ一つに神経を集め，万葉学者とて言葉の音韻に深く通じている先生が，強い東北なまりで平気で話さ

れることが何か矛盾しているように思えたからである。今にして思えばこうした矛盾した感じは，茂吉全人格の象徴であつた。然しこれは東北人である私には殊に親しみを感ぜられたし，山村の炉端に坐つていた方が似合わしい白髪のお顔には東北弁の方がぴつたり来る。私が貴重な沢山の御本を焼かれてしまつて，さぞ残念でしようと言うと，咄々として「全く惜しくて惜しくて夢にまで見るよ」と言われた。その時如何にも残念そうにしよげていられたが，先生の東北人らしい素朴な気持が素直にあらわれ，胸を打たれるところがあつた。精神医学の権威として，又歌人，古典学者として一世を圧する斎藤茂吉という人は，会つてみればまことに親しみ深い老翁であつた。その多くの歌に関する論争，太田水穂氏らとの，激しい，相手を徹底的に論破せずんばやまぬ火のような気魄はどこにあるのであろうか。戦争中の熱をこめた多くの歌はこの歌人の愛国的熱情を示して余りあるが，敗戦によりその落胆がどんなに深刻であつたか，想像出来る。あの穏やかな表情は山形の山村で，過ぎ去つた激情を回顧し時代の変化を超えて自然と人生えの深い観照に撤して得られた結果ではなかろうか。実際戦時中の，殊に開戦当時の歌は人麿風の雄大で劇的な趣に満ちている。

たたかひは始まりたりといふこえを聞
けばすなはち勝のとどろき
たぎりたる炎をつゝみ堪へしのびこら
へ忍びしこの国民ぞ
たちまちに海に陸に敵ほふる皇御軍は
神ながらならし
高ひかる大詔勅かしこみて全けき力さ
さげたるのみ
この部屋にたちてもゐても身ぶるひす
わがまさらをは神にあらじか

この「敵」の説く民主々義の洗礼を受けた今日の我々には，これらの歌は何か遠い昔の悪夢を思い出すような虚しさを感じさせるが，この老歌人のこの熱情を疑うことは出来ないし，誰が笑うことが出来よう。これらの気持に嘘いつわりはなく，戦後茂吉翁も別に否定はしなかつたようだ。政治家や思想家などゝ言われる人々が，戦時中激しいことを言つたり為たりしながら，戦後口を拭つて知らぬ顔をするような真似は，この歌人には出来なかつたのであろう。

終戦後山形県で作つた数々の歌は，悲しみに堪え抜いて生きた老歌人の沈潜した心境をうかゞうに足る佳什ばかりで，国破れて山河ありの，静かに勤ぜざる山河をさながらに思わせる心境である。疑いもなく，千年を伝え続けた日本文学の伝統をこゝに見る。

たたかひにやぶれし国の山川を今日
ふりさくと人に知らゆな
沈黙のわれに見よとぞ百房の黒き葡
萄に雨ふりそそぐ
空ひくく疾風ふきすぎしあかときに
寂しくもわが心ゆらぐろ
あかがねの色になりたるはげあたま
かくの如くに生きのこりけり
をやみなく雪ふるときはわが身内し
づかになりぬこのしづかさよ
貧しきが幾軒か富みて戦をとほりこ
したるこの村の雪
ほそほそとなれる生よ雪ふかき河の
ほとりにおのれ息はく
幻のごとくに病みてありふればここ
の夜空を雁がかえりゆく
蛍火をひとつ見いでて目守りしがい
ざ帰りなむ老の臥処に

私はこの老歌人に20分ほどお目にかゝつて早々に退去したが，どんな会話を交したのやら今となつては殆んど覚えていない。その親しみやすい童顔と咄々たる東北弁とを強く印象づけられて帰つた。生垣や板塀の多い住宅地の細い道を帰りながら，輝くばかりの業績をなしとげた老大家の，静かな旅路の終りを思つたのである。

茂吉翁は明治15年山形県南村山郡堀田村大字金瓶に生れた。蔵王を望む景勝の地である。15才の時上京してから50年間故郷と別れたのであるが，その一生を通じて大きな特色となつた，東北人的に執拗なまでの探究心や一徹な真面目さは，その蔵王山麓での生長と深い関係があると思われる。私は短歌は作れないし，歌の良し悪しもよく分らぬ者であるが，茂吉の歌の単純な美しさは好ましいものに思つていた。更に最近彼の全集が出るに及んで，その随筆や歌論などに接し，少しの粉飾もない文章が，何とも言いようのない美しさを持つている事を知つた。恐らく彼の尊敬して止まなかつた森鷗外の影響であろうと思われる淡々たる文章は茂吉の特色である真面目さとよく照応して独特の名文となつて居り，飾らない表現はよく茂吉の性行を示している。彼の欧洲紀行の中から抜き書きしてみる。

仏蘭西から英吉利に渡り，英吉利から和蘭，独逸，瑞西とまわつて伊太利のミラノへ来た。ミラノに来たのは僕は二度目である。さうして歩いてゐるうちに妻はいつのまにか懐姙してゐた。僕はミラノでレオナルド・ダ・ヴインチー派の絵画をもう一遍見直さうとして，旅疲のしてゐる妻を引張りまわしながら丸3日を過した。妻は美術館などに入つても，絵画などはどうでもいゝといふような顔付をして茫然としてゐることが多かつた。けれども僕はそんな事にはかまつてゐられないような気がして精を出して見て歩いた。

10月2日にミラノを立つてヴエネチアに向つた。仏蘭西を出てからもはや2月ほどになつた。汽車は急行で，東方へ向つて驀地に走つてゐる。しばらくの間無言でゐた妻は，その時何の前置もなしに僕にむいた。そして二人はこういふ会話をした。

「日本の梅干ねえ」
「何だ」
「おいしいわねえ」

会話はそのまゝ途切れてしまつたけれども，僕はその時今までに経験しなかつた一つの感情を経験したのであつた。夫婦なんぞといふものは一生のうちに一度ぐらいは誰でもこういふ感情を経験するのかも知れぬ。或は運のいゝ夫婦はしじゆう経験してゐるのかも知れぬ。（後略）

以上はほんの一例に過ぎないけれども，少しの感傷を交えない科学者らしい文章の中に，抑えつけた詩人的情感がこめられて居り，読む人に無限の味わいを与えるのである。科学者であるから，文章の中に余分な形容詞などを入れないであろうが，歌の修練の間に体得した言葉に対する厳しい鑑識眼が言葉を一つ一つ撰択せしめる。そして表現せんとする内容は赤熱の情熱となつて，内にたぎつているのである。その情熱が時を得て噴出するのが，論敵との論争となり，また数々の歌となつて世人を瞠目せしめたのであろう。歌人太田水穂氏や三井甲之氏らとの歌論の激しさは，今なお語り草となつて居るし，有名な「赤光」の母の死に際して作つた。

死に近き母が額を撫りつつ涙ながれて
居たりけるかな
母が目をしまし離れ来て目守りたりあ
な悲しもよ蚕のねむり
我が母よ死にたまひゆく我が母よ我を
生まし乳足らひし母よ

などの連作はその激しい情熱を示している。内村祐之博士によると，茂吉翁のドイツ留学中寒いミュンヘンの下宿で，頭がのぼせるからといつてストーブを焚かせず，小さい足あぶり一つで済ませたという話であるが，いずれにせよ人並以上の情熱家であつた。

こうした人並以上の情熱は天性のものであろう。確かに天才的な力倆の所有者である。けれどもその作歌に当つては，何の苦もなくいわゆる啄唾珠を成すという具合に作つたものではないらしい。誰かゞ，茂吉はテニヲハ一つに，頭を机にこすりつけて苦吟する，と言つているように，その骨を削るような苦吟によつて出来上つたものであり，発表してからも尚機会ある毎に直したり作り替えたりしているのである。何の苦もなく出来上つている如き外見の底にはかゝる苦心がひそんでいる。まことに天才は努力の集積である。

この精力的な努力は，作歌ばかりでなく，歌の研究や考証に最もよく発揮されている。その態度は科学者としての実証的精神に貫かれた帰納的方法とでもいうべきもので，これを精密方法と言う人もある。殊に大著「柿本人麿」全五巻に於ける方法は全くこれである。例えば有名なしもののふの八十うぢ河の網代木にいさよふ波のゆくへ知らずもの評釈を見ると，この歌の作られた時と場所を説き，言葉の一つ一つの解明と評価並びに出典を示し，契沖，真淵．子規等の説を紹介し，西村真次，折口信夫等の経済史的，民俗学的研究を渉猟して，荷田春満以下十数人の所説を参照している。人麿の数多い長歌，短歌を全てこの方法で評釈し人麿の時代を背景として描きつゝこの不世出の歌聖を浮彫りにしたこの大著は，国文学史上後世に残るべき作であろう。

この精密な科学的方法は，その後発展して斎藤茂吉独特の方法となつた。「万葉秀歌」という小冊子は大そう普及した本だが，あの中に於ける一首毎に挙げてある類歌の羅列は大変な仕事であつて，従来の歌人等も企てなかつたことである。而もそれが単なる羅列ではなくして，あくまで主題となつた秀歌を深く鑑賞するための手引となるような仕組になつている。これはそれらの類歌を一つ一つ評価して行つて，一首の秀歌を決定するという帰納的な方法の結果であつて，科学的実証的精神の賜である。短歌に斯くの如き方法を採入れたことは何といつても，医学博士斎藤茂吉にして成し得たことであり，彼を以つて嚆矢とすると言つてよいであろう。科学と詩魂のいみじき融合，これが彼をして独歩の人たらしめたのである。

扇畑先生は河北新報紙上で彼を讃えて東北の特殊性のゆえに普遍的な高さに到達せられたと言われたが，まことに東北人の優れた性格が彼の人格の中で大きな作用をなし，この巨人を成長せしめたものである。



創　作

ゆ　き　ず　り

稲　野　　澄

冷めたい風に追われるように，足は何時か病院に向つていた。押し馴れた扉を開くと，恭子は半ば予期していた眼で竜助を迎えた。喜び以上の馴れがもうどこかにあつた。

「又来たよ」

同室の乳癌だと言う45，6のミスも，その付添いの人の好さそうなおかみさんも別段殊更らしい面持ちも見せず笑顔で挨拶した切りだつたが，竜介は照れ隠しのようにそんな事を言つた。

恭子は唯眼でうなずいたゞけで，

「その抽出しにリンゴがあるわ」

とほゝえんだ。

日増しに恢復して行く頬の色であつたが，矢張りどこか病み上りの弱々しさが漂つていた。

竜介がこの病室を訪れたのは，これで4度目になる。街で画描き仲間の1人から，恭子が盲腸の手術で入院している。と訊いた時，竜介はわざわざ見舞つてみる気など少しもなかつた。

恭子は竜介が1年ばかり講師をしていた事のある高校の卒業生で，いはゞ竜介の教え子と言う形になつていたが，学校を卒えて竜介の行つている美術研究所のメンバーになつてからは，何時か講師と生徒と言つた感情は薄れて，仲間同志の口をきくようになつていた。

画を描いたりする女の子によくある。服装や髪かたちを構わないと言つたタイプでなく．平凡なカラカラとした開けッ放しの気性で竜介とよく冗談口を叩き合つていた。時には「ネ，先生」等と竜介をからかつて，研究所では大きくなり過ぎた生徒でしかない竜介は，「コイツ」とコブシを振上げてなぐる真似をしたりする。

そんな親しみはあつても，無精な性格の竜介が自分から尋ねて来たりする筈がないのは，恭子にも判つていたらしく，最初に姿を見せた時には信じられないような瞠いた瞳で，不思議そうに竜介の顔をみつめていたほどであつた。付添いの姉だと言う人が，くどくどと挨拶するのに閉口しながら，それでも竜介は30分近くもそこに居た。

元気な時と違つた，組りつきたげな様子が恭子にはあつて，竜介は思わず「又明日来るよ」と約束した。

竜介は約束を守つた。

それどころか，その次の日にも退社後の当のない時間を誘われるように恭子を訪れていた。

「R病院の2階だ，行つてやれよ」

聞き捨てたつもりの言葉がどこかに引掛つていて，番号もロクに聞かずにしまつた恭子の部屋を探して見る気になつた原因を，竜介はふと思い返してみた。

喫茶店ミリラ〃で，沢木裕子を紹介されたのは10日ほど前のことであつた。

紹介とは言つても，裕子は，偶然来あわせたから仕方なく挨拶する，と言つた調子で，「どうぞ宜しく」と軽く身をかがめたゞけで，煩はしげな表情を隠そうともしなかつた。妙に取澄ました態度が，我儘育ちのお嬢様らしく，竜介はひそかに心の中で「苦が手だな」と苦笑していた。

連れだつて入つて来た従姉妹（いとこ）は何時もながらの呑気者らしく，紹介しとけば話ぐらいはするでせう。と言はんばかりに立つた儘あれこれとレコードを撰んでいた。

裕子は明らかに思い掛けない初対面の相手が表われたことに不機嫌になつていた。

何時もなら，誰かしら，長髪の画学生か神経質そうな文学青年が取巻いている筈のミリラ〃も，その日は珍らしくボックスががらあきで，竜介とあとから飛込んで来た2人の娘以外に人気はなかつた。

竜介は手持ち無沙汰な儘に煙草を咥えた。先刻見た裕子の表情が話かけるのに何となく気重さを感じさせて，2人はストーヴの傍に座つた切り一言も交さずに居た。

裕子は思い出したように黒い鞄を開くと，少しひしやげかゝつたミ光〃の箱を出して1本取つた。テーブルの端に軽く叩く手馴れた動作と，長く伸びた死人を連想させるほどすきとほつた手が，竜介の興味をひいた。

悪びれた風もなくマッチを擦る裕子のツンとした顔に竜介ははじめてまじまじと視線を注いだ。

陶器を思わせる血の気のない肌で，美貌とは言えないまでも，どこか心をひく陰翳があつた。

〝横顔の線は整つているな〃　そんな職業的な眼で観察している，無作法な竜介の視線を意識したらしく裕子はチラと竜介を見た。冷たい，うつかりすれば意地悪になりかねない目の色であつた。

「沢木さんも洋裁をやつているんですか」

竜介は何気なく訊いた。何時の間にか椅子に戻つていた従姉妹が，

「この人，お医者様よ」

と横から言葉をうばつた。

竜介は度胆を抜かれて「あゝ」と口の中で呟いた。

言われてみれば黒い折鞄など洋裁に通う娘の持つものではなかつたが，従姉妹（いとこ）と並んで入つて来たこのオシヤレな娘と結びついての医者と言う観念は，竜介の予期した範囲にはなかつた。裕子は余計な事を言う，と言いたげな素振りで横を向いた。何時も必要以上の好奇心を持たれつけている事に堪え難い嫌悪を覚えているらしい。狎れ狎れしい関心を拒否するエゴイスチックな潔癖を感じ取つて，竜介はさりげなく話題をそらした。

会話は2つに分れ易かつた。自分達が話をする間，黙然と煙草をふかしている竜介に気を使うらしく，裕子はコーヒーを煎りおえると早々に座を立ちそうな気配をみせた。暫く振りで逢つたのに，と従姉妹（いとこ）は何も感ぜぬらしい，いぶかしげな面持ちで裕子をおさえた。竜介はそのまゝ裕子を帰してしまうのは，自分に責任がありそうな気がして，

「よかつたら，もう少しいませんか」と声を持けた。

自分が先に立ちさえすれば済むものを，竜介は少しもそれに気附かなかつた。

結局3人が別れたのは10時近かつた。

竜介は何時か努めて気軽く話かけようと焦つていた。裕子の学生時代の下宿が，竜介の級友の家だと判つてから話の緒口がほぐれた。女達には甘い酒をあてがつて，竜介は幾杯かの盃をほした。警戒を解いたように打とけて伸び伸びと振舞う裕子には，最初の印象と異う楽しい魅力があつた。時折り先生と裕子を呼ぶ従姉妹（いとこ）の言葉が竜介には奇妙に思えてならなかつた。裕子が見せた冷たい高慢さは意識した武装なのだ，と竜介に思わせるほど，明るく屈託のない雰囲気で裕子は座を浮立たせた。育ちの良さを感じさせる人なつこさと甘いセンジュアルな声を彼女は持つていた。

竜介は興に乗つて2人を離さうとはしなかつた，人の立て混んで来たミリラ〃を出てから2軒ほど寄つて，竜介はブラブラとK町の近くまで裕子を送つて行つた。

「ここで結構です，今夜は楽しかつたわ，有難う，お休みなさい」

裕子は家の灯が見えるあたりで急に立止ると挨拶した。それ以上立入らせない何かがあつて，竜介は無理に送ろうとはせず「お休み」と言つた。

「さようなら」

立去つて行く裕子の後姿に追い縋るように竜介は大声で手を振つた。

「さようなら」2，3間ほど行きかけていた裕子がチラと振向いて応えた声が，雪もよいの空に甘やかな余韻をひびかせたのが，竜介の耳に何時までも残つた。

裕子の勤務先だ，と言う事が自分をR病院にひきつけている，とはつきり意識したくない気持も竜介にはあつた。それにしても，恭子の竜介を迎へる無邪気な喜びの表情が，何時からか待ちかねている風情に変つて来たのを竜介も気附かない訳ではなく，退社間近になると竜介の心にためらいが動く。恭子とこれ以上の親しさを増すのは，うつとうしく感じられはじめて来ていた。

いつぱしの画家になろうとする野望もなく，コツコツ勉強するのが物憂くなりかゝつて来た時期の竜介に，冬の研究所通いは随分なものだつた。独身者の気楽さには，きまつた時間に顔を見せなければならぬ相手もなかつた代り，夜までの幾時間かをもてあます。そして結局はフラリと病室の扉を叩いてしまうのを，竜介はひそかに屈辱を感じつゝ自分でも止める事が出来なかつた。

その日には竜介が部屋に入つて幾分もたゝぬうちに医師の廻診があつた。

噛りかけの林檎を持つて振返つた竜介にジロリと1瞥を呉れながら入つて来た。まだ若い医師は横になつた乳癌の患者の寝台に近づいて，看護婦の差出すピンセットを受取りながら恭子に顔を向けて声を持けた。

「大分元気そうになつたね」

立つている看護婦達の背後を通抜けて室外に出ようとした竜介の鼻を，1人が持つているメスの沈んでいる容器の消毒薬の臭いが襲つた。

R病院の屋上からは，市街が見渡せるときいてはいたが，竜介はまだ昇つた事はなかつた。昇降機が通つている四角な外壁を囲んで，階段は幾つも折れ曲りながら，ぐるぐると屋上まで続いていた。外壁の3方を廻り終えると次の階の病室が両翼のように連つている前に出る。そこでは昇降機の前を通り過ぎなければ次の段を昇られなかつた。4階，5階，6階。竜介は病

院の建物が嫌いだつた。薄暗い廊下や階段の壁にしみついた得体の知れない汚点が，汚物や血痕のように見え，無数の病源体がそこに触れた体や衣服のどこからでも感染して来そうな気がする。

だが此頃は見馴れた故かそれも気にならなくなり，1歩1歩昇つて行く階段の曲り角から，裕子が「あら」と華やいだ笑顔をみせそうな，ひそかな期待がどこかにあつた。

が，行きかう看護婦にまじつて学生らしい青年があわたゞしげに降りて来たゞけで，屋上に出る扉の前はガランとした人気の無さだつた。何時ついたのか裸電灯が1つ，熱つぽい空々しさでともり，戸外の淡い黄昏の色が，底つめたい感じで硝子越しに見えた。重くきしむ鉄の扉を押して出て見た屋上には，積つた雪の上に幾つかの足跡が，一度溶けかゝつた形の崩れた儘に凍りついて，外には新しい靴あとがなかつた。それが無人の寂びしさを殊更に竜介に感じさせた。高みから見る街々には，竜介の思いがけない美しさがあつた。屋上を吹く風が容赦ない冷たさで竜介のオーヴァ無しの体を打つた。木立の繁みの合間に，灯が目ざめたばかりの弱々しさで点々し，冬の冴え切つた空気に間の抜けた白さに見えた。竜介は吹き曝しに立つて4方を見廻していたが，首筋から入り込む風に身をすくめて内に入つた。

4階に降りたつて，何気なく角を曲らうとした竜介の眼前を横切つて，4，5人の白衣姿が昇降機に乗りこんで行つた。1番うしろから皆に続いて入ろうとしていた1人が竜介を認めて足を停めた。

「あら，先日はどうも……」

裕子だつた。先に入つて操作ハンドルを握つていた医員が，うたがうように裕子をみつめていた。

「ごめんなさい，急ぎますから，また……」

裕子は身をひるがへして昇降機に入つて行つた。竜介は突嗟に会釈しただけであつた。

2重になつた金属の扉が，しなやかに伸びた。閉じられた扉の組み合つた金属の間から，重つた白衣と裕子の顔が仄白く浮んだ。可視と不可触の2つの扉をへだてゝ，昇降機は1瞬，ためらうように宙に浮くと，すつと下降して行つた。後に立つた1人に，裕子が振向いて何か答えている姿を引つぱりこんで，昇降機が消え去つたあとの網扉に竜介は思わず近寄つて行つた。

それ等は眼前を擦過した1枚の絵に似ていた。絵の失われた薄暗い空間に，油で黒光りする鋼鉄の綱が生き物染みてするすると動いていた。

竜介は味気ない疲れた足取りで，自分の足音だけが高く響くコンクリートの段を降りて行つた。中世紀の陰鬱な城郭を思わせるしみのついた高い壁に竜介は意味のない敵意を感じた。

部屋に戻ると，恭子が弾んだ声で外へ出てみよう，とせがんだ。

「もういゝのか」

「いゝつて，歩く練習をしとかないと駄目だつて」

竜介は物憂い視線を噛りかけて置いた儘のリンゴに落した。

「出てみようか」

裕子は喜びに顔を輝かせた。

「一寸待つて，服着るから」

竜介はそれに背を向けて窓際に歩み寄つた。所狭く，七輪やバケツの並べられたそばにかゞんで，付添いのおかみさんが夕食の仕度をしていた。小肥りの割烹着姿の背を竜介は少時見おろしていた。

小さな柄つき鍋に，1人分の味噌汁が出来かけていた。豆腐を切り，三ツ葉を刻む包丁の色が鋭く光に反射して，竜介はほのぼのとした懐かしさを覚えた。狭い病室の片隅にいとなまれる毎日の生活から立ち籠める夕のにほいが，母の肌ざはりのように竜介を取巻いた。

窓の外の遠い灯がうるんでいた。生気が底を流れている。そんな脈搏を感じさせる黄昏の靄につゝまれながら，戸外のすべてが静かに呼吸していた。竜介は放心の無抵抗さでたゞずんでいた。

「お待ちどうさま。」

振り向くと裕子がスカーフで顔をつゝみながら立つていた。

灯はもう黄昏の色ではなかつた。外気の微光とうつらうつら交りかはしていた柔かいうるみは去つて，濃い闇の中で一つの光の圏内を守ろうとする，固い現実の色に変つていた。

階段を半ばほどおりた時恭子がよろめいた。竜介は無意識に片手を伸ばして崩れかゝつた体を支えた。

「すべつちやつた」竜介を見上げて照れた風に笑つた顔が，ひどく子供つぽかつた。

下り切るまで竜介は支えた腕を外さうとしなかつた。病んだあとらしい弱々しい体臭が恭子から感じられた。

階下について組んでいた腕をほどいた時，裕子はバツの悪そうな眼を合せてすぐそらした。

「どこへ行こう」

「どこでも」

いつにない恭子の素直さが，しみ入るようにこたえた。

雪どけの水の冷たさに似た和らぎであつた。

竜介は先に玄関へ歩き出していた。自分でも思いがけない大股であつた。取残された恭子が驚いた風で追つて来るのを出口で待ちながら，竜介は空をあをいだ。

冷たい唇の感触が魅へつたからである。裕子の唇の記憶であつた。従姉妹を送つてから，2人はゝ早道を行かうゞと暗い裏路を通り抜けた。足許が暗かつたせいか，裕子が何かに躓きかゝつてよろめいた。片手でそばの垣根の雪をつかんだが，その時も竜介は突嗟に裕子を支えていた。

たわむれのように触れた唇であつた。冷たく少さい生物の命に似て生きていた。裕子はしいてさからおうとはせず，竜介の胸に手をあてゝ身をひきながらポツンと言つた。

「酔つたのね」

自分の事なのか，竜介のことを言つたのか，どつちも受取れる言葉であつた。

恭子が寄り添うように竜介を見上げた。

「どうしたの？」

「いや，どこへ行かうかと思つて。」

「リラへ行つてみない？」

竜介は1，2歩あるき出しながら，

「そうだな，君もしばらく振りだからな，誰か来ているかも知れない。」

と見返つた。

裕子は楽しげに竜介の腕に手をかけ乍ら歩いた。

人々が濃い影のように行き交していた。

竜介は立ち止つて煙草をくわえた。ボツとマツチの火照りが恭子の瞳に映つて消えた。

竜介は何気ない輕さで恭子の腕をとつて歩き出した。恭子は安心したような吐息を一つ洩らすと近々と竜介に身を寄せた。

「もう病気なんかになるんぢやないよ，僕は病院が大嫌いなんだ。」

「あら，私だつて好きでなつたんぢやないわ，不可抗力よ。」

「何言つてやがるんだ，喰べ過ぎのくせに。」

「喰べるのなら竜介氏の方がずつとうわ手よ，お気をつけなさいね，手術つてとてもいや。」

街灯を浴びて裕子はファイと顔をしかめて見せた。

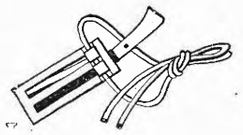
〝僕はもう病院には来ないよ，君も元気になつたんだからいゝだろう〟

言ひ掛かつた言葉を声には出さず，竜介は明るい街に出た時のさりげなさでおさえていた腕を離した。

当分ゞリラゞには行くまい。心に呟やきながら竜介は短かくなつた煙草を舗道に踏み消した。

（岩手支店）

仙岩峠物語



志和嘉兵工

秋もまだ半ばだというのに峠はもう木の葉が落ちて小徑を埋め，足が滑つて歩きにくくなつている。人の歩いた跡もない様だ。

今しがた山小屋を出た送電作業班の一行九名は，冷沼の傍を過ぎて国見峠の方へ歩いて行つた。

駒ケ嶽の頂上は真白くなつていて樹々の梢には残葉が風に淋しく震えている。

A　駒ケ嶽には二度も雪が降つたから国見温泉の親父さんも，そろそろ退散だね。

B　この寒いのに，露天風呂では，お客さんも敵わんからな。

重い荷物を背負つた一行は休むと得手勝手な話しに花をさかせ始めた。

C　此の工事も急がなければ吾々ばかり難儀するからな。嵐など来なければいいが。

D　大丈夫当分の間は天気が続くよ。冷沼の浮島が駒ケ嶽の方の岸にピッタリくつついているもの，

T　さあ，出発だ

朴訥な電工長のTさんが皆んなを励ましまして立上つた。

此の一行の背負つた荷物は保修材料の碍子やら電線やらでみな随分重そうだ。弁当箱が各々一個宛添え物の様に荷物の上にのつている。やがて仙岩峠を過ぎて国見峠に来た。ここは昔の南部領と秋田領の国境である。ふと見ると大きな石碑がぬつと立つている。

「是従北東盛岡領」

藩政時代のものだ。一歩踏出せば秋田県仙北郡生保内の町が遥か遠く見える。

一行は先ず近くにある鉄塔に，予定した碍子を配置した。そして更に送電線路ずたいに山の尾根に沿つた

急峻な道を降り始めた。「座頭ころばし」に差しかかつた時に白樺の樹の間からキラキラ光るものが見える。田沢湖だ。秋田美人の様に美しい。昨夜山小屋で主任のSさんから聞かせられたのは，あの田沢湖が，完全に近い円形で深さも，透明度も世界で二番目であるという事であつた。あのきれいな水で発電するのかと汗を拭いながら眺めているのだつた。

やがて材料の配置も進んでお昼近くやつと最後の鉄塔に辿りついてホツト一息，まずこれで一安心と枯草の上で弁当を開いた。ゴオーンゴオーンと爆破の音が聞えてくる。盛岡と大曲をつなぐ鉄道の工事場からであろうか。昼食を済まして一服している所え生保内発電所主任のKさんが若い者と二人連れで登つて来た。S主任の要請に応じて来たのだ。

T　御苦労さん，しばらくでした。

K　最後の御奉公に来ましたヨ。私はもう今年一杯で停年で退職しますからネ。此の山も今度登るのは最後でしようから。

T　Sさんは小屋で首を長くして待つてますヨ。

K　此の年寄りをですか。　ハヽハヽハヽハヽ

T　でも此の線路の生みの親はKさんだもの。

K　この線路のルートを選ぶ時にどうも失策だつたのですネ。雪の積る事ばかり苦にして風の強い事は考えなかつたので高い稜ばかり選んでどうも。

T　仕方がありませんね。十年も前だしスキーも誰も知らなかつたし，東北振興電力でも今度の測量では大いに参考になつたでしよう。

話し乍らKさんは今年で57才と思えぬ足どりで若い者と一緒に山小屋に登つて行つた。

この作業班が今朝山小屋を出発する時Yさんの班も亦霜柱を踏んでTさん達とは反対の「馬泣かせ」の方え歩いて行つた。この一行は建柱でもするのか，太いロープや滑車，さては穴掘道具など担いでいる。「馬泣かせ」という所は仙岩峠では第一の難所で橋場口から登りつめた所であつて，今迄駒ケ嶽颪のために二度も鉄柱が折れたのであつた。一行は今ここに着いたのである。昨日谷から引き揚げた三本の柱は霜でアイスキャンデーの様に真白くなつていた。これから残りの一本を谷から引き揚げるのだつた。

A　四本の柱を四本共谷に転げ落すなんてただの悪戯とは考えられないネ。

B　だからエスキモー人の悪戯だよ。

C　この前も山小屋に誰も居ない時二階の窓の鉄棒を抜いて中で喰い荒して逃げたのもエスキモー人だ。

D　小屋には備付けの米もあるし，味噌もそれから猫股ぎ（塩鱒のこと）もあるからいい気なものだつたろうヨ。

E　あゝ解つた解つた。この柱を谷に落しておいて今度出来るという駒ケ嶽温泉の材料に売る積りでやつたのだ。

B　生保内の町でも発電所工事に大勢来て居る奴等に荒されて困つているそうだ。エキスモー人に。

皆んながガヤガヤ話してる間に谷え降りて行つた者もある。

作業もYさんの指揮でどんどん進行していつた。

此日朝の一番で橋場駅に降りた盛岡からの応援隊は水害で橋も道も流された所を坂本川に沿うて午後1時頃，この山の名物である鷹にでもやられたらしい手負いの山兎を生捕りにして一行元気で到着した。

G　この兎を今晩煮て食うかな。

B　豚肉をどつさり持つて来たもの。いらないさ。土臭くて不味いもの。

I　可愛想だから俺は小屋に飼つておくよ。地下室にでも。

J　誰も居なくなる小屋にか。飼料はどうする。

I　雪が降ると駐在員が詰めるそうでないか。それ迄熊笹を一杯取つて入れておけばよいだろう。

こうして騒いでいる間に予定の工程を終えたのでYさんの班はこの応援隊と一緒になつて山小屋を指して帰るのであつた。

山小屋では釣瓶落しの秋陽に脅かされて飯焚の親父さんも忙しそうにゴタゴタしている。午後3時集合，予定通り全員が小屋に集つた。28名の人数である。窓越しに眺めて居た親父さんが

「28名だなんて泊れるだろうか。毛布だつて20枚しかないのに，こんな人数がこの寒いのになあ」

と独言して見ているのだつた。

暗くならないうちに外で立喰いする事になりその間に明日の作業の割振が定められた。

食事がすむともう暗くなりかけた。電工さん達は1人宛2階え上つて行つた。下ではストーブが燃えているので2階は案外暖かい。そのうちに下ではストーブを囲んで幹部会議が開かれた。主任のSさんはストーブに手をかざしながら，

「この線路の保修工事も去る6月から毎月1回の休む日を利用てしやつと明日完了する事になりましたが田沢や神代の発電工事も進んで居りこれに工事用電力を供給している建前からも明日の工事にこの冬を無事に越す様にしつかりやりたい。この事は特に技師長や課長からも命令されて来ました。」更に言葉を続けて

「この線路もあと1年たらずで撤去になりますヨ」

一同の者は宿命的な故障で永い事悩み続けて来たものだけあつて，淋しく感じられて気も滅入つてしまうのであつた。その時飯焚の親父さんが眠むそうな声で

「風呂は先刻から沸いて居ますよ。」

というたが誰も返事をしない。Sさんは

「では折角だから私が入りますかな」

言いながら壁に吊つてあつた小さなカンテラに火を点けて外に出た。沼のそばに置放しの鉄砲風呂は先刻まで口から火を出してもえていたのだがもう下火になつて静まりかえつていた。空には一面の星なのに沼はあくまで真黒く見えるのであつた。深山の夜の霊気がひしひしと身に泌み込んで恐しい程の静寂な夜である。この夏は獣声や怪鳥の声も聞えていたのでカンテラの光りで沼に映るのは我が姿と知りながら再び振り返つて見る事が出来ない。Sさんは急いで一風呂浴びて小屋に帰つた。間もなく親父さんが2階に上つて行つて下は老年のKさん，Sさん，Tさんの3人になつた。此の3人はストーブの囲りに転寝するのだつた。

S　僕は風呂が大好きだけど沼の風呂は薄気味悪くていけませんね。今晩は殊にぞつとしましたよ。此の冬は一ケ月交代で二人宛保線員が駐在する予定なんだが三人でないと淋しいですね。

K　Tさんの様な人だと一人でもやつてのけますかね。ハツハツハツハツ——時にTさんは奥さんを貰いましたか，あとの。

S　Tさんはまだ貰いませんよ。一周忌をすぎたのに死んだ奥さんを忘れ兼ねているからですよ。

K　あの時はTさんが出張してこの小屋に来た晩でしたね。

S　丈夫でいた人が急に亡くなつたので雫石変電所のK主任もあの時の電話の取次ぎがTさん直接なもんだから辛かつたというてましたよ。

T　皆さんに御迷惑をおかけしましたね。

S　僕が駅に迎えに出た時貴方はもう奥さんをあきらめて子供さんの事ばかり考えていた様だつた。

T　何しろ10才下り，5人でしたから。

K　一家の主婦に死なれるのは何より困る。私も十二の時母に死なれて，父はその後一生独りで通したがそれがかえつて悪かつたと思います。一家がその後鹿角に移つて私も鉱山に入りましたが辞めて秋田電業に入り，盛岡電灯会社と合併になり，今度辞めたら一家を盛岡にまとめますが今迄歩いて来た苦労を想えば亡くなつた母を恨みたくなりますよ。

と淋しく笑つた。

薄暗い石油ランプの下で沈んだ話ばかり続いた。Tさんはストーブの燃える音をききながら窓越に空の星を見ていた。想いは天国に旅立つた奥さんの事か，家に残して来た子供さんの事か，夜は次第に更けていつた。親父さんの枕許の目覚時計が12時を廻つた頃だつた。この小屋の灯を頼りに近ずいて来る四つの黒い影があつた。やがて小屋の入口に立つとその中の1人が

「御願い申します。今宵一夜のお宿を……」

何度もくり返して言つた。この不思議な口上にSさんは目を覚ました。声の主は内からの返事がないので戸に手をかけた。

「誰だ。入るのは……。」

Sさんが怒鳴つた。

黒い影はカヤカヤとつぶやいて去つて行つた。

「聞きましたか。Kさん」と隣に寝ていたKさんにSさんが声をかけた。

「聞いていましたよ。」

「気の毒だけど変な者に入られては寝られないからな。今におきなければならないのに。一体何者でしようか。」

Tさんもこの事を耳にしていた。そして若し今の人の中に子供でもいたら可愛想にと考えるのであつた。3人は又眠つてしまつた。

午前3時親父さんは2階から降りて来た。3人もおきて親父さんに何やかやと手伝つている内に夜も明け初めて来た。Sさんと Tさんはバケツを持つて水を汲みに外に出た。外はまだ薄暗い。冷沼の傍の小径をすぎて本道を横切るとたんに道を塞いで黒いものがうずくまつているのが見える。牛だ。さては夜中の主は牛追いであつたのか。谷からの帰りによく見る事にして二人は降りて行つた。清水を汲んで又登つて来たSさんとTさんは牛の寝ている所に近寄つてよく見ると牛と見たのは誤りで，汚い毛布，ヂ切れた外套，その中から一人の老人が起き上つて丁寧にお辞儀をした。

白髪長髯の老人は二人に向つて

「貴方様方は営林署のお方ですか。」

Sさんが答えて，

「否，電気会社です。寝ているのは貴方の御家族ですか。」

「へヽヽヽ，どうもすみません。」

「どこから来ましたか。」

「田沢の発電所の工事で居所がなくなつて青森県の三本木え行くところです。」

「御商売はなんですか。」

「皆さんのおかげで，ヘツヘツヘツヘツ。」

この一群は乞食であろうか。行者か。震えているのは白痴の様な大人の男女である。子供はいないので気の抜けた二人は老人をつれて小屋に戻つた。老人は鉄の小鍋を二ツ提げて今たいたばかりの飯を貰つて拝む様にして立去つた。Sさん，Tさんはこれでは人情劇の主人公になりそこなつた，というて笑うばかりであつた。それにつけてこの一行が何者であるかという謎は解けなかつた。

この工事が終つて皆が小屋に鍵をかけて去つた後幾日もたたずに仙岩峠は白雪の世界と化していつた。丈なす篠竹も雪に敷われて駒ケ嶽颪は吹き捲つて物凄い毎日が続いた。12月1日に保線員がスキーを履いて登つて来た。彼等元気な若者3人は山小屋に駐泊して毎日スキーで，線路の巡視をするのであつた。

昭和14年，この年は盛岡測候所開設されて以来まだかつてない記録破りの寒気が続いた。

標高一千米のこの峠は零下30度近くの寒さが1ケ月も続いた。

そうしているうちに春も訪れて来た。雪腐の春ではあるが陽ざしも長くなつて日中は雪がとけ始めた。

4月1日の交代日に，Tさんも一緒に登つて来た。冬は殊の外寒かつた故か，春は案外早くおとずれ，天候も心配された様でなく毎日の天気に目立つて雪が溶けていつた。或日馬泣かせをスキーで巡視して来たTさん達は毎日の様に滑つていた雪道に一つの小さい穴を発見した。不思議に思つて，中をのぞいて見たけれど暗くてよく見えないので穴の中を手で探つて見た。自転車のサドルに間違いなかつたので皆首をかしげて考え始めた。

「この山中に自転車とは不思議だね」

「一体誰がおいていつたのかな。」

「自転車だか何んだかはつきりしないのではないか」

「もつと雪が溶けると解決するよ待てまて。」とTさんが言うた。

それから数日後，それは紛う方もなく自転車であることが判明したのだつた。次いで間もなく，自転車のある所から，百米許りの地点に風呂敷に包んだ竹の行李がおいてあつた。中にはゴム風センの類が色々と入れてあつた。凍つて固くなつた握飯と二冊の本が別の風呂敷に包んであつた。一冊は英語の本，別の一冊は幾何の本で中学校の教科書の様であつた。

「行商人が置いて行つたと見えるネ。」

「行商しながら勉強していたらしい。」

「一体，御本人の二宮金次郎は何処え行つたろう。」

その翌日H君が，国見峠の近くでゴム長靴片方を見付けた。生保内口の降り口の窪地に人が死んでいるというて巡視に出たH君が戻つて来たのは，それから三日目の事であつた。「解つた。わかつた」と何度も云いながらTさんも一緒に小屋を出て行つた。上半身が雪に埋つて，両足だけあらわしている。片足はゴム長靴，片足は素肌，乗馬ズボンを身につけている様子である。小屋に引返したTさんは生保内発電所へ電話して警察へ届けて貰つた。翌日2人の巡査が登つて来た。雪を除けて見ると20才位の青年で，詰襟の薄手の服，眠つたままの顔，この哀れな姿に誰も無言で，見まもつた。巡査は内ポケットから紐付の布地の財布と数枚の小為替の控えが出て来た。山形県西村山郡○○村はこの青年の出生地であろうか。ああ不幸な青年よ，御身は何故に仙岩峠に来たのだ。馬も泣き淋む峠に来たのだ。力盡きた時山小屋に導く神もなかつたのかと，Tさんも皆もこの青年の死を悲しむのだつた。

数日後この青年の叔父なる人が登つて来た。その時はもう青年の顔は見る影もなく変つていた。Tさん達は山の火葬を初めて見たのだつた。Tさん達の協力と親切に叔父さんが何遍も礼を述べて青年の遺骨を抱いて山形の郷里に還つて行くのであつた。

Tさん達は合掌して見えなくなる迄見送つた。

Tさんもはや12月末日停年退職となりますので，Tさんの御不幸のあつた時，仕事が手につかないだろうから長く休ませろというて労つて呉れた当時の課長，係長へTさんに代つて御礼申し上げます。

（岩手支店盛岡営業所）

延線車について

口繪寫眞參照

盛岡仙台15万ボルト送電線工事には，数々の新らしい工法を用いているが，延線車もその一つである。鋼心アルミニューム撚線を架線する場合に，先づ考えなければならない事は，架線中に電線に損傷を与えない事である。これを完全に且つ容易に行う事を目的として製作されたものである。

即ち電線端に延線クランプを取付け之をメッセンジヤーワイヤーに接続し，70馬力程度の架線用エンジンを以て延線されるが，この場合電線に或る程度の張力を与えないと電線の自重により電線が弛み，地表上を擦り損傷を受けたり，水田の化学肥料，河川の毒水などにより腐蝕を生ずる事になる。張力を適当に保持する為には延線車のブレーキを適当に操作し，電線に一定の張力を与えることによつて，地表との擦過を防止するわけである。

(建)(設)(便)(り)

電源開発は今時代の脚光を浴び着々とその成果を収めている。

吾が国最大の電源地帯只見川も全国の注視の内に開発されつゝあり，近くは片門，柳津両発電所の竣功をみんとしている。又昨年末までには沼沢沼発電所，秋田県の夏瀬，青森県の滝淵，矢別，新潟県の飯豊川各発電所の新設及改造工事の竣功をみ，2月には宮下発電所の増設工事も終了発電開始の運びにいたつた。これに片門，柳津両発電所の竣功の暁は，総出力100万KWを越し全国3大電力の1として君臨する訳である。実に息つく暇もなく開発は続行され，只見川系に於ては上田，本名両発電所が目下昼夜兼行で進行中であり，岩手に葛根田第1，第2の両発電所，青森に大池第1，第2及松神の3発電所が夫々現地で厳寒猛吹雪をつき悪条件を克服して張り切つておる有様は，名状しがたい尊い姿である。これら各地の発電所を結ぶ送電線も併行して建設され，既に南部では磐梯線，東北幹線，宮下線の各延長工事，宮下沼沢線新設等はいち早く建設をみ，併せて会津開閉所の新設も完成したのである。その後日平線新設計画と共に平変電所建設がなされ，夫々昨年末には完了した次第である。更に北部方面をみわたすと大池滝淵線，大館線及び大弘線の建設を完了し更に新潟には三面線が建設され夫々重要な使命を完しておる状態である。

かくて当社の南部，北部の需要のアンバランスが多少とも解決に近づいた訳であるが，現状はそんな生易しいものでなく現在南部と北部の電力分布は需要の増大と共に益々大きい差が出来，北部は南部に比し極度の不足を来しており，その対策として前述の如く送電系統の整備強化をなしたのであるが，更に今後開発される電源地帯との連絡及東北地区全体の送電系統の合理化を期するため，現在次の工事が建設に着手され，これが完成のときは一応その目的が達成され東北地方の産業発展に益することは甚大である。

1. 東北幹線の増設

既設1回線が完成されておるが今回受電能力増強のため，会津開閉所より仙台変電所迄を1回線増設をするものである。

現在迄測量も終り地主側の交渉及び官庁関係手続きも順調に進み早期建設に所員及び請負業者一丸となつて当つてる。

建設事務所は当初仙台市本店内に置き，現在工事進捗と共に福島支店構内に移転し業務が続けられてる

設備概要

区　間	自会津開閉所　至仙台変電所
亘　長	120.32 KM
支持物	鉄塔，386基（内32基は既設東北幹線の鉄塔と共架せしむる）
電　線	鋼芯アルミニューム撚線
回線数	1回線
竣功期日	28.6.末日

2. 仙台盛岡線

北部地方（青森，秋田，岩手）の地元電源による供給能力は非常に不足しており，今迄の対策として仙台変電所より北上線（6万V）により盛岡変電所迄不足分の供給をしておつたが北上線は現在送電容量以上の送電を余儀なくされ電圧降下及び送電損失甚しく且事故を度々起す状態である。

今回建設せんとする仙台盛岡線は北上線の過重な負荷状態を救い現在生じてる損失電力量を回収すると同時に，東北幹線の増設と相俟つて東北地方の南部と北部を連絡する15万V幹線として使用するものである。

建設事務所は当初仙台市本店内に置き，その間仙台一ノ関間の工事も終り第2期として一ノ関一盛岡間の工事着手に当り現在の岩手県一ノ関市に事務所を移転した。

設備概要

区　間	自仙台変電所　至盛岡変電所
亘　長	170.3KM
支持物	鉄塔　519基
電　線	鋼芯アルミニューム撚線
回線数	1回線
竣功期日	28.6.末日

3. 盛岡變電所

既述の如く仙台一盛岡間の15万V送電線を完成させ既設北部6万V送電線系との連絡のため差当り30MVA×2バンクの変電所を建設して北部地区の需要に応えると共に送電系統の合理化を期せんとするにある。建設事務所は既設盛岡変電所構内に設置し着工に当るもので既に用地交渉官庁手続その他は異状なく進行してる。

設備概要

変圧器	容量　33,000KVA
	電圧　14.7KV
	相　3相
	台数　2台
同期調整機	容量　進相　15,000KVA
	遅相　12,000KVA
	電圧　11KV
	台数　1台
その他屋外鉄構，遮断器類	

工事効果

1. 受電力増大　60,000KVA
2. 損失軽減　92.300MWA

（但し27年度予想潮流による）

3. 東北地区送電系統の合理化

竣功期日　28.7.末日

（建設部庶務係●栗田記）

短歌

本店　長谷部　高

映画館をいでて靄ある泥に立つわが眼に低し赤く濁る月
あきらめを恐るるごとく兄醉ひて母のねむれる部屋に來りぬ
醉ひて言ふ歎きに一夜をりし兄午後の講義をもちてかへりぬ
風の向き変れる歩道よぎり來し地下室に聞く清きクワルテツト
不自由なる右足に君立ちてゆき庭に僅かの鷄糞を売る

本店　河野　広治

小火鉢に煮だつ小豆に見入りつつ子等の語らふ母の誕生日
なだらなる丘の疎林の傷々し折り荒されし木肌の見えて
汚れたる残雪ぬきて背々と鋭きまでに水仙は萠ゆ
逞しき機骨あらはに凄まじくヘリコプターはいま屋上に着く

本店　小野　嘉雄

せく心をさめがたきにひと日終へ凍てつく砂利をふまへてあゆむ
成しえざることにこだはりねしけふの泥濘にこまかき冬の雨降る
屈託なき人の群れ居る駅広場人夫らつみしトラツクが過ぐ
おのづから弱さのありて踏まれぬに凳に解くる新らしき雪

秋田支店　太田瀬　徳

肋骨八本切りたる吾の能力を思ひ寂しむ疲れしるき夜は
幼な子の薬貰ひて雑沓の日昏れの鋪道歩度を早むる
いく人かの発言すでに飽きたらずあくびを一つ吾が噛み殺す
暮れなずむ大学構内行きゆきて歌会に行かむ心靜けし

本店　新山　政志

思想異なれば主張異なりて議事進まず組合大会四時間を超ゆ

宮城支店　高山　美那子

欲しきもの植物図鑑・鳩時計・ハイキングシューズ・光る支那鍋
黒き外套まとひ今宵も帰り来ぬ私はまるで夜みたいだなあ
いつか市電に子に泣かれ居し女ならむゆきずりに見し黄のネッカチーフのひと

本店　高田　修

電話にて争ひしこと気にしつつネオンの街を襟立てて帰る
茂吉の死悼む新聞を切抜きつつ妻に語りぬ「赤光」のことなど
少し醉ひ帰り来たれば事なげにラジオは茂吉の死を報じをり

山郷G　薄　小枝子

吊橋に朝夕ながむる阿賀川の澄みてくろずむ冬来りけり
たまさかに街にて食ぶるよろこびを油にぬれしくちびるに言ふ
水たたふる山のみづうみ思ひゐたり或時のわが心象風景

岩支　及川　樂雲

雪深き沢内村の貝沢へ辿り来にけり一すぢのみち
雪囲ひして明りとる窓小さく昨日の新聞暗がりに読む
村の薪木炭つみて来し橇の帰りは町の魚積み行く

尿すと立ちて眺むる冬空に煙ま直ぐに昼靜かなる
残業を続くるわが身いとほしみ多量のバターを食後に食ふも

秋田営業所　渡辺　としゆき

架線工事やうやく終り赤あかと暮れゆく街をしばし眺むる
計算問題やうやく解きてかへる今日お茶を入れつつ安らぎて居り
暑き日もいつしか過ぎてかさこそと桐の葉落つる靄深き朝

村山　章

グム満ちて揺れゐる芒の一叢にはや昏れゆける水の色かな

選評

扇畑　忠雄

映画館をいでて靄ある泥に立つわが眼に低し赤く濁る月

長谷部　高

特異で印象的な情景である。「靄ある泥に立つ」でこの一首に現実的な襞が打たれている。少し材料が多すぎるのでもつと簡約して一首を透徹させる必要はあろうかと思う。他の四首それぞれにおもしろい。

逞しき機骨あらはに凄まじくヘリコプターはいま屋上に着く

河野　広治

屋上に着いたヘリコプターの姿をよく捉えている。「逞しく」「あらは」と言つているからさらに「凄まじく」とまで強調するのは少し説明が過ぎている。

せく心をさめがたきにひと日終へ凍てつく砂利をふまへてあゆむ

小野　嘉雄

「せく心」というのは唐突な感じがするが、作者の感動はよく伝わつて来る。何か苛立つ心を收拾できないままに夕ぐれの凍てた砂利をふんで歩いてゆくという発想はするどい。

肋骨八本切りたる吾の能力を思ひ寂しむ疲れしるき夜は

太田瀬　徳

「肋骨八本切りたる吾の能力」とは、複雑な現実をよく凝集した表現である。三句以下は一まずこのままでよかろうが、強いて言えば納まる所へ納まつた表現のように思える。

屋上に着く　河野　広治

屋上に着いたヘリコプターの姿をよく捉えている。「逞しく」「あらは」と言つているからさらに「凄まじく」とまで強調するのは少し説明が過ぎている

風邪ひきてわづかな仮眠さめし時林檎の皮むく靜かな音す

青森支店　福田　豊重

かりそめの住居となりぬ子等の飼ふ犬が印せし傷のこる壁
帰りなば先づ古苑の松伐りて日溜ひろげにはとり飼はむ

岩手支店　須田　勉

いつ消ゆるとも見えざりし雪の原春の小川の底に音する

燕営業所　猪俣　一路

酒飲みて共に前途を論ずるに苦しくもあり楽しくもある

めて自然なので、こういう表現に見られやすい嫌味がない。

他に注目される作品一首ずつを挙げる。

電話にて争ひしこと気にしつつネオンの街を襟立てて帰る

高田　修

たまさかに街にて食ぶるよろこびを油にぬれしくちびるに言ふ

薄　小枝子

雪囲ひして明りとる窓小さく昨日の新聞暗がりに読む

及川　樂雲

残業を続くるわが身いとほしみ多量のバターを食後に食ふも

新山　政志

架線工事やうやく終り赤あかと暮ゆく街をしばし眺むる

渡辺　としゆき

本店　相川洋子

盆の上のみかんに葉あり風邪の床
自動車のきらめき通る春立ちぬ
りん〳〵と春の電話のなりにけり

福支　久保乙秋

角巻の農婦にごりし眼もつ
深雪晴しんかんとして松その他
隙間雪よべの糸屑と掃き落す

原町営　杉本文彦

討論のさなか焼芋の笛通る
冬の雷四五戸あまりの灯が寄れる
海鳴りのたかぶり來たり雪もよい

原町営　松坂正男

炭つぐや夜勤の父帰へる頃
退院の列車の椅子に背の寒く
櫻餅まばゆきお菓子店になく

柏崎営　村山章

冬立や雲流れゆく涯に海
荒海や蒋めくごとく油井たつ
寒林の病舎は早き灯をともす

柏崎営　宮山直樹

春雷のそれつきりなり話しつぐ
試験管列らぶ窓辺に轉れり
轉のゆるきながれに雪流る

柏崎営　河内三鬼男

鷹生みて双嶺は深くダムを抱く
多紅葉かそけき光げを奪ひ合ふ
凍てし扉を押し月光にぶつかりし

柏崎営　伊藤睦夫

雪霏々と相逢ふことのなかりせば
雪霏々と愛憎とほくまた切に
束の間を地へ来て吸はる春の雪

柏崎営　柴野村童

炉埃りを浴びてどびろくあたためし
荒海を眞近の畑の冬菜かな
豆の種莫に撰り分けぬ縁小春

佐渡営　椎野告天子

風に鳴る早瀬や温泉の秋深む
休山の門衛は閑赤とんぼ
引越せし書肆に早や佇つ街小春

佐渡営　鎌田嶋城

阻まれし志を嘆じ踏む麦青く
小さき物は小さく覆ひて雪降り止む
雪しまき寺門に寄れば白昼の寂び

葛飾田建　浅沼芦声

菰をきし屍に凍てし星あまた(土工惨死)
河童棲むといふ淵底みゆる冬の川

河原町変　浅田哲心

物干の障子に影や吹雪止む
元日や皿洗ふ音のゆるやかに

会津電力事　村田渓水

遠雪崩筏の下る日和かな
大斧を持ち出し街の雪を割る

原町営　阿部文夫

冬耕の牛曇天をさしえけり
秋風にヒヨツトコ面の口ゆがめ

柏崎営　小川無行子

ダム閘か行秋の木々倒影す
小菊四、五、佛前に挿し供養とす

金沢変　菊地大二郎

門灯をつけて別れや暮の秋
放送劇涙流して毛糸編む

金沢変　土屋丸兒

入院の窓より芒刈るが見ゆ
病院の分娩室の冬灯

新潟支　高木桐舎

この村を再び訪ね雪五尺
集つて除雪人夫の立寒

高田営　宮崎一男

冬日影とゞき養鶏の雛あまた
稀に見る日和を惜み冬囲ひ

高田営　村山喜朗

冬海や漁村の一日つゝがなく
女教師の瞳にあまへ冬の汽車

小出営　関よし

母逝きて干大根の細りけり
層なせる雪の重みや家々に

柏崎営　白井昭三郎

鱈の手をとりかへ橇を通しやる
凍て星や夜光時計の小さき音

柏崎営　若井一郎

掌より掌へたゞそれだけの冬の砂
ビルの窓いくつか灯し冬めける

柏崎営　小川雅善

鷹舞ふやあすの天気を信じつゝ

法要をすます故山や鷹の声

湯沢電　今川翠峰

大寒の深夜ほとほとゝ雪女

原町営　松坂正男

宿直の卓に一輪室の花

会津電力　竹内まんぢ

選後に

梧逸

ひとり揺るたのしさに昏れ鳥威　松沢椿山

「ひとり揺るたのし」さは、絶対の楽しさである。此の場合の心境は「たのしさ」という言葉を超えているともいえる。しかし、我々のもつている言葉では、他に言いかえやうがないとも思われる。——等という解明は無駄であるかもしれない。目をつぶつて次第にくれてゆく田の面に無我の躍りをくりかえす鳥威を思えばよい——

束稲の山の翳れる春隣　境野青葉

左右に裾をゆつたりひいている束稲山が窓いつぱいに立ちはだかつている。今日の空には沢山の雲が浮び流れて、束稲山に翳をおとしては去つてゆく。春がそこまで来たような感じがするのは、野面の雪がまぶしく輝いているせいでもあらうか。

恵方人直住橋を渡りゆく　佐藤睦矢

恵方まゐりといふ正月の行事はいつ頃からはじまつたか知らないが、現代の科学的批判のもとには馬鹿らしいとさえ思はれる行事が、いまの人々にも真剣に踏襲されているということは、何かしら人間というものゝかなしさを思わせる。今年は恵方が拾度その方にあたつたので、直住橋——日本歴史が知らして呉れる古き世の蝦夷武人の名をとつた——の上をそろ〳〵と渡つてゆく人々を見ていると、いまさらながら人の世のあはれを思はずにいられない。

五本飲めば一本負けるおでん屋え　加藤温流

何もしみつたれているんぢやないや、おらア亭主の心意気がうれしいんだ、などともに三本目位からたのしいクダもはじまろうという帽庇の雪払わず少年映画観る　田中天里郷

つか〳〵とはいつて来て、もう吸ひつけられたように面に見入つている「少年」といふものをはつきり画き出している。

自転車のきらめき通る春立ちぬ　相川洋子

硝子戸の中から表の通りを見るともなしに見ると、おりから通りかゝつた自転車の車体がきらり、と光つた。思つて見ると道にふりそゝいでいる日射しも急に明るさを添して来たやうである。もう春だ。

小さきものは小さく覆いて雪降り止む　鎌田嶋城

雪降り止むが利いている。まで霏々と降りしきつていた雪がいつか止んで、雲の切れ目から青空がのぞいている。燈籠にも雪がふつくらと積んでいる。大きく、小さいものには小さく。

この句を読んで門脇白風氏の「丸々と何高らむや雪の庭」という句を思い出すが、雪降り止むと言つていることで、作者の目のおどろき、心の動きがきわめて自然な経過をたどつて、理解される。

集まつて除雪人夫の立寒　高木桐舎

立寒というのが面白くもあり、自然でもある。深々と降りつもつた白雪の街もたくましい労働者の姿もこのまし〳〵見えてくる。

母逝きて干大根の細りけり　関よし

母が亡くなつてから、二七日も三七日も夢のように終つた。目をやると、納屋の壁にそうて干してある沢庵漬の大根も大分干せ細つて来ている。やがて、沢庵も漬けねばならぬ。年々今頃沢庵をつけることに忙はしがつていた母であつた。しんみりした哀感も真実の句なればこそである。

鱈の手をとりかへ橇を通しやる　白井昭三郎

雪の中に、人の通るだけのみちが出来ている。それはお互に譲りあう心もちでなければすれ違うことがむづかしい位の道である。おそらく当人がはつきり意識しないやうな動作が、かぎりなく温い情を語つてくれる場合の一つである。

以上の外左の句が目にとまつた

道端の月山さまの注連飾　千葉帥平子
梅一枝モーターマンは朗かに　河野ひろじ
路地を行く機の魚の大きくて　草野好輝
冬の雷四五戸あまりの灯が寄れる　杉本文彦
試験管列らぶ窓辺に轉れり　宮山真樹
雪霏々と愛情とほくまた切に　伊藤睦夫

×　×　×

左の四句は本号割愛せる重複分の中より

ポケットに飴しのばせて麥をふむ　千葉帥平子
銀杏黄葉童らいつも日だまりに　同
亡き母にあてし賀状の届きけり　山本テル
勤より帰れば掛を置いてあり　関よし

俳句

遠藤梧逸選

人の寄る水のわずかに芝枯るゝ　本店　松沢椿山
連れ歩くことの戀めくほどに霧
ひとり揺る愉しさに昏れ鳥威し
奥の院に後架ありけり冬薔薇
八つ手葉に刷く雪音の昏れており　仙台盛岡線　境野青葉
自転車を抱えて雪のバス除ける
束稲の山の翳れる春隣
手拭で頬冠りして雪割りに　岩支　及川有哉
伊豆沼に波立ちそめし葦を焼く
あたゝかき日を得て桑の彼岸切　岩支　佐藤棘矢
惠方人貞任橋を渡りつゞ
看護婦のかゝげてくれし初暦
大学の寮母淋しく初電　二株の芭蕉を囲ひ冬構
馬の首伸びくる手元炭俵を編む　本店　長倉義光
鮒釣るや藏王霞めば風おちて
水門の日だまりぬくし遠藏王
巣離れの鮒みえかくれ猫柳
手持鮒触れたるらしく声ゆるゝ　福支　鈴木一睡
印し去る大樑のふかぶかと
餅花を自在に結び炉火高し
水神を齋く餅花地に挿せる
霜除に挿せる餅花ポンプもむ　小出営　山本テル
寝姿の小さき病母や秋の暮
正月の事云いおきて逝きし母
病床に脱穀機の音なりやまず
すりおろす柚子の香みてり夜の厨　岩支　千葉卅平子
爭議に負け僅かの金を得て暮るゝ
道端の月山さまの注連飾
秀衡の椀に雑煮を盛りにけり
雪に径つければ犬も來て歩く　青森営　小山内凍蝶
寒灯に寄るともなしやバス待てり
坂のある町なりそばを売る灯かげ
赤の濃き口絵マチスや菊の花　米内発　加藤溫流
五本飲めば一本負けるおでん屋へ
人夫より炭焼くはまし兎鍋
半農の炭焼きをやめダム人夫　岩支　及川有哉
落葉松に冬日の当る峠かな　無電灯村藪川村を訪ねて
村に電灯点くる話や炬燵酒
スチームが通らず車掌言ひ訳を　秋田営　田中天里郷
スキー穿く髪雪嶺に向けて垂れ
雪山を越え得る位置にスキー穿く
帽庇の雪払はず少年映画観る　本店　河野ひろじ
下崩や碑が一つなる父母の墓
梅一枝モーターマンは朗かに
白魚や劇団女ばかりなる　本店　草野好輝
駅多忙汚れし橇の並びいて　荒前森
路地を行く橇の魚の大きくて
陸奥湾の波静かなり雪却す　本店　新山政志
闇汁のにほひに分け手張り切れる
闇汁の供をあれこれとぬかる道
訪ふ人も絶へ門松に風立ちぬ

社誌編集委員名簿

本店編集委員会

（委員）

社長室	星	清次	(1)	総務部	岩本	長三	(2)
経理部	東	正男	〃	〃	江川	輝泰	〃
給電部	村山	浩	〃	資材部	指田	文男	〃
電気部	三瓶	利久	〃	営業部	横山	照夫	〃
建設部	中村	衛	〃	労務部	松沢	嘉	〃
				土木部	江口	栄蔵	〃

（幹事）

総務課	土本	善平	（発行編集兼印刷人）
〃	高橋	勇治	総務課　菅　雄吉

〔註〕 (1) は第1小委，(2) は第2小委担当を示す

各支店委員会

（幹事）

青森支店	佐藤	允夫		新潟支店	高木	茂夫	
秋田〃	藤井	吉男		会津電力事務所	竹内		孝
宮城〃	満田		良	東京事務所	連山	仁一郎	
岩手〃	中村		盛	電気試験所	古山	健次	
山形〃	大庭	久蔵		夏瀬建設所	山下	徳秋	
福島〃	浜島		崇				

原稿募集

第11号の原稿を募集します。

締切は　4月末日

論文	8,000字以内
資料	〃
報告	〃
通信	3,000字以内
解説	2,000字以内
創作・随筆・エッセイ	8,000字以内
俳句（5句）	遠藤梧逸先生選
短歌（5首）	扇畑忠雄先生選

応募はなるべく各編集委員会宛にお願いします。

編集後記

○社誌は当社独特のもので，他の8電力会社でこれに相当するものは発行していないようである。他社の社報には公文式や通牒などの他，業務に関する論説資料解説など掲載しているものがあり，夫々の特色を有している。殊に東京電力のものは優れていると思う。

○当社の社誌は業務に拘束されることなく，随筆や創作まで載せて居り，従業員の一般的教養の向上に資するところ多いと思うが，こういう形式の社誌の発行を許容されていることは，何といつても大きい特権であり，主脳部の雅量に対しては大きな敬意と深い感謝を感ずるものである。何とぞ充分に活用されることを期待する。

○今号は専門的な研究が前2，3あつたが，編集の都合により次号廻しとした。研究論文の図面やデータはその論文の価値を決める要素であるが，社誌の性格上あまり専門的に亘るのは避けたい。図面等はなるべく一般的概括的なもののみに止めていただきたい。今号の研究も大分図面やデータを割愛している。筆者の御諒承を願いたい。（K）



昭和28年3月25日発行
（隔月発行）
発行所　仙台市大町五丁目19
東北電力株式会社
発行者　土　本　善
印刷所　今　野　印　刷